

新しい半世紀に向けて

# 淀文 DENKO 江

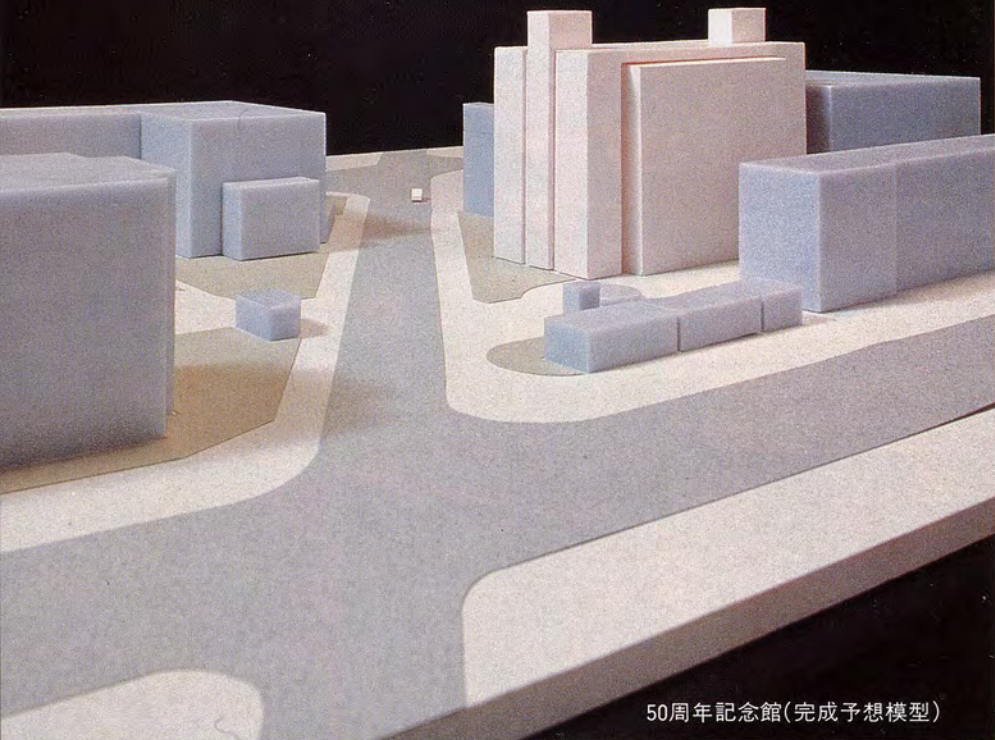
神戸須磨ゆき阪神電車のりば

阪神百貨店



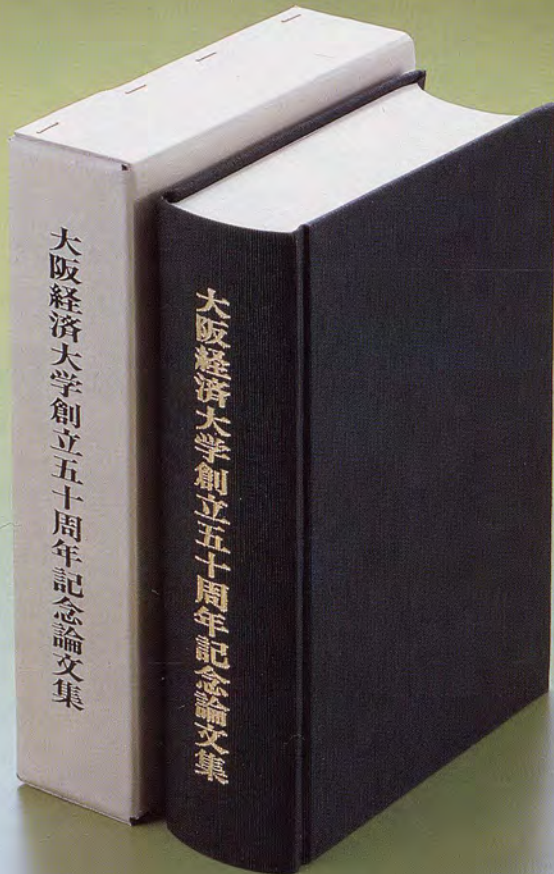
'84

大阪経済大学同窓会



50周年記念館(完成予想模型)

# 新しい半世紀に向けて 創立五十周年記念事業



新しい半世紀に向けて……………	1
五十周年記念式典・祝賀会挙行される	
●同窓会本部だより……………	14
昭和五十九年度理事会・総会盛会裡に終了	
●学園の近況……………	38
人事・昭和五十九年度入試結果・昭和六十年推薦入学・就職関係・国庫助成・新刊紹介・本学で開催された学会・学生生活実態調査・公開講座	
●キャンパスだより……………	58
日本拳法部・軟式庭球部・準硬式野球部・カヌー部・応援団本部・ワンダーフオゲル部・芸術会 その他の体育クラブ活動状況・淀都五大学総合定期戦 硬式野球部 一に練習、二に練習で優勝 硬式野球部より感謝とお願い 関西六全連盟代表理事 滝 重一 硬式野球部 監督 仲川 雅俊	
●北から南から……………	80
全国、同窓生の近況、希望、アンケート結果感想 今や四万四千余名の同窓会組織 自由活発な交流の拠点として 活用して頂きたい……………	14
同窓会会長 磯野 斉	
学園活性化計画にご協力を……………	38
学長 鈴木 亨	
同窓会支部だより……………	18
愛媛支部が誕生、北摂支部も結成へ	
ゼミ短信……………	48
同期生クラブOB会……………	64
同窓会支部役員……………	93
事務局だより……………	94

## 総会で逢いましょう!!

●とき 昭和59年11月3日(祝日)  
11:00 59年度同窓会総会  
12:30 懇親パーティ

●ところ レストランパレス  
ラ・クール (新阪急ビル12F)

●参加費 ¥5,000

●簿記会計研究部OB会・ハンドボール部OB会の総会がパーティ後に同所で開かれます。

仲間をさそって! もり上げよう!

表紙の写真は現在の大阪駅周辺  
"アクティ大阪"(新しい大阪駅)  
を御堂筋側から見た風景です。



学校法人大阪経済大学創立50周年記念式典



鈴木 寛 学長挨拶



## 式 辞

大阪経済大学は、本日創立50周年記念式典を行うことになりましたが、ここに各界を代表して、かくも多数の方々のご臨席をたまわりましたことは、本学関係者一同にとり、この上ない光栄かつよろこびであり、大学を代表いたしましたして、心から厚く御礼申し上げます。

（中略）

顧みますと、今日この様に発展しました基礎は、昭和10年に改組・誕生しました昭和高等商業学校時代に培われたものと言っても過言ではないと思います。すなわち、その昭和高等商業学校の設立に当たっては、時の文部省・大阪府・大阪市は勿論のこと、教育界・財界こそって惜しみなく支援を与え、また黒正博士の友人からの善意と協力など、一切が見事に相融和して、名実ともに備わった学園に結実いたしました。その上、黒正校長の青年教育にける情熱は、無限の抱擁力と無私そのものの人格に、学園は打って一丸となり、若さあふれる自由で進取の気象が学内に充滿しましたが、この気風はその後も絶えることなく学園に定着し、本学を支える大きな活力源として今日まで躍動しているであります。

とくに、学問をあらゆる権力から独立させ、学問をして真に学問たらしめる現在の伝統も、実はこの時に芽生えたのであります。それは、本学の特に誇りうる特質ではなからうかと、自負しております。

この伝統の下で、育まれ果立った有為の人材は、すでに4万2千名にもほり、これら諸君は社会のあらゆる分野で現在活躍中であり、社会の進展にいささかでも貢献しております。いまや50周年を迎え、本学はこれを転機として、教育・研究体制に反省を加え、一層の整備・充実に努める積りでございます。

その具体案については、のち程ご報告申し上げます。

今日、世界の歴史は大きな転換期にさしかかっております。すなわち、先進国を築き上げてきた近代工業社会の物質文明は、ある意味では、行き詰まるに至ったのみか、地球の貴重な資源も全く使い捨て同様の浪費を重ねており、一方、人間の精神も、この複雑多岐な社会情勢の下、不安と絶望に陥り、既存の価値観では、もはや、対応できない所へ追い詰められている状況であります。この混迷する

社会を見すえ、その救済を講ずることこそ大学に課せられた、一つの大きな使命であります。従って大学は、歴史の現実をふまえ、新たな人類の未来への文化創造に向け、新しい道を切り拓いて行く、バイオニアの使命を負わされている訳であります。

このことから、本大学におきましては、この50年という、歴史的節目に当たる意義を重視し、人間の尊重、人間の価値およびその理想を追求する砦として、また、来るべき21世紀に向けて翔ぶ、文明文化を創造する学園の府として、位置づけるとともに、その具現化に向けても渾心の努力をいたしますことを、本日の式典に誓うものであります。

ご臨席の各位におかれましても、今後とも、大阪経済大学がより一層発展いたしますよう、なお一層のご支援・ご数示をたまわりますことをお願い申し上げます。

昭和58年11月2日

学校法人大阪経済大学理事長代理  
大阪経済大学 学長

鈴木 亨

# 五十周年記念式典・祝賀会挙行される

昭和五十八年十一月二日(水)、午前十一時三十分から新阪急ホテルにおいて、盛会裡に挙行されました。参加者は来賓、法人役員・評議員、同窓生、大学教職員など約八百名。

## ●同窓会総会

大学の五十周年記念式典に先立ち、午前十一時三十分から「星の間」において、昭和五十八年度同窓会総会が行われました。

## ●式典

「花の間」において午前十一時三十分、玉岡式典等実行副委員長の開会の辞で開幕、鈴木亨記念事業副委員長が式辞および記念事業報告(別掲)を、次いで成瀬記念式典等実行委員長が沿革報告を行い、学園関係物故者に対して黙禱を捧げました。

引き続き、文部省沢田道也審議官から文部大臣祝辞(代読)、大阪府中川和雄副知事から大阪府知事祝辞(代読)、大阪市西尾正也助役から大阪市長祝辞(代読)、大阪商業大学谷岡太郎理事長から日本私立大学協会代表祝辞、卒業生代表として同窓会磯野斉会長、父母代

表として後援会望月清会長からそれぞれの祝辞を頂きました。

このあと、大阪府岸昌知事ほか、摂津・西宮・奈良・茨木市の四市長、日本私立大学協会高橋末雄理事長ほか四団体、衆議院湯川宏議員ほか六議員、関西大学大西昭男学長ほか六十三大学、住友銀行磯田一郎頭取ほか二十三行、(株)ダイエー中内功社長ほか二十社など、多数の祝電披露があり、最後にグリーンクラブの学歌斉唱で閉会しました。

「花の間」に入場できなかった人たちは、「星の間」でのVTRを通じ、式典に参加しました。

## ●祝賀会

十二時三十分から「紫の間」において祝賀会が行われました。進行役はテレビ山口の小林真人氏(32)、学長挨拶ではじまり、大阪工業大学青井忠正常務理事、阪南大学裕正夫理事長、同窓会渡辺達好名誉会長からスピーチを頂き、色川幸太郎法人理事、岐阜経済大学建林正喜学長、鈴木学長により鏡開き、同窓

会世良鍊次前会長の音頭で乾杯、祝宴に入りました。お祝いの三番叟、マンドリン・グリーンクラブの出演で一段と花やかさを添え、最後成瀬式典等実行委員長の謝辞で締めくくられるまで和気あいあいの雰囲気でした。

## ●記念事業報告

- 1、「五十周年式典ならびに祝賀会」の挙行
  - 2、「五十周年記念館」(仮称)の建設(クレーンピア)
  - 3、募金実行計画
  - 4、記念学術論文集の刊行
  - 5、記念学術講演会の開催
  - 6、写真集「半世紀のあゆみ」刊行
  - 7、永年勤続者表彰
  - 8、学園功労者表彰
  - 9、学園関係物故者法要
  - 10、年史編集事業
- 関連事業として  
公開講座の開催  
日本経済史研究所創立五十周年記念事業

# 式典に参加して

## 第三回卒 渡辺 達好



昨年の十一月二日、本学の創立五十周年の祝賀式典が梅田・新阪急ホテルに於て文部大臣を初め、大阪府知事、大阪市長、その他大学に縁の深い関係諸団体の代表や近隣交友大学の代表、並びに我が大学の運営に常に多大の御力添えをいただいている多くの役員の方々と、先生や本学現職の教職員各位、さらには本学創立以来多くの貢献と業績を残され今なお御健在の懐かしい旧恩師の諸先生方、また、この五十年の歴史の中に母校に於て育まれた新旧卒業生の皆さんが多数出席されて、昔日の思い出を偲びながら極めて厳粛の中にも盛大な記念式典がとり行われ、出席者一同特に同窓生の我々にとっては何ともいえない感激を覚えた次第です。思えば、私等幸いにも学園創

設三年目に入学を許され、卒業した者にとつては創成期の三年間の学生生活の一つ一つが忘れ難いものばかりであります。恐らくは母校を卒業した同窓生諸君の一人一人の考えもまた同様であろうかと思えます。この五十年の歴史を思うにつけても、真先に私の頭を駆け巡るものは、本学創設者黒正厳先生のこと、に及ぶのであります。先生に対する大恩は終生忘れることは出来ません。さらには、今は亡き有田邦敬元京阪電鉄副社長や現理事長の藤田敬三先生は勿論であります。故菅野和太郎先生や当時常に慈愛に満ちた温情をもって教育指導にあたられた今は亡き多くの諸先生、さらにはまた、御存命中の旧き恩師の面影が次々と浮んで参り、今日の経大に多大の力となられたことを深く感謝申し上げる次第でございます。我が大学の特質は黒正先生の標榜された自由と融和の精神の中に学問の心髄を深く究めて立派な社会人となるべき人士を世に出す事でありませう。

今は本学創設以来四万三千名余の卒業生が実社会に出て現在日本各地に於て激甚なる経済社会は勿論、政治社会や各種各様の分野に於て大いなる活躍をされております。就中、

海外に於て国際人として活躍されている多くの卒業生もおられます。誠に喜ばしい限りといえましょう。この五十年の歩みこそ尊い歴史ではありますが、顧みてこの五十年が必ずしも順調な足どりで経過してきたものとはいえないであります。半世紀の過程には幾多の苦難もあつたことと思えます。その点到底私共の計り知ることの出来ないものがあつたろうと思えます。将来ともこの発展への道の中にもなお計り知れざる難問も続くであります。さりと我が大学は永遠に生き続き、栄えていかねばなりません。日本の国のためにも、国際社会のためにも建学の精神を守り、自由と平和、繁栄を旨として活躍する多くの人材育成に大学関係者が挙げてさらに一層の御尽力をお願いし度いと思えます。最後になりましたが、私共多くの卒業生の中には過去の戦争のため死没され、また、不幸にも病魔のために途中で天逝された多くの卒業生に対し、この五十年の輝かしい母校の発展を御報告申し上げると共に、あの世から小我が大学の永却の繁栄に庇護あらんことを黙念合掌致す次第であります。

(同窓会名誉会長)

第一回卒 宇野 善四郎



昨秋、大阪新阪急ホテルにおいて、学界は

勿論、関係政財界の要人、多数ご列席のもとに母校創立五十周年記念式典を、実に、盛大に挙行されましたことは、まことに芽出たく大変意義深きことと、ご同慶の至りに存じます。

また、この栄ある式典に、第一回生として参加させて戴いた喜びは、筆舌には尽し難い熱い感銘とともに、生涯忘れ得ぬものとなることでしょう。

創立当時、昭和七年三月、瓦屋町の仮校舎で、浪華高商として、孤々の声をあげて以来、

この間、五十有余年、迂余曲折の波瀾万丈の歴史でありました。又、それだけに我々第一回生の受ける感激は、より深いものがあると云わねばなりません。

さて、大学当局への提言ですが、最近の風潮として、私学は大変好評です。私学の利点の活性化とともに、大阪経済大学として、経大の特色を大いに發揮し、今後尚一層、経大の名声を高揚されますよう、お祈りして止みません。

(宇野商事(株)代表取締役)

第十一回卒 桑津 昇



式典に参列して、唯々云い知れぬ感激無量のものがありました。私は、戦中派昭和十七年に昭和商高に入学、同十九年九月に繰上げ卒業、入隊と経過したもので、在学期間は戦争末期の二年有半、それ以前の校歴は知る由もありませんが、在学時の一駒一駒は恰も生きるが如く、時に眠るが如く、脳裏に読み

返って浄化され、懐かしい青春情熱の一頁として、華やかなセレモニーとともに表裏一体となり、自らも今日の良き日の演出者の一人として、楽しく生きる、否生きてきた喜び、現実をしみじみと味わったものでございます。

反面、五十一年よりの歩み、発展充実を夢でなく、現実にはせねばならない愛校心、私学とくに文化系単科大学の一瞬たりとも揺るがせにすることが許されない緊迫した宿命を、校友の一人として非力であればある程に、その秘めた焦燥と期待が交錯するのでございます。学園自体があるべき姿、同窓校友のあるべき姿、ともに夫々が独自に、また時に一体融和して如何なる場合にも後退なく、前進あるのみを、学是相言葉として、点を線として、着実に縦一線を歩む路線と、一挙に横一線に

て並行する路線、私は前者は学園自体の道であり、後者は同窓会、校友の個々の取り得る道であると信じ、五十年式典の華麗な舞台を山吹の花に終らさぬ為、此の際、個々の生活、生甲斐、使命観を夫々個性を温存しつつ、外に良識と行かなくとも常識、礼儀作法で薄化粧し、内には核の融合に勝る程に、黒正建学の精神を現代より未来を約束づけ得る、力強くも爽やかな「ニュー大阪経済大学イズム」として標榜し、実らし得るよう銘肝すべきであり、私自身はそうあり度く、また好むと好まざるとを問わず、同窓会役員の一員として今後の指針を確と見出したような思いでございます。

心から大学の充実、栄光を願って拙筆を置きます。

(千代田商事(株)代表取締役)

第二十二回卒 古谷 七五三次



現在の世相のように、多くの人が物質的利益を追求し、我欲を満たすことのみ東奔西走

するこの世の中において、衷心から打ちとけて互いに協和協力し得る者は、実に同窓生であるということが出来る。私学においてはとくに特色のある学風のもとで、自己が信頼し得る教授・先輩を慕い、懐かしく等しい環境で学んだという、共通の体験があったからで、母校とは人生のオアシスであり、失うことのない生涯の宝である。その母校の五十周年式典に参加できたことは、私にとって無上の喜びと感激でありました。五十年といえは半世紀、母校が社会に貢献する人間を育成した歴

史を、今日、これを回顧することによって、また将来立派な社会人を養成する資となり、この具体的な歴史こそが将来、母校の原動力となつて、理想の学園が建設されるので、この意味でも式典の意義は深い。母校が五十年の歴史と伝統を以て、教育に貢献されたことは今更いふ必要もないが、私学はその建学の精神を生かした教育こそ、社会にあつて世人から尊ばれる所以である。

(学校法人大阪産業大学常務理事)

第二十二回卒 谷口 一郎



昭和五十八年十一月二日、大阪、梅田、新阪急ホテルにおいて大阪経済大学創立五十周年式典が盛大裡に行われ、その祝賀会は、ご来臨の方々に、その広い会場が埋めつくされ、

明日の大阪経済大学の前途洋々たることが内外より祝福されただけでなく、それが立証された誠に華やかな、そしてまた、実になごやかな最大級の祝宴であったと思います。

創立以来五十年、母校大阪経済大学は全国の私立大学の中では数値だけの比較でみれば、その規模は小さく、歴史の浅い部類に属するといえますが、堅実経営と、保有図書四十万冊にみられるように、真理を深く求める教育理念とが一致し、充実した内容で全国にも胸を張れる大学であると確信致しております。

さらに百周年に向けて内容充実のために、

運営方針の志向を転じ、物心両面、質量ともに全国に冠たる大学になるよう大学当局の英断をもつて将来の計画と、その実施のための格別のご努力をお願い致します。

申すまでもなく、同窓会は母校の将来計画の推進に対しては、大学当局と表裏一体となつて、その実現に英知と総力を結集致すことはいまうまでもありません。

全国三十支部と四万有余の同窓生の皆様の各地、各方面でのご活躍とご健勝を祈念致しますと共に、母校創立五十周年を機会に、これからの同窓会の活性化と百周年への発展のために格別のご協力をお願い申し上げます。

(浪速通信機(株)代表取締役)

# 祝賀会に参加して

## 第二回卒 青木 梅二

卒業以来、四十七年ぶりに初めて出席したのですから、初めは不安と焦燥にかられましたが、鈴木先生の式辞を聞き、学生諸君の逍遙歌を口ずさむ内に次第に落ち着いて参りました。

祝賀会に入り、経大事務局の方にお会いして杯を重ねる内に一回卒業の先輩にお目にかかり、藤原先生初め同級の富田・阪口君等にお会い出来、昔話に花が咲き、和気あいあいの内に時間が過ぎてゆきました。その話の中に隠された事実として、創立当時の思い出話が出ましたので記述しておきます。

創立に際して、黒正・菅野両先生の偉業は立派なもので、皆様方もご存知のことですが、

当時は戦前で陸軍省より派遣されてこられた池田耕一中佐に、我々若き学生は非常に庇って頂きました。元より学校は文部省に属するわけですが、戦時色の強まりつつある当時としては、配属将校を引きあげた場合、学校は廃校になる場合が多かつたらしいです。施設・備品の十分でない当時、当校としては池田中佐の考え方によって左右出来たともいえるわけです。然しながら池田中佐は断固として学生の為に残る事を決意されたとのことでした。今から思えば懐かしい思い出です。

(同仁製薬(株)相談役)

## 第十四回卒 黒瀬(木村)貴多子

昭和二十年から二十三年、戦中戦後の激動期に入学、卒業した私にとって、経大の五十周年の記念祝賀会に参加させて頂いたことを

大変喜ばしく存じます。同期の小松様、柴田様、鷹野様、苗代様、上野様等にお逢いし、青春の日々を取りもどしたようです。同行の筒井様が、上級、下級の方々をも良くご存知で、親しい感じがしました。祝賀会の入口に

は、記念館の模型があり、立体的な流れの美しさに見とれてしまいました。多様化の現代に心しく、弾力的に、使用されるのか。また学長、来賓の方々のご祝詞その他も和氣藹々のうちに進行し、三番叟の祝舞もあり、同期の野島様やその他の方々のお話しもはずみ、大いに会食。恩師を多くの方が囲んで談笑しておられるのを見て、より一層の風格は勿論

のこと、全然お変りないなと思いつら、ご挨拶の時を失ってしまひヤアヤアの時から、もうソロソロのねの時になつてかううじて、同期の孝子様も夫君でもある渡部先生にご挨拶しました。当日の二次回は、後日の楽しみにして帰路に。楽しい楽しい一日でした。新国語辞典大変重宝しております。

(株黒瀬商会取締役)

## 第十九回卒 牧田 安夫

十一月二日、祝賀会への案内をうけて、東京から鮫島・西山兄らと出席した。

会場に入るや、あちら、こちらから声がかかる。そこには、語らずとも心の通う懐かしい顔、何十年振りかにお会いする恩師の顔、そして、その顔には、お互いに母校の五十周年を祝う喜びの色があつた。

まずは、乾杯、乾杯。

話は、すぐ、大学昇格時の苦勞話から始まる。校歌にも「学徒師弟が、幹負いもちて、諸汗に、確かと植えた……」と、うたわわれているとおり、文字通り先生と学生が一体となつて、校庭の草取りまでした話等々。やがて、あまりにも早くなくなつた黒正

先生の思い出話となる。

その時、ふと、岡山の寿司屋の湯呑みに書かれていた先生の和歌を思い出した。

ひたぶるにわが思うことなしてこそ

この世に生けるためしありけれ

先生がこの学園を創設し、その発展に尽力されたことも、「ひたぶるにわが思うこと」の一つであつたことは、うたがひもないと思うとすれば、それからの発展を願うとき、学園をあげて、「この世に生けるためし」として努力することこそ、先生の意志にそうものではなからうかと思つた。顔見知りの若い同窓生が近づいてきて、みんなの祈りを代表するように杯をあげて叫んだ

「わが大経大に栄あれ」

(元東京都庁都民政策局広報部長)

## 祝賀会の司会をお受けして

### 第三十二回卒 小林 真人

卒業して十八年、新幹線の車窓から眺めるだけですが、その度に母校の変わり様にびっくりするとともに、四年間をすごした青春の思い出が脳裏をかすめます。

事務局から記念祝賀会の司会依頼があつた時、当日はウィークデーで、ワイドニュースの担当日でしたが、交替をたのむことにし、二つ返事でこの大役をお受けすることにしました。

当日は予想をはるかに越える出席者で、大盛会。五十周年祝賀会という晴れの舞台での司会をさせていただいたことを、誠に光栄に思っております。司会の途中「あの声に聞き覚えがある……」と卒業以来、初めて顔を合わせる先輩後輩をはじめ、ゼミの岩井先生も舞台の袖にお越しただくというハプニングもあり、楽しい一時をすごさせていただきました。

さて、五十周年を記念した「公開講座」は大盛況だった様ですが、生涯教育が叫ばれている折、これを機会に、ぜひこの企画を続けられ、先生方も積極的に学外に出て、社会参加をして頂くことが開かれた大学「づくり、地道ではあるが、本学の名声を高めるのに大いに役立つのでは……という感じを持ちました。

(テレビ山口報道課長―ニュースキャスター)

## 一〇〇周年に向つて大きくはばだけ

### 第二十四回卒 武安 一明

めでたく五十周年を迎えられ、ご同慶の至りである。華やかなパーティにお招きいただき誠に感無量であつた。

記念すべき式典にふさわしく、各界から多数のご来賓があつた。その模様を、より見やすくするために、モニターTVを使用。細かい心配りがみられた。パーティ会場には入りきれぬほどのご来賓。

パーティの楽しみは、日頃、お目にかかれない方々と会えることにある。いろいろな方と久しく会えた。恩師の倉辻教授にご挨拶申し上げることができたことは、何よりも嬉しいことであつた。

五十周年という大きなひと区切り。これを機会に今後の大学運営のあり方を再検討してもらいたいものである。他校の目ざましい躍進ぶりをみてみると歯がゆい思いがする。今後ますます、他校との特徴的な違いが、一般の人々には分からなくなつていくのではないか。

直面する諸問題を着実に解決して、めでたく先々の喜びを噛み締めてもらいたいものである。飛躍的な発展を願つて止まない。

(株電通大阪支社第四営業局副理事)

### 第二十一回卒 山口 義孝

秋深い昨年十一月一日、新阪急ホテルでの五十周年記念祝賀会に出席させていただきました。会場は溢れるばかりの出席者で、来賓をはじめ、恩師・諸先輩が多数集われ、大宴会場は喜びの熱気に満ちておりました。

五十年と一口ではいえませんが、母校が歩んで来た道は決してなまやさしいものではなかったと思います。戦中・戦後の昭和動乱期、その荒波をよく乗り越えて、大きな礎をここ

に築かれたと思います。上新庄の旧校舎のたづまいを思い浮かべながら、その発展ぶりを祝福したいと思います。

会場では、同窓会発展に大きな功績を残してこられた大阪日産自動車の世良元会長にも久方振りでお会い出来ましたし、また意外にも大阪同盟の本田書記長が同窓とは全然知らず、驚いて挨拶させていただいた次第です。いろいろなハプニングに会いながらも、楽しく有意義な交換をさせていただきました。

(大阪府生活環境部消費生活課長)

### 第三十回卒 神田 博

十一月二日は経大卒業生にとって非常に晴れがましい一日でした。新阪急ホテルにおいて行われた五十周年式典は全国の先輩諸氏が参加され、会場に入りきらず隣りの室でもTVによる位の盛会となりました。出席者の皆様方の明るい笑顔と、誇らしげな興奮がうずまき、活気あふれる大会でした。小生もワン

ダーフォーゲル部のOB諸氏と参加させて頂きました。久し振りに恩師や先輩と会えて、本心に懐かしく楽しいひとときでした。

小生は昭和三十五年入学三十九年卒業ですから、今年で丁度卒業二十年となります。六十年安保の最高潮のうねりの中で右も左もわからず連日デモ行進にかり出されたことが夢のようですが、今でもあの興奮が忘れられない大学生活の第一歩でした。と同時に学園に

おいては、設備の拡大と充実にむけて全力をそそいでいった時代でした。江口グラウンド、学生寮、現在のC館、D館等々その充実ぶりには目をみはるものがあり、学生数の増大とともに単科大学からの脱皮をはかりつつある四年間でした。祝賀会に参加して学生生活が

より一層懐かしく思い出されるのも学園自体が発刺とした成長期であり、一年一年の変貌を目のあたりに見た為でしょうか。小生にとつ

て、多感な青春時代を本学で学んだことは大変良かったと思います。

創立百年に向けて第一歩のスタートをきりましたが、母校の名を高め、より魅力ある学園となるよう、理事長、学長を先頭に先生方、同窓生、在校生が全員一丸となって惜しみない努力を続けて欲しいとただただ念じております。

(株互省製作所大阪支店)

### 第四十一回卒 山田 正人

創立五十周年の祝賀会に参加して、私はあの盛大で華やかなイメージと対照的に、わが母校の置かれている現状に少し淋しい気持ちが致しました。私が母校の同窓会役員になって七年近くになりますが、その間、入学や就職状況での地盤沈下が著しく、二、三の新設大学に押され気味だと聞かされ、誠に残念です。本学は今の学科を細分化して学問の領域を掘り下げるか、経営効率のいい総合大学へ方向転換するしか道はないと思います。そして私が一番心配していますのは、母校に引きづら

れ、同窓会まで地盤沈下するのではないかと、この際大学の執るべき方向性と経営理念を確立し、ビジョンを立ててみては如何でしょうか。

もちろん私たち卒業生も、協力出来ることは可能な限り、喜んで協力を惜みませんが、母校の将来や展望を考えると、素直な気持ちでこの五十周年を喜べないのが、私の偽らざる気持ちです。

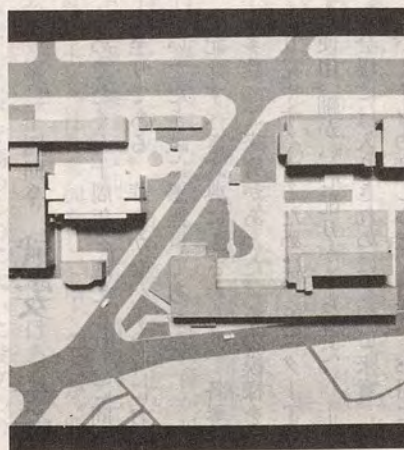
(守口市役所教育委員会  
守口市立庭窪公民館)

### 50周年記念館(仮称)の建設計画

式典当日、鈴木亨記念事業副委員長から、記念事業の報告のなかで「50周年記念館」(仮称)を建設する構想が発表されました。

これは、かねてから西学舎の活性化をはかるとともに本学の教学設備を充実する目的で検討されていましたが、学内諸機関の了承をえて、50周年記念のメイン事業として披露されるに至ったもので、その内容は次のとおりです。

なお、内部構造、設備関係等の具体化は、記念事業実行委員会において検討を進めていく予定です。(59年7月現在)



〔建物概要〕

総工事費 十三億円  
着工 昭和六十年二月(予定)

工期 一年一ヵ月

階数 七階建

延床面積 四六六二平方メートル(一四一〇坪)

#### 〔内 容〕

一、展示室

二、大会議室・中会議室・同窓会ホール

三、ロビー・学生談話室

四、電算室関係・ビデオ教室・教室等

#### 〔建設場所〕

西学舎(現B館)の一部をとり壊し、その跡地に建築する。

### 50周年記念式典関連行事

○写真集「半世紀のあゆみ」刊行

五十八年十月二十日

○永年勤続者表彰式 五十八年十月二十日 於学内

○記念学術論文集の刊行 五十九年六月

○第2回公開講座「経済・文化セミナー」開催

五十九年八月二十四日～九月十四日

○記念学術講演会開催  
講師 堤清二氏

五十九年十月二十七日

○功労者感謝状贈呈 未定



# 同窓会本部だより

## 昭和五十九年度理事会・総会 盛會裡に終了

昭和五十八年度決算・昭和五十九年度予算(案)満場一致で可決。

### 同窓会機関誌「澱江」を有料に 会員名簿の充実にご協力を

59年度理事会

◇昭和五十九年六月二十三日(出)

◇新阪急ビル十二階、レストラ

ン・パレス

◇議案

第一号議案

昭和五十八年度決算について

第二号議案

昭和五十九年度予算(案)につ

いて

第三号議案

役員改選について

第四号議案

その他

◇司会 比企事務局長

◇定刻六時、司会者より開会宣言。

◇磯野会長挨拶。

◇司会者より議案審議のための議

長選出方法について提案の結果、司会者一任を満場一致で承認、司会者より議長に広田氏(1)を選出指名。

◇広田議長就任挨拶のあと、ただちに議案審議に入る。

◇第一号議案

平尾会計部長(28)から昭和五十八年度收支決算について各項目別に説明がされた。

山上監事(2)から監査報告がされた。

◇第二号議案

谷口総務部長(29)から昭和五十九年度予算(案)につき予算編成の趣旨を各項目別に説明、提案された。

り事務局長が回答。

第一号、第二号議案について一括審議に入る。  
陰下理事(16)より予算(案)収入の部「澱江」収入について補足説明の要請があり、議長より、川野編集部長(20)が指名された。

川野編集部長より「澱江」は同窓会と大学、ならびに同窓会の諸活動などを、一年に一回コミニケートする唯一のものである。

年々会員の増加による発行部数の増刷に伴う支出増を、単に会費収入のみで賄っていけば、早晚、予算に見合う縮小「澱江」が余儀なくされる。今後とも「澱江」は質的に充実をはかり、会員各位に、より満足のいただけるものを作成するために、ただ単に会費収入のみに依存するという消極的体質を脱皮して、積極的に、活性化させて行きたい。われわれ同窓生自ら「澱江」の作成費を負担して、年間購読料を徴収し、「澱江」それ自体の持っている目的を果たしたい。かかる意図で、とりあえず予算計上をした。その趣旨説明があり、万場拍手で承認された。

◇第三号議案

役員改選の選考方法について議長より提案されたが、議長一任を万場一致で承認。

議長より左記の常任理事、監事選考委員長および委員が任命委嘱された。(敬称略)

委員長 中村源(4)、委員 土手(6)、真鍋(7)、奥村(13)、黒田(15)、大槻(22)、村井(25)、大久保(28)、斎(30)、池田(36)、福元(37)、松井(41)  
別室にて選考委員会を開催、協

### 同窓会員数今や四万三千余名の 自由活発な交流の拠点として。



同窓会会長 磯野 斉

大学関係者すべての重要関心事であった創立五十周年記念式典は、極めて盛會裡に終了いたしました。式典会場にあてられた梅田、新阪急ホテル、二階の会場は八百名にもはる参列者をお迎えして、正に経大一色にぬりつぶされた感がありました。

大学当局の万全の準備に加えて、同窓生の爆発的協力の賜物であり、ここに深甚の謝意を表します。

この意義深いときに、わが同窓会は、新しく学業を終えた千六百数十名の新会員の参加を迎えました。新会員になられた諸君は、本学において、それぞれ専門的知識を修得し、豊かな良識と判断力を身につけ、社会人としての使命を分担してゆくこととなりますが、人生のきびしい体験を余儀なくされることになりましょう。

私は、諸君が本学の伝統として継承されている「融和の精神」を

達成に尽力いたします。

時間がかりすぎではないかと、同窓生各位をよきもきさせていたした記念会館建設は、漸く準備期間を脱して実行の緒につき、目下、設計の最終打合せの段階に到達しましたから、懸案の免税措置申請も時間の問題です。

したがって、昭和六十年一月を目標に、同窓会としては、その全組織を動員して具体的募金活動に取り組みねばなりません。

この重大な時期に際し、私は、理事会の決議により、会長重任をお受けいたしました。その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。同窓生各位の変らぬご支援、ご鞭達により、所期の目的

議の結果、本会議席上にて中村委員長(4)より左記の新役員、すなわち常任理事二十名、監事三名の選出結果が報告された。(敬称略)

常任理事 磯野(3)、比企(7)、南部(9)、萩原(10)、桑津(11)、前田(13)、小松(14)、陰下(16)、松本(18)、山中(19)、川野(20)、谷口(22)、西本(23)、水納(25)、平尾(28)、神田(30)、中村(31)、波根(32)、森(33)、大西(35)  
監事

もとに、これからの人生に対して、常に自らを啓発し、粘り強い行動力を発揮されるよう期待します。

いまや、わが同窓会は四万三千余名の会員を擁し、その自由活発な交流の拠点として、現在、全国に三十支部を設け、目下、一層きめ細かな組織づくりを進めております。

全国各地をはじめ、海外諸国にあつて、数多くの同窓生が、分野にわたり、指導的役割を果されていることは、誠に喜びに堪えません。私は、新しく会員になられた諸君を心から歓迎し、その前途を祝福するとともに、この同窓会組織を、先輩、後輩との交流の場として活用して頂きたいと思っております。

さて、昭和五十八年度決算、昭和五十九年度予算の確定並びに役員改選に関する理事会は、去る六月二十三日、全国より支部長、理事、監事など百名をこえる方々のご参集を得て開催されましたが、終始、熱心な審議をたまりなく、全議案をすべて滞りなく可決確定いたしました。ここに厚くお礼申

達成に尽力いたします。  
理事会の席上、キャンペーンに時間をかけすぎて実行に関する情報が遅すぎる、あるいは、鉄は熱いうちに打たないと機を失うのではないかと、数々の真剣なアドバイスを頂きました。よく肝に銘じ、これからの会務運営に、ぜひ、反映させてゆきたいと思っております。

なお、例年のことながら、同窓会推しの機関誌「澱江」編集にあたり、ご尽力下さった方々に心から厚くお礼申し上げます。

おわりにのぞみ、全国の同窓生の皆さんのご健勝とご多幸をお祈りし、今後、より一層のご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

山上(2)、長尾(8)、中村(13) 審議の結果、満場一致でこれを承認、可決。  
議長より、別室にて、会長選出を新役員に委嘱。  
別室にて新役員会を開催し、互選の結果を新常任理事を代表して比企常任理事(7)から、磯野現会長(3)の留任を報告、万場一致でこれを可決。  
議長より磯野新会長就任挨拶の要請があり、磯野新会長から就任



「母校創立50周年を共に祝いしよう」という合言葉で呼び掛けられた、昭和五十八年度同窓会総会は、恒例の十一月三日の前日である二日（水）に大阪、梅田の新阪急ホテルで盛大に挙行されました。

### 晴れの昭和五十八年度同窓会総会厳粛に挙行

「両理事のご発言の趣旨をふまえて、新役員一同全力を傾注してゆきたいので、より一層のご協力をお願いしたい。また、募金が具体化した場合には、理事会的な会合を開催することを予定している。その節は、是非、ご参集いただき、全英和を結集して目標を完遂する努力をしたい。」との抱負

受付をはじめ色とりどりのリボンをつけた関係者が行き交うロビーに、定刻の三〇分以上前から、来賓の先生方、支部長、一般参列者が続々と到着し、互いに再会を笑顔で喜びあいながら会場の「星の間」へと入場していきました。

当日は、五〇〇名の参列者が予想される母校創立50周年式典と、八〇〇名による祝賀パーティが同ホテルで大学主催により開催されるため、それに先立つ同窓会総会は、開催前から例年になく華やかな中に緊張したムードが漂っていました。

別室にて、渡辺名誉会長の乾杯で懇親会に入り、大いに歓談のあと、五十周年記念事業の募金活動の成功を心に誓いつつ散会した。

定刻の午前十時三〇分、司会の谷口一郎総務部長（22）が「本日は、五〇周年の記念すべき日である……」と開会のことばを宣し、総会は開幕されました。まず、全員起立して、母校のグリー・クラブ諸君と「学歌斉唱」を行い、引き続き磯野斉同窓会会長より「……昨年の総会で行われた『大学創立五十周年宣言』から早や一年が経過した……、恒例の十一月三日の総会を、本日、二日に繰り上げ大学とご祝いしたい……、会員総数は新会員一、六〇〇余名を加え約四三、〇〇〇名となりました。……、従前同様母校と歩みをとりたい……」とのあいさつがありました。

つぎに、ご来賓を代表して鈴木亨学長・理事長代理の「……あの芦原にあった昭和商の学舎を、七階建の記念館に。再来年には完成し、時計台にかわるシンボルとしたい……」との将来への抱負をかねたご祝辞をいただきました。

三〇分という時間的制約のある総会でしたので、西本集一総務部副部長（23）より支部長・ご来賓のご紹介を行った後、全員で「逍遙歌」斉唱を行い、閉会いたしました。

そして、恒例の総会後のパーティーは大学主催の「大学創立50周年記念祝賀会」に合流しともに半世紀の母校の光輝ある発展と伝統をお祝いいたしました。

新しい同窓会役員

- ◇会長 磯野（3）
- ◇副会長 萩原（10） 桑津（11） 松本（18） 川野（20）
- ◇事務局長 比企（7）
- ◇組織部（長）南部（9）（副） 陰下（16） 小松（14） 山中（19） 平尾（28）
- ◇総務部（長）谷口（22）（副） 水納（25） 神田（30） 森（33）
- ◇広報部（長）西本（23）（副） 前田（14） 波根（32）
- ◇会計部（長）中村（31）（副） 大西（35）
- ◇監事 山上（2） 長尾（8） 中村（13）
- ◇名譽会長 渡辺（3）
- ◇相談役 広田（1） 世良（3）

なお、組織部、広報部は次回開催の理事会までは仮称とし、理事会において承認可決され正式の役員名称となることをご諒承下さい。

科目	入の部		出の部	
	決算額	予算額	決算額	予算額
前期繰越金	6,095,684	6,095,684	総会費	352,860
会費収入	29,172,000	28,000,000	役員会費	1,118,190
総会収入	0	500,000	支部費	4,310,560
利息収入	595,128	500,000	事務局費	789,103
名簿収入	673,200	0	人件費	6,316,460
雑収入	769,600	0	旅費交通費	2,524,320
特別基金取崩し	0	7,500,000	灘江編集費	12,101,225
			名簿追跡調査費	2,714,555
			学対費	2,770,000
			諸会助成費	616,280
			50周年対策費	333,970
			慶弔費	24,000
			子備費	(1,064,258)
			次期繰越金	3,334,089
合計	37,305,612	42,595,684	合計	37,305,612

### 昭和59年度収支予算表(案)

科目	入の部		出の部	
	予算額	摘要	予算額	摘要
前期繰越金	3,334,089		総会費	5,000,000
会費収入	38,000,000		役員会費	1,300,000
総会収入	500,000		支部費	4,700,000
利息収入	700,000		事務局費	400,000
灘江収入	1,000,000		人件費	7,000,000
			旅費交通費	2,800,000
			灘江編集費	13,000,000
			名簿追跡調査費	2,700,000
			学対費	2,750,000
			諸会助成費	700,000
			50周年対策費	1,000,000
			慶弔費	300,000
			子備費	1,884,089
合計	43,534,089		合計	43,534,089

丹有、奈良、三重、泉南、島根(代理)、以上本日参会の十八支部長の紹介が比企事務局長から、最後に、五十九年二月十九日(日)に新居浜で結成式を終り、九月二日(日)に第三〇番目の支部として発会式を行う愛媛支部の小野茂樹支部長(26)を紹介、愛媛支部の結成に万場拍手で祝意を表した。これに対し、小野茂樹支部長より理事各位に対し協力依頼の要請と謝意が表明された。

◇中谷入試課長からご挨拶  
母校の地方入学試験に際し、同窓会の協力に對して謝意と、なお一層のご支援の依頼を兼ねたご挨拶があった。

◇就職部黒正主任がご挨拶  
就職部黒正主任より、卒業生の就職に對する依頼とご協力に對し謝意表明をかねたご挨拶があった。

◇その他  
梶村丹有支部長より五十周年記念事業の遂行のための募金について経過説明の要請があり、磯野会長より「予算十三億で現在時計台のある建物のごとくに、七階建の新館を建設することは決定している。しかし、募金に對して一番重要な要素である寄付金に對する免

税措置が未だできていない。その免税措置に不可欠な新館の青写真がいつ頃できるか、ということについて大学当局は八月頃になるということである。そして、免税措置が認可になるのは三月後の十一月頃である、と聞いている。なぜ、この免税措置が重要な要素であるかという点、卒業生の中には会社経営者、社長あるいは重役の方が多数おられ、個人での寄付はもちろん、法人としての寄付をする場合には、この免税措置が重要な要素となるからである。したがって、この免税措置が遅れてはいるが、認可になることは明白であると思われるので同窓会としては、早急に、募金実行委員会を結成したいと思っている。理事各位のご協力をいただきたい。」という趣旨の回答があり、一応、諒承された。

さらに、真鍋理事(7)より、「募金活動実施にあたって、あらゆる角度から縦・横の組織を結成するよう新役員で再検討して欲しい。また、将来は常任理事を五名位増員するよう規約改正をして役員の活性化をはかって欲しい。そして、この募金を機会に、現在の四千万程度の特別基金を二、三億程度にまでなるよう一考して欲しい。」と

税措置が未だできていない。その免税措置に不可欠な新館の青写真がいつ頃できるか、ということについて大学当局は八月頃になるということである。そして、免税措置が認可になるのは三月後の十一月頃である、と聞いている。なぜ、この免税措置が重要な要素であるかという点、卒業生の中には会社経営者、社長あるいは重役の方が多数おられ、個人での寄付はもちろん、法人としての寄付をする場合には、この免税措置が重要な要素となるからである。したがって、この免税措置が遅れてはいるが、認可になることは明白であると思われるので同窓会としては、早急に、募金実行委員会を結成したいと思っている。理事各位のご協力をいただきたい。」という趣旨の回答があり、一応、諒承された。

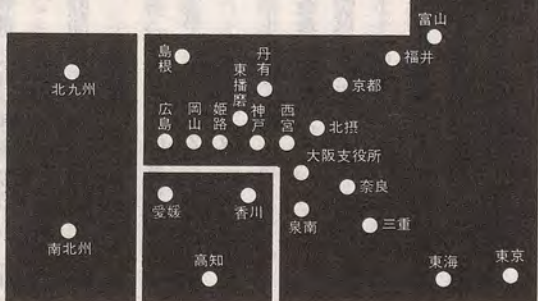
さらに、真鍋理事(7)より、「募金活動実施にあたって、あらゆる角度から縦・横の組織を結成するよう新役員で再検討して欲しい。また、将来は常任理事を五名位増員するよう規約改正をして役員の活性化をはかって欲しい。そして、この募金を機会に、現在の四千万程度の特別基金を二、三億程度にまでなるよう一考して欲しい。」と

# 同窓会

## 支部だより

### 愛媛支部が誕生、北摂支部も結成へ

新しい半世紀に向けて、全国の各支部から「支部総会当日の状況」「支部の現況」を中心に寄稿していただきました。



#### 全日本学生選手権 硬式野球部を声援

東京支部  
支部長 鮫島 圭

現在、関東地方に在住する同窓生総数は何名か？ここ数年、このクイズに直面しているが、残念ながら正解は一度もない。同窓会本部より送っていただいた「一九八三年版灘江」の「地域別同窓生分布図」によると、関東地方は一〇〇六名と記されている。一方、東京支部で昭和五十八年九月末日現在の住所確認済総数は、五四六名であり、その五四六名中の約五〇名は、東京支部総会開催案内

返信時に、宛先不明と変化する訳である。いずれにしても、その移動は非常に大きく、毎年もう少し大勢の方に連絡がつけられないかと、焦りを覚える。しかし、最近新たに関東地方へ転入された方々から、電話等で通知をいただくことも増えて来ており、大変嬉しく思っている。さて昭和五十八年度東京支部総会の模様をご報告する。総会は、支部規約通り毎年十月

の第三金曜日、十月二十一日に開催された。場所は港区新橋の「新橋亭」、例年の如く三回卒の川崎さんにお世話願った。大学からは玉岡総務部長、同窓会本部からは松本、谷口常任理事にご上京していただき、総員約六十名で盛大かつ極めて和やかに行われた。昭和五十九年六月上旬、比企事務局長より嬉しい電話を頂戴した。硬式野球部が関西第一代表で、全日本学生選手権試合に出場するという。早速、電話で連絡出来る同窓生に応援を依頼すると共に、六月十二日の夜、小林さん(25)（とんかつ「茅」経営）と同行して野



球部宿舍を訪問し、東京支部の寸志を贈呈し激励した。六月十三日午後、小雨の降り続く神宮球場へ応援にかけつけた（同行者、斉藤さん(27)、伊藤さん(29)、いずれも高砂熱学勤務）。徹夜でバスにゆられて上京された母校の応援団吹奏楽部、父兄の熱心な声援の甲斐なく、試合は惜敗に終わったが、雨にうたれながら懸命に応援し続けた応援団、吹奏楽部の諸君の姿には感動した。硬式野球部を初め各運動部、その他のクラブも是非頑張る。上京してほしいと切望す

る。昭和五十九年度東京支部総会は十月十九日（第三金曜日）を予定している。同窓生の皆様は、カレンダーにしるしを入れて、今からあけておいていただきたい。万一手違いのため、案内が到着しない場合はお手数ながら支部長迄問い合わせの電話をいただきました。お願いする次第です。勤務先 高砂熱学  
○三二五五八二一一代  
自宅  
○三二四八四二二八七三

#### 年配組の率先協力 合同総会盛りあがる

東海支部  
支部長 加藤 正秋

一本の矢は折れても、三本になるとなかなか折れない、とは小学生の頃、どなたかの伝記として教えられたことがあるが、二本でも一本にない強さと、余情のあることを教えられた。昨年暮れ岐阜市内の長良川畔で開かれた東海支部と、岐阜支部の合同同窓会がそれである。

ベラベラの秀才だった。この坪内さんから、総会は初体験だし、こちらはいわば名古屋の庭のような場所、遊ぶにも安くておもしろいから、と合同支部総会のお誘いをうけた。名古屋市内のマンネリ会場より新鮮味もありそうだとお話に乗ったわけだが、支部の皆さんのご協力で、一応好評だったとうぬぼれている。忙しいからお目にかかれぬ常連組もあったが、懐かしい岐阜の友人から誘いを受けてとか、

久しぶりに岐阜の旧友と会いたくてという参加者も多かった。私自身、十六銀行の重役をしていた馬場英一氏とは、何十年ぶりの再会で、お互いにくしくとしたり老骨ぶりを確かめ合った。本部から磯野会長、渡辺名誉会



長、比企事務局長のお顔なじみから、山本晴義教授、黒正就職部主任らまでご出席頂き、支部総会を盛りあげて頂いたが、ことしも早速坪内さんからご連絡があり「十一月、今度は名古屋市内で、また合同支部総会を頼みます」ということになっている。東海支部は現在約四百人、若い世代の単身組はさすがに転勤族が多く、異動が激しいが、高商卒の戦前戦中派は、どっしり腰をすえ、自営の会社社長や、会社重役として活躍されている。いざという時は、いつもこうした年配組が率先して協力して頂ける。ありがたい支部だと役員一同感謝している次第である。末事になったが、この記念写真は岐阜支部の高間スタジオ・高間昭三さん(33)に撮影して頂いた。実費以下でサービスして頂いたことを報告し、お礼申し上げます。

#### 新年会を兼ねて 盛大かつ厳粛に挙行

京都支部  
支部長 阿部 淑子

今年の冬は厳寒でしたが、京都支部の総会は毎年新年会を兼ねているので二月二十四日(金)、京都ホテルで午後六時より開催いたしました。

京都支部は初め京都人会という名のもとに発足した会であり、私が卒業後しばらくして京都人会に

出席させていただいた時は、京都在住の会員は一〇〇名足らずでしたが出席者は四〇名以上でとても活気のある会だったと記憶しています。それからしばらく御無沙汰しておりましたが、昨年私が支部長を受けついでから調べたところ一〇〇名以上にも会員が増えているのには驚きました。三十五回卒の南氏がコンピュータを利用して宛名を印刷して下さったのですが、数が多いので大変な事務負担をかけてしまいました。それに対して返送されてきたのは四〇〇枚足らずで、出席の返事は二十七枚でした。情けないことの上なし



です。しかし、総会に鈴木学長が心よく御出席下さった事は、私として一番嬉しい事でした。そして同窓会本部より渡辺名誉会長、比企事務局長、広報部の山下課長、前田係長、奈良支部の百野先輩も喜んで応援にかけつけて下さり、総会を意義づけて下さった事を心から感謝しております。鈴木学長より開会の御挨拶をいただき、比企事務局長より大学と同窓会の振興発展策等の御説明があり、乾杯のあとの懇親会に移りました。先輩、後輩諸兄のお顔はお互いに初めてというのが殆んどでしたが、昔からの親しい知己のごとく楽しく語り、笑い、気がるに学長との名刺交換等、和気藹々のうちに運び、やはり同窓会でなければという雰囲気があふれ、また若い亀岡在住の会員からは是非亀岡にも支部を作って協力したいとの発言もあり、少ない出席でしよげていた私は一〇〇〇人の味方を得た様な心強さを感じました。会も終りに近づいた頃、同窓会が持参して下さった50周年記念祝典のビデオを鑑賞させていただき、盛大かつ厳粛に挙行され、無事終了された事をまのあたりにみ、心から御祝いとお

喜びを申し上げ、今後益々母校が発展する様祈らずにはおられませんでした。少人数ではありましたが、有意義な総会を終えさせていただきました事と御出席の皆様にご改めて御礼申し上げます。私も微力ではありますが、京都支部の会員の皆様の御協力を得まして、先輩、後輩との年齢のへだたりを無くし、縦横のつながりを大切に、趣味を

### 大職域支部ながら幹事増員で運営努力

母校大阪経済大学が創立以来半世紀を経て、歴史と伝統をそなえる立派な大学として、ますます発展いたしておりますことは、我々同窓生といたしましても喜ばしくご同慶にたえない次第であります。わが大阪市役所支部も、昭和二十五年一月創立総会が開催され、来年三十五周年を迎えようといたしております。

創立当初、記録によりますと、わずか十三名の同窓生の先輩諸氏がお互いに親睦を深め仕事の糧となるようにと、初めて職域支部として設立されました。爾来、初代支部長に広田 実氏

### 大阪市役所支部事務局 藤川 保治

通じての会を作り、同じ学舎で学んだ同窓会で、和やかな京都支部会を結成して行きたいと思っております。どうか私の熱意に御賛同下さいます方は来年の総会には是非御出席下さい。

- お持ち致しております。
- 会長 阿部淑子 (13)
- 庶務 深田 稔 (29)
- 会計 谷 弘行 (29)
- 事務局長 南 和男 (35)

(1)、第二代会長に中村宗啓氏 (3)、第三代会長に村上静夫氏 (5)、第四代会長に砂山保氏 (7)と歴任され、現在、第五代会長として金子昭典氏 (15)が引き継ぎ支部活動を行っております。

本年度総会は、久方ぶりに、去る六月十二日(火)、南区千日前、料亭「鳥よし」にて開催、同窓会本部から渡辺名誉会長、磯野会長、学校から内海教授を来賓としてお迎えし、学校の近況等ご報告をいただきました。当日は、広田、村上、両歴代支部長を初め特別会員の大阪市会議

### 北摂支部結成の胎動

同窓会事務局長 比企 重

六月のある日、「高槻市を中心に支部を結成したいと思うが……」という趣旨の電話が事務局に飛び込んできた。同窓会本部では地元である大阪府下の同窓生把握が一大課題として論争、検討されている時でもあり、早速、高槻市と隣接の三島郡在住者をリストアップすると約四〇〇名になることが判明した。

しかし、六月は本部行事、また、大学の50周年記念事業関係会議、さらに支部総会、同期生会、クラブOB会等々で、猫の手でも借りたいような多忙な日を送っていた月であったが、それはそれ、これはこれとお電話をいただいた石川裕氏 (28)に連絡をとりつづけたが両者の時間帯がなかなか一致せず、いつの間にか七月もアツという間に過ぎ去ろうとした暑い日に、やっと石川氏より面会期日の指定があった。それが八月九日(木)、午後六時、高槻の菩提樹であった。

当日、菩提樹に石川裕氏

(28)、佐藤健治氏 (32)、西城富夫氏 (41)の三名がご多用、また、酷暑の中ご参集いただき、本部からは私と谷口総務部長 (高槻市在住)の二名がはせきんじて約三時間、食事も忘れて意見を交換し、討論した結果、やはり、同じ釜の飯を食った輩同志である。九時頃には、古い知己以上に心が結ばれ、大体左記のことを決定し、相互に協力して北摂支部の結成を完遂することの合意をみた。

◇高槻市、三島郡在住者のみに限定せず、両地区に勤務しているものをも包含する。また、隣接市町のもので入会希望者は、これを正会員として認める。  
◇結成会は十月二十七日(土)、午後六時三十分とする。  
◇会場は高槻市民会館を第一候補として検討する。  
右の三つを目標に、地区別、その他の推進方法については石川裕氏 (28)を中心に相互連絡を密にすることを約し、やっと菩提樹ランチを口にした時は、

高槻の街は完全に更けていた。最後にになりましたが、昼といわず、夜といわず、時を問わずに電話でおさわがせしたこと、今回の会合が実施できました影の功労者として、まだご拝眉の栄をいただいておりますが、石川裕氏のご令室に、この紙面を借りて厚くお礼申しあげます。なお、このことにつきましてのご連絡は

榊石川装飾、代表取締役

石川 裕

あるいは  
大阪経済大学同窓会事務局  
☎〇六一三二八―二四三二  
へご連絡下さい。  
北摂地域の同窓の皆さん、十月二十七日お会いしましょう!!

員の同窓生の方々と、今後ますます親睦を深め、仕事を通じてお互いに連絡を取り合っていくようにと、有意義な一刻を過ぎました。

しかしながら、当支部は同一職域支部とはいえないものの、大阪市役所という非常に大規模な組織であり、各部署、事務所、区役所等は全て所在地が異なり、そのうえ大阪市立高等学校教職員の同窓生も中途より新規加入されたため、現在二〇〇名を超える会員を有し、十数名の幹事で運営をしています。が、毎年恒例の人事異動が激しく、会員の所属の把握が困難で、連絡がスムーズに行われないという支障が生じている状態で、その対策に苦慮しているところですが、幹

事の増員等でこの難問解決に努力するつもりです。

来年は、支部結成三十五周年でありますので、盛大に総会を開催し、併せて、ゴルフコンペ、麻雀大会等も企画し、会員相互の親睦を深め、各職場との連携を円滑にしてゆき、職域支部としてますますの発展をはかって行きたいと考えておりますので、会員諸氏には是非とも参加していただくようお願いいたします次第であります。また、最後になりましたが、同窓会本部のご協力を今後ともよろしくお願いいたしますとともに、母校のますますの発展向上を望んでいる次第であります。

## 支部長(西宮市長)を 励ます会も発足

西宮支部  
副支部長 黒才 洋

この冬は世界的な異常気象の影響でしようか、阪神地方では珍しい積雪が二度もあるなど、ことのほか厳しい寒さでしたが、同窓会の皆様におかれましては、お元気で各方面にご活躍のことと心からお喜び申しあげます。

さて、昭和五十八年度同窓会西宮支部総会は、まだ正月気分が抜け切らない一月二十八日(午後六時から西宮市民会館を会場として開催いたしました。



今回の総会で例年と違うところは、西宮市長として公務多忙な八木米次支部長(一)を全面的に支援するために「八木米次を励ます会」の発会総会を併せて開催したことです。

八木支部長は、昭和五十五年十一月、西宮市長に就任されて以来、早や三年を経過し、その間、市政の最高責任者として「愛の市政」を信条に、ひたすら文教住宅都市西宮の発展、整備、拡充に尽力してこられました。そこで、同じ釜の飯を食った仲間である西宮支部員有志が発起人となり、昨年十月、発会準備のための地区幹事会を開き、支部内に「八木米次を励ます会」を発足することを決議いたしました。

支部総会は、八木支部長が開会挨拶の後、当日、同窓会本部よりご出席いただきました磯野会長、比企事務局長、谷口総務部長を代表して磯野会長のご挨拶、また、大学側よりは内海先生、黒正就職部主任のご臨席を賜り、内海先生よりご祝辞をいただきました。ま

たさらに、隣接支部の神戸支部よりお祝いに馴せさんじていただいた町田支部長よりご祝辞をいただいたなど盛会裡に支部総会を終りました。引き続き、「八木米次を励ます会」の発会総会を開催いたしました。

発起人代表より経過説明の後、会則ならびに役員選出について提案、審議の結果、「八木米次を励ます会」の役員として、左記の諸氏が万場一致で可決されました。

- 会長 鹿島栄之助(2)
- 副会長 清水 忠文(5)
- 中山 隆(15)
- 事務局長 森 洋一郎(32)
- 会計 内海 豊(32)
- 監事 堀江秀二郎(9)
- 相談役 広田 実(1)
- 増田 憲治(1)

(敬称略)

まず、鹿島会長よりご挨拶の後、八木氏より決意表明があり、発会

## 会場一杯の盛会 新たな感動に満つ

同窓の諸賢諸姉には、ますますお健やかにご活躍のこととお慶び申し上げます。

## 神戸支部 支部長 町田 達治

昨年は、決意も新しく母校創立五十周年を皆でお祝いました。そして、それを契機として、自

を無事終了しました。

なお、八木支部長は、この秋の市長選挙に再出馬されることと確信いたしておりますので、大阪経済大学の名のもと、より一層結束を固め、大いに支援したいと思っておりますので、同窓の皆様、よろしくご協力のほどをお願い申しあげます。

予定議案も滞りなく終了、「八木米次を励ます会」の顧問としてご臨席をいただきました田中健一先生のご発声で乾杯、懇談会に移り、大いに語り、楽しい一夕をすごしました。

最後になり申訳ございませんが、当日、「八木米次を励ます会」の顧問をこころよくお引受けいただいたばかりでなく、ご多忙のなかご臨席いただきました中川操先生、鯉田先生、石井図書館次長に心からお礼申しあげますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

由と融和”の黒正イズムである建学の精神を失わず、立派な特色のある大学に発展することを願ったものでした。

愛する母校に栄光あれ！これからこそ私達のより具体的な協力が大切であって、同窓会支部としても極めて難かしいことながら、組織の強化を図ることがより重要であると存じています。

さて、昭和五十八年度の神戸支部総会を開催するための役員会を五月十七日(火)、タワーサイドホテル、レストラン・ブーンで開きました。出席者(敬称略)は、支部長、町田達治(12)、世話人幹事、三好悌彦(6)、松田和夫(16)、北川義信(21)、小山 弘(22)、奥村儀弘(24)、大西義幸(30)、富井昭博(34)、野中 茂(37)で協議いたしました結果、五十八年度支部総会は九月十六日(金)、開催することにいたしました。また、神戸支部結成以来、三十五年を経過し、母校創立五十周年を記念して、①、初代からの元支部長を当日の支部総会にご招待すること(初代支部長、外海波吉氏(1)、二代同、三好悌彦氏(6)、三代同、長島 隆氏

(9)、四代同、田中義一氏(10)、②、支部組織の強化と活性化を図るため、世話人幹事を倍増すること、の二点を決定(世話人幹事の選任は支部長に一任)いたしました。

次に、昭和五十八年度神戸支部総会は、五月十七日の役員会の決定通り、九月十六日(金)、午後六時より、会費五千元(五十五年度より据置の会費である)、タワーサイドホテルにおいて開催いたしました。

当日の総会は、会場に溢れんばかり、七十数名の同窓会員の出席で、文字通り実に盛会でありました。

同窓会本部より磯野会長(3)、比企事務局長(7)、谷口総務部長(22)、大学より玉岡総務部長(12)、黒正 明氏、藤原光治郎先生のご出席をいただき、創立五十周年を迎えているさなか、同窓会及び大学の近況説明がありました。なお、同窓会事務局より、わざわざ別送されてきた大学の印刷物(大学のガイドブック、大学のあゆみ、就職情報等)も会員に配布、母校の状況も更に詳しく知りえたことと思えます。

また、昭和四十三年、神戸支部から分離独立し結成された西宮支部の支部長、八木米次氏(一)(現西宮市長)が、西宮定例市議会の合間をぬってのご出席を得て、若き学窓時代を振りかえってお話しもいただき感銘いたしました。

続きまして、創立五十周年を記念して、ご招待いたしました元支部長を代表され外海波吉元支部長の音頭で乾杯、懇親会パーティーに移りました。いよいよ総会もクライマックスに達し、お互い青春の血潮に燃えた学園の日々を想い起しながら時間の経過も忘れてゆく按配でした。

支部総会は、神戸支部の唯一最大の行事であります。いわば、村や地域のお祭にも似たものでありまして、毎年毎年、総会を迎えるたびに、心踊り、新たな感動を覚えます。先輩、同輩、後輩が、それぞれの出会いと、ふれあいを通して、明るく楽しいひとときを味わうことができるのです。未だ一

## 広地域支部の 運営方法に苦慮

全国の同窓生の皆様、お元気に  
てそれぞれの分野でご活躍のこと

## 東播磨支部 支部長 永井 宏

と心からおよろこび申しあげます。さて、東播磨支部創立以来、そ

度も支部総会にご出席でない会員の方々、どうか一度お出まし下さい。必ずや心の糧を得られるものと信じます。このひととき、料理をいただきながら、談笑しながら、さらに来年も再会しようとする約束して散会した訳でありました。

神戸在住の同窓の大兄、諸姉、どうか来年こそは、総会にご参加下さいませ様に重ね重ねお願い申し上げます。三たび、母校に栄光あれ、とお祈りしながら神戸支部だよりを擱きます。

「付記」この稿を擱くや、大経大が天理大を破り、晴れの大学野球関西地区の第一代表に初名乗り!!「仲川監督の目うるむ」昭和八年に創部して以来の快挙」ということです。神宮で試合の悲願が実現。どうかご健闘を祈るや切です。ちなみに、仲川監督は、神戸市中央区に在住、神戸支部の同窓会員です。

我が岡山支部においても、昨年は、母校の五十周年記念に協賛し、「何か意義ある行事を」と考え、昨年の六月五日の支部総会の席上で発表し、千名を越した「支部会員名簿」を編集することに決定しました。七月より名簿編集委員会委員は三名、小野、塩尻、渡辺氏（以上三十五回卒）を作り、早速、猛暑の中、まず、広告のお願いから始め、数回の会議を重ね

て、漸く今年三月に予定通り発行の運びとなりました。その九ヵ月の間、母校就職部、同窓会本部をはじめとし、県内の有力企業在籍同窓会会員のみならず、並びにその他関係者の方々には、ご多用のところ格別のご理解とご支援を賜わり、ここに誌上を借りまして、役員一同、改めて、心から深くお礼を申し上げます。一部の会員の方には、第一次購入協力を願いましたが、第二次として未購入の方は、在庫のなくならないうち是非とも購入協力を切望致します。（名簿は、金文字入り、八十頁もの。私あて現金書留で千円ご送付下されば、直に発送致します。）次に、主な行事としては、母校就職部主催による「岡山地区企業



同窓会本部よりは磯野会長、並びに、比企事務局長より、全国同

### 支部会員名簿 三月に発行

次に、本年の総会は本部の理事会が終り、それを基にして幹事が集り、具体的に協議して発表したい。

### 岡山支部 支部長 村上 一夫

科大学よりの脱皮ではなからうか。また、募金の具体額が未だ発表されず、審議のプロセスも公開されないのは、同窓生にビールの泡が抜けたような意識を抱かせ、その遅滞が残念ながら達成困難を招くのではないかと、不本意ながら衷心より危惧しているものである。

就職懇談会」が数年振りに、昨年の七月九日(土)、岡山国際ホテルにおいて県内優良企業数十社の方々と、母校より学長先生はじめ、担当の諸先生方、並びに、地元同窓会の幹部、役員が出席し、四グループに分れて、企業との意見交換会をはじめ、全体説明会、及び約百名の懇親会等がスムーズに取り行われ、非常に有意義な行事は大成功裡に終了しました。今後とも会員のみならずのお力添えに依り、ますます厳しいこれからの就職戦線を克服して行き度いと存じますので、何卒引き続き一層のPRと充実をはかり、別段のご援助を

賜わりますようお願い申し上げます。また、昭和五十九年度支部総会は、恒例により去る六月三日(日)定刻、午前十一時より岡山グリーンホテル(六階、日本間)において、特別ご来賓の故黒正巖先生のご内室黒正光殿の久方振りのご参列を初め、学校より成瀬教授、黒正主任、同窓会本部より磯野会長、比企事務局長のご出席を賜わり、今は亡き母校創立者、黒正巖先生のご遺徳をしのびつつ、出席同窓会員(二十五名)も、少数ながらも、老・壮・青と平均的に出席があり、約一時間半の総会に引き続き、懇親会では、自己紹介に始まり、名刺交換、昔話、カラオケ等、ときのたつのも早く、遂に定刻三時前校歌を斉唱して終了しました。その間、学校よりは現況報告及び野球部の関西地区での優勝、全国大会出場の快挙を成しとげたニュースの発表もあり、一同大喜びでした。又就職部よりは、五十八年度卒業生の就職状況の好結果の発表と本年度の予想等の説明が詳細にわたりました。

の運営に多大のご尽力をいただいた北井前支部長より支部長という重責をお引受けしてから今日まで、明石市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、西脇市、加古郡、美嚨郡、加東郡、多可郡という広範囲からなる東播磨支部の運営方法について、私は私なりにいろいろと苦慮してまいりました。この広範囲にまたがり、かつ、交通の面からも単一路線に存在しない、極端にいえば、それぞれの地区が分離独立して単位支部を形成してもよいようなこの東播磨地区をいかに統括してスムーズに運営をしてゆくかが支部長をお引受けした私への大きい課題であると思っています。ただ単に、従来行われてきたように、地区当番制によるだけでよいのか、あるいはまた、何か他により運営方法はないものか……、日夜それが走馬灯のように私の頭の中を駆けめぐるばかりで、よい結論が出ないまま今日に及んでおります。

一般に社会科学は如何なる様相を呈するや、との問いに対して、そこに住む人間の世界観に依って決定されるといっても過言ではなからう。安定期社会(調和の社会)に於ては認識論的であり、転換期社会(矛盾の社会)に於ては存在論的であるといわれている。現代は不確実性とか、模索、そして、試行錯誤の時代といわれているが、ゴットホルの生活経済学、すなわち

### 単科大学からの 脱皮が必要

力添え下さいますようお願い申し上げます。

### 姫路支部 支部長 永川 仁一

「欲求と調達の持続的なる精神に於ける人間行為の秩序」を見直してみても一つの方法であろう。次に姫路支部の昭和五十八年度の総会を左記に総括してみよう。



一、来賓 大学より松村幸一経済学部長、黒正就職部主任、同窓会側より磯野会長、比企事務局長、

- 一、議題 (一)五十周年事業について
  - (二)支部組織の効率化と活性化について
  - (三)支部長以下幹事の入れ替え等
- 備考 (一)姫路支部会員数、約七八〇名  
(二)毎年一回秋に総会開催

窓会支部の近況、母校創立五十周年行事に対する今後の学校との協力状況等の説明があり、特に岡山県支部に対し、他県、他支部との比較の中で、総会の出席人数、組織強化に対する強い要望があり、われわれ一同、奮起一番させられる一面もあり緊張致しました(ご参考までに申しあげますと、今回も、約千百余通の総会案内状を発送しましたが、残念ながら、移動連絡、不明返送分五十二通と、出席通知が僅か二十五通であった)。またさらに、「支部の運営について」出席会員の意見を求めたところ、各回ごと数名の方の建設的な進言があり、これを参考にし、後日、「来年度の支部総会並びに組織、役員改選等を行うことに決定しました」。

○来年度(昭和六十年)の支部総会は、昭和六十年六月一日(土)午後六時から午後九時とする。(出席者は最低五十名以上百名を目標にする)  
○組織として、同期の「横」の連絡、地区のグループの連絡等、日常活動の強化を申し合わせました。  
○新役員は次の通り改選されました。昨年度までの役員の

方々には大変お世話になりありがとうございました。御礼を申し上げますとともに、新役員の方々には、今後一層のご理解を賜わり、岡山県らしく充実した支部の発展に格段のご協力を願ひ申し上げます。  
○昭和五十九年度改選新役員名  
大森喜太志(6) 全般担当  
支部長  
村上一夫(12) 全般担当  
副支部長  
小野 隆(35) 全般担当  
常任幹事

渡辺 肇(35) 倉敷西・南担当  
塩尻康勝(35) 岡山東・南担当  
地区幹事  
高島典治(28) 岡山担当  
高橋良彰(32) 岡山担当  
岡本健也(23) 東部担当  
西山浩一(40) 東部担当  
田口隆司(25) 西部担当  
岡本勝也(33) 西部担当  
月田武士(26) 南部担当  
伊達正二(42) 南部担当  
直原武司(44) 北部担当  
(以上十四名)  
(役員卒回別分類)  
一回り十回 一名  
一回り二十回 一名

娘の仕事の事で比企先輩にお願いたしましたところ、同先輩、並に陶山知康氏(19)が自分のことのように努力していただき、所期の目的を達成することが出来、大経大卒の有難さを身に沁みて感じましたが、これらの身近な事例は大経大同窓会が他に類をみない程団結が固く、かつ、愛校心が強い事を立証するものと言えましょう。誌上を借りて厚くお礼を申し上げます。

同窓会の皆さん!このように特異性のある大学同窓会ほんとうに素晴らしいものであることを再認識し、母校の発展につとめていただきます。  
二、次に、過去「澱江」その他を通じ大学当局にご提案申し上げた中から次の通り問題点を列挙したので、ご検討をお願いしたい。  
(一)、入試事前のPRの充実と拡大、合格発表の地方紙への掲載。  
(二)、推薦入学者のうちスポーツ関係選考方法の再検討(たとえば、各部監督を委員とする是非論)、並に徹底した強化対策。  
(三)、就職対策の一環として産学協同の具体的な推進対策の強化。  
(四)、女子学生増加対策を抜本的に考慮すること(文学部、社会学

部の増設、短大等)。  
(五)、茨木用地の有効利用を急ぐこと(直接利用、等価交換、関大の高槻キャンパスの例にならぬ)。  
三、末筆ですが、広島支部会員約六〇〇名。政財界都市カーブの

部の増設、短大等)。  
(五)、茨木用地の有効利用を急ぐこと(直接利用、等価交換、関大の高槻キャンパスの例にならぬ)。  
三、末筆ですが、広島支部会員約六〇〇名。政財界都市カーブの

### 大学入試の日 厳寒に集う

今年の北九州支部同窓会総会は、恒例により大学の入試に合せて二月十日、福岡市内のホテルにて挙行致しました。  
大学より松原先生他職員の方二名、同窓会本部より山中常任理事が参加していただきました。  
今年の二月は数十年振りの寒さとかで、例年ですと五十数名の同窓生の皆さんが参加されるのですが、今年は若干少なめでした。その中でも、(株)西日本ハウス 社長

田沢 誠さん(37)、(北九州市在住) 中和建設工業(株)営業部住宅販売課永見和彦さん(49)、(北九州市在住)が新しく参加されましたことはうれしいことでした。  
北九州支部の同窓会は年々隆盛を極めておりますが、北九州地区(福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、北九州)の皆様方の積極的なご参加をお待ちしております。

### 北九州支部 支部長 嶋原 正孝

宮崎は、日本書紀・神皇正統記によれば百二十七才、古事記によれば百三十七才までご存命されたといわれている神武天皇、高千穂の峯への天孫降臨という古代神話

### 古代神話の古里 宮崎にて開催

宮崎は、日本書紀・神皇正統記によれば百二十七才、古事記によれば百三十七才までご存命されたといわれている神武天皇、高千穂の峯への天孫降臨という古代神話

の古里であり、耳を澄せば古代のロマンが聞えるような南国の里である。まさしく宮崎は、わが国の古里にふさわしく、その自然は素朴で明澄、古典的ムードが溢れて

### 南九州支部 支部長 宮田順一郎

の古里であり、耳を澄せば古代のロマンが聞えるような南国の里である。まさしく宮崎は、わが国の古里にふさわしく、その自然は素朴で明澄、古典的ムードが溢れて

二十一回、三十回 四名  
三十一回、四十回 六名  
四十一回、五十回 二名  
(地区別分類)  
岡山地区 三名  
東部地区 二名  
西部地区 三名  
南部地区 二名  
北部地区 一名  
全 般 三名

### 偶感。退職後人生を 有意義に生かしたい

### 広島支部 支部長 佐々木一義

一、昨年六月末、二十六年間勤務した広島バスセンターを退職、早いもので一年有余を経過した。周囲を見回すと仕事、環境等、すっかり変わってきた。さて、残された人生を最も有意義なものとするために、(一)、健康、(二)、仕事、地域社会にいささかでも貢献したい(過去のキャリアを提供すること)、(三)、大袈裟かも知れないが母校である大経大の発展に協力する等に尽したい。今日この頃である。事実、深夜二時半起床の水産会社に代表取締役として一年間無休でやってき、そして、午後からは連日の如く、広島の下真中のシヨッピングセンターの顧問として、

以上、昨年より、約一年間の主な行事、近況を一年一度の「澱江」誌上を拝借しご報告申し上げます。みなさまのご理解とご協力を得たく思います。  
特に、地区幹事、並びに、常任幹事の方々には大変ご足労ではあります。組織づくり、連携作り等、ご支援、ご尽力の程を心から、お願い申し上げます。

いる。仮に、奈良、飛鳥の風景を女性的とするならば、宮崎周辺はほととつで明朗、極めて男性的であるといえるでしょう。  
この宮崎の市街を南北に貫く、フェニックスの並木が美しいメインストリート、橋通りを少し歩くと町を貫通する大淀川に出る。長い橋、その北岸にはホテルが並び、フェニックスの並木に赤と青のロンプルが並びバーサイドパークが広がっている。  
その一角に、ホテル・フェニックスが白亜の偉容を誇っている。そのホテル・フェニックスの「青島の間」において、本年度の南九州支部総会が開催された。それは、丁度、リバーサイドパークで毎年開会されている宮崎祭の宵祭でにぎわう七月二十八日(土)、午後六時からでした。  
母校から大槻理事、黒正就職部主任、同窓会本部から、われらが親父、渡辺名誉会長、また、支部産みの親であり、あらゆる面でのわれらが兄貴、比企事務局長のご来臨をいただき、参加者は、日頃いろいろと心苦をにかけている荊妻、また、愛の結晶であるジャリンコ(南九州支部総会はこの数年、夫婦子供連れが習いになつ

ている)を含め、五十有余名、さしもの「青島の間」も狭く感じられる程の盛会であった。

総会は、例によって、森征一郎氏(35)の名司会で始まり、宮田支部長挨拶のあと、大槻先生より母校の現況と50周年記念事業の概要についてのお話、黒正主任より就職についてのご報告と協力依頼のお話、引続いて、渡辺名誉会長より50周年事業への協力要請など、一応、総会的行事を終り、比



企事務局長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。いつものことながら、懇親会に入るのを一番待っていたのはジャリンコで、本当にはほえましい風情です。

さて、懇親会に入り、焼酎で少し口を潤した頃、本年の当番幹事である大盛豊一氏(23)より挨拶があり、次に、比企事務局長から同窓会本部のいろいろの報告と要請がありました。その中で、特に、九月二日に第三十番目の支部として、愛媛県支部が比企事務局長のご尽力で誕生することを聞き、一同拍手でもって心からお祝いを申しあげました。

宴たけなわの頃、木村栄一郎宮崎相互銀行頭取(7)がご多用のところはせさんじていただき、会は、より一層の盛りあがりを見せました。

時間が経つにつれ、同じ釜の飯を食った輩は、あちらに一同、こちらに一同、わいわい、がやがやと、和気藹々の雰囲気、話に花が咲いていました。

その頃、写真屋が到来し、記念撮影ということになりましたが、残念なことは、女房族とジャリンコは、もうすでに休息の時間帯で記念撮影に参加できなかったこと

です。

いずれにしても、このままゆけば夜通しの懇親会になりかねず、渡辺名誉会長の万歳三唱で心を残しながらも、一応、楽しい懇親会を閉会いたしました。

最後になりましたが、本年の総会にご尽力をいただいた木村栄一郎氏(7)、大盛豊一氏(23)、前蘭博隆氏(34)を初めお世話いただいた幹事の方々に心からお礼申しあげます。

来年は、鹿児島が当番になります。

### 竹林先生を招き講演会を開催

昭和五十九年度富山県支部総会は七月十四日(土)午後三時より富山市にて開催されました。

富山駅前ホテル・東急イン富山九階の総会場には、ご来賓として、大学より経営学部長竹林祐吉教授、同窓会本部より川野群平常任理事のご臨席をいただきました。また、県内の呉東・呉西地区より二十有余名の支部同窓生が参集されました。

総会は、小泉俊夫氏(30)の司会により開催され、重松支部長(23)の挨拶につき、本部の、

### 富山支部 支部長 重松 尚

すので、是非、気楽な家族慰労会のつもりで、ご参加下さいますようお願いしあげます。

なお、余談ではございますが、総会の翌日、二十八日(日)は台風七号の影響で、雨が横から降るなどの暴風雨でしたので、ご来臨いただいた諸先生方のご帰阪を心配いたしました。お詫言いましたが、遅延しながらも、ご無事にご帰阪された由で安堵いたしました。来年も、是非、ご臨席下さいますよう、また皆様のご健勝を祈念しつづ……。

川野常任理事から、母校並びに全国各地で活躍する同窓生と各支部の状況や創立五十周年記念事業についてのご報告とご説明があり、大学のより一層の発展のために本部と支部の連携を強めようと熱意を込めて述べられました。そして竹林教授から母校の近況とりわけ五十周年記念事業の具体化としての記念館建設の構想や情報化社会に対応したカリキュラムの改訂と近代化、さらに入試についての推薦入学試験制度の導入と実態等につき、大学の大衆化状

### 経大創立五十年と 福井支部 支部長 内田 甫

#### 車談議

われわれ現代に生を受けておるものは、老いも、若きも、その年齢に関係なく、日常生活において切っても切れぬものの中に「車」、いわゆる自動車が入るのではないかと思われまます。全く、自動車というものは、誠にどうも仕方のないもので、一度自家用を持つと、誰でもが、もうその便利さと、自由性に手放せなくなるものである。しかし、考えてみれば、誰でもが、毎年の税金をはじめとし、車検の費用、保険料等々、多額の出費は当然ながら、毎日のように報せられる、身の毛のよだつ大事故の危険、このような事柄は、人ごとではなく、何時自分自身にふりかかるかも知れないと思うとき、心が休まる暇もないことである。それでいて、そんなら

「車に暇を出すかな」などは夢にも思わないのだから、不思議なことである。今や、車と人とは一体の状態なのである。待ちの時間の無駄を排し、始発、

終発の時間にも制限されない行動の絶対の自由性の確保、日曜、休日などの安全確実な家族同伴の遠乗りを楽しむ、愉快さ、一々数えあげればきりが無い。また、今は、以前と異なり、どんな田舎道でも道路は完全な状態で、誠に結構なことである。その中で、大中小車、特に、近頃は超ミニカーの一人乗り車を時々見受け、これまた愛嬌をふりまいているが、車を運転する人が自らお互いに譲り合いと、安全性のマナーを必然的に心がけている状態を見て、ほほえましい光景に打たれ、喜ばしいことと感じている。いずれにしても車の運転については、安心立命の境地にしっかりと自分を据えて車を活用すれば、こんな便利な大利あるものはないのである。

交通戦争ともいわれている。今、それには如何なる理由があるろうとも、交通法規にそむかず、対向車や、路面の状況に即効に対応し、自車の通り得る最上の

道を求め、その細き一筋を瞬時に見出し、そこを正確に走ることに、もし、道を見出せなかったら、躊躇なく止まること、その決断が事故と無事との別れ道になるのではないかと思う。総じて、走るべきときに走り、止まるべきときに止まり、待つべきところは待つ、これが最も肝要なことではなからうか?そして、自車も、他車も、安全に、しかも、通行人に思いやりある運転をすることによって、われわれがこれから生き抜く人生修養の方便とも心得て、人車一体の妙境への道を進むことが最も緊要事ではないかと思う。

このような中で、経大卒業生並びに経大生士の交通事故等、新聞紙上の記事を見せつけられる時、身近に尊い与えられた生

況のもとで、大阪経済大学独自の改革が推進されていることにつき将来の展望をも含めてご報告がありました。

各種の総会報告も順調に進み、役員改選では永年ご尽力いただきました小泉俊夫事務局長に感謝の意を表しつつ、新事務局長に高橋努氏(34)を提案し、全員拍手で

命の尊厳さをつくづくと感じざるを得ず、唯々各自の安全を願うと同時にその冥福を祈るのみである。

母校創立五十年という一つの大きな区切りの中で、誠に取るに足らぬことであるかも知れぬが、経大同窓の皆さん方に、特に今一度老婆心をもって再考いただきたいと思うものである。そして、事故防止の点について一段と深い思いをもって、常に各自の業務にご精進あらんことを心から願いつつ車談議をもって、経大創立五十年を祝い、同窓生皆さんの益々のご健勝、ご多幸を遥かに祈りし、ここに駄文を顧みつつ、さらに、自己をいましめ擱筆する次第である。

承認を得ました。

終始和気藹々の雰囲気になりながら無事総会を閉会しました。

続いて、昨年度新企画として母校より恩師を招いて講演をしていただいたことが評判であったことから、本年度も実施いたすことになり、竹林先生をお願いいたしました。



竹林先生のお話しは、「わが国の商業、流通の諸問題」と題して、サービス経済化が進展する産業社会のもとで、スーパーマーケットを中心とする小売業の動向についてのお話しでした。特に、消費者のニーズの多様化のもとで、小売業の新総合サービス業化（売買以外に金融・保険・旅行・貿易業務等に進出する）や多角的小売業化の方向に進んでいるお話しは、流通業に関連ある同窓生も多く、日常生活に直結していることだけに、本当に有意義であったと思います。講演も終り、重松支部長の乾杯の音頭で待望の懇親会へと移りました。



酒をくみかわし、談笑しながら

時間の経過するのを忘れる程に早く過ぎ去りました。そして、学歌、逍遙歌斉唱、万歳を三唱し来年の再会を約して閉会しました。大学および本部からのご来賓の方々ならびに支部総会にご参加下

**新企画「経大の広場」で総会盛り上がる**

香川県支部 支部長 和田 憲明

昭和五十九年度大阪経済大学同窓会香川県支部総会は、七月十三日(金)、高松一のノッポビルといわれている百十四銀行ビル、十六階の「スカイラウンジ・国際」で、母校から玉岡浩理事、黒正明就職部主任、同窓会本部から比企重事務局長のご臨席をいただき、五十余名の懐かしい会員の顔が集まり開催されました。

総会は須和福支部長(36)の司会により開会され、まず、和田支部長(38)の挨拶と六月二十三日(土)、大阪、梅田、新阪急ビル十二階「レストラン・パレス」で開催された同窓会本部理事会の報告があった後、引き続き、蔽内会計幹事(39)より会計報告が行われました。そして、当日、ご多用のなか遠路ご臨席をいただきました

さいました同窓生の皆様に、心からお礼申し上げます。なお、富山県支部の名簿を今年中に作成いたす予定でありますので編集につき本部ならびに会員各位の格別のご協力をお願い申し上げます。



玉岡理事からは学校の現状と50周年事業のお話、黒正主任からは就職状況と本年度卒業生に対する就職協力についてのお話、比企事務局長からは同窓会のいろいろの角度からのお話があり、参集の会員一同、それぞれの立場から興味深く拝聴し、総会を終りました。

松原初代支部長(7)の乾杯の音頭で、待望の懇親会に入りました。本年の懇親会は従来行われてきた鍋を囲みながら……の方式を一変して、ビヤーパーティスタイル方式にかえてみました。自画自賛かもしれませんが好評のようでした。あちらこちらで学生時代の思い出話、就職の話、仕事の話、子供の話等々、同窓ならではの和気藹々の雰囲気、また、名刺交換等も行われ、宴たけなわの

**ついに愛媛県に支部結成**

愛媛支部 事務局長 宮崎 望

次回も、また、何か会員諸兄にお喜びいただけるような会合を……と考えていますので、是非と

四国四県のうち、いまだ支部が結成されていないのは愛媛県だけであることを愛媛県在住のわれわれは、何か一抹の寂しさと責任を感じておりました。しかし、今まで支部結成について無為でいたわけではありません。新居浜市周辺在住の同窓生で、愛媛県にも支部結成を……という気運はありましたが、愛媛県という県は、予讃線の特急でも四時間以上を要する程、東西に細長い県で、さらに、同窓生がこの細長いところに点在しているため、支部結成の意図があっても諸般の情勢から意の如くならず今日に至ったというのが実情です。

このような情勢の中で、急に昭和五十七年頃から支部結成の気運が高まり、昭和五十八年九月、有志一同相集い、新居浜において同窓生の集いをもちました。当日は、二十余名の同窓生が集まり、各々学生時代の思い出を語り合っ

もご参加下さい。お待ちしています。では、次回お目にかかれることを楽しみにして……。

懐かしく楽しい一刻を過ぎました。そして、その席で、来年の二月に第二回目の会合を開こう……ということになり、東予地区を対象に話を進めておりましたところ、新年早々、同窓会本部の比企事務局長より、われわれの会合を母体にして愛媛県支部の結成を……との要請があり、県在住者の同窓生名簿が届きました。

そこで、昭和五十九年二月十九日(日)、新居浜で有志一同で同総会を開催する旨、比企事務局長に連絡しましたところ、「その会を県支部結成の基礎にしては……」といわれ、二月十四日(火)に比企事務局長が松山にお見えになりました。

比企事務局長のご配慮により、比企局長と同期の伊予銀行本店柳原芳史常務取締役(7)のご協力をえて、伊予銀行本店会議室に新居浜から小野茂樹氏(26)、青野博氏(35)、それに私、宮崎望(37)と、松山からは片山昭男氏(32)、

竹原功造氏(32)、児玉正勝氏(32)の六名が比企局長(7)、柳原常務立会の場で、審議、検討の結果、二月十九日の新居浜での同窓生の集いを大阪経済大学愛媛県支部の結成式とすることを全員一致で決定いたしました。

さて、二月十九日(日)の結成式会当日は、同窓会本部行事として丹有支部総会とワンダーフォーゲルOB総会が開催されるため、本部よりご臨席はいただけませんでした。佐伯千尋大先輩(1)から本年度卒業の田中謙二氏(50)までと、女性の川村美代さん(48)一名を含む三十五名もの同窓生が出席され、後藤太郎先輩(6)の音頭で乾杯、楽しい懇親会に入りました。なかには在学中に同じ下宿にいたもの同志が十数年ぶりに顔をあわせたり、いつも顔をあわせている取引先の方が先輩、後輩の関係であったり、また、守谷徹氏(49)と田中謙二氏(50)が詩吟を披露してくれた……、午後三時から始まった会も、あつという間に三時間が過ぎ去り、大いに盛り上がりを見せた会の締めくくりにはお互いに肩を組み逍遙歌を歌い、発会式でまた会いました。

を合言葉に閉会いたしました。

幹力が総力を結集した新企画の楽しい懇親会、約二時間の「経大の広場」は、本当に同じ釜の飯を食った仲間だけが理解できる楽しい会合でした。しかし、「時間よ止まれ」という訳にもいかず、次回の再会を約し散会となりましたが、盛会の余韻を楽しむように、それぞれの仲間同志が夜の高松の街へ……。

最後に、当支部の産みの親でもあり、支部結成にご尽力をいただきました比企事務局長ならびに本部役員の諸兄姉、特に、本部事務局の皆様にご心からお礼申し上げます。

なお、発会式は  
 ◇九月二日(日)午後三時から六時まで  
 ◇新居浜市泉宮町五―八  
 ◇会費、六五〇〇円(記念品および写真代を含む)、ただし、女性および現役は三〇〇〇円で行いますので、愛媛県出身、在住の同窓生の皆様、同じ釜の飯を食ったものが大いに語り、親睦を深めたいと思いますので、ぜひご参加下さい。お待ちしています。連絡先  
 ◇宮崎 望(37)  
 ◇支部長 小野 茂樹  
 例年なれば朝夕は秋風がたち、あるいは、二十十日の心配をしなればならない頃でもあるのに、まるで地球の自転が止まったかの

ように真夏日、熱帯夜が続き、人に会えば、「暑いですね……」という言葉が自然に口をついて出る今日この頃ですが、全国の同窓生の皆さん、お元気ですか……。

本年四月七日(土)に、皆様のご支援により、第三十番目の支部として仲間入りをさせていただいた愛媛県支部は、依然猛暑の続く九月二日(日)、新居浜市、コープ会館、鳳凰の間で発会総会を開催いたしました。



全国の同窓会員の皆様には、新

用して、カラオケ進行係を担当された妻鳥俊彦氏(44)がテーブルからテーブルへ……。自己紹介が終り、カラオケの準備の間に詩吟部OBの守谷徹氏(49)、田中謙二氏(50)それに、現役四回生の加藤和彦君による吟題「中庸」を聞かせてもらいました。カラオケは同窓会本部の比企事務局長を皮切りに、美声をほりあげる会員に拍手、拍手……。この楽しさを来年も……。いや、いつまでも保ちたいと思えました。特に、当日、お元気でご出席下さった佐伯千尋大先輩(1)、また、紅一点の川村美代さん(48)には、来年もぜひご参加いただき花をそえて欲しいと思います。一方、いろいろと支援してくれた現役4回生の小椋隆志、加藤和彦、林昌人、石川正人君にはお礼を申しあげます。

このような楽しい時間の経過は早いもので、定刻六時がきてしまいい加藤和彦君(4)のリードで全員肩を組み道遙歌を歌い、久米義隆氏(8)の音頭で万歳を三唱し、意義ある発会総会を閉会いたしました。

なお、末尾になり失礼と存じますが、当支部の発会総会に祝電をいただいた横田高知支部長、梶

居浜」といいましても、あまりおなじみがないと思えますので立地について一言。

愛媛県は南に四国山脈を、北に瀬戸内海を持つ東西に細長い地の利を有する県です。そして、高松から予讃本線の急行で約一時間走り、箕浦という駅を過ぎ、短いトンネルを抜けると、そこはもう愛媛県の紙の町、川之江市、伊予三島市です。さらに約三十分で、新居浜市に到着します。したがって、新居浜市は香川県寄りというより愛媛県の東の入口に存在する町です。新居浜から高松まで約一時間半、県庁所在地の松山までは約二時間、予讃本線の終着駅、宇和島まで約四時間というところに位置し、われわれはこの地方を東予地区と呼んでおります。その東予地区の新居浜になぜ愛媛県支部の事務局をおいたかは結成の経緯をお読みいただければご理解いただけると思います。

そこで、お国自慢を一つ、二つ……。新居浜は住友とともに発展してきた町です。元禄四年(一六九二)から昭和四十八年(一九七三)の閉山まで三十二年間、日本一の産銅量を誇った別子銅山をはじめ、

現在は、住友化学、住友重機、住友建設、住友アルミニウム、住友ノーガタックなど住友系諸会社が海岸地帯に林立し、一農漁村にすぎなかった町が住友企業の事業拡張と繁栄に伴い四国随一の工業都市へと発展しました。また、一

方では、滝の宮公園、広瀬公園、一宮神社、銚子の滝ハイキングコース、仏国山、瑞応寺、曹洞宗慈眼寺と菖蒲園、別子ライン、別子銅山の旧跡など。それに、十月十六、十七、十八の三日間の「太鼓まつり」は表現できないほど、まさにけんらん・豪華の一語に尽きる男の祭り……と工業と観光の町と自負しています。

さて、発会総会は定刻三時に宮崎 望氏(37)の司会で開会。飯尾貞雄氏(29)の開会のことばに続き、今はなき恩師ならびに同窓会員のご冥福を祈り一分間の黙とうを捧げました。守谷 徹氏(49)のリードで学歌を声高らかに斉唱した後、司会の宮崎氏より今日に至るまでの経過説明があり、役員選出と会則(案)の審議について議長選出方法が提案され「司会者一任」を拍手で決定し、議長に正岡六衛氏(38)が任命されました。議長より、役員(左記)と会則(案)

- 村丹有支部長、佐々木広島支部長、
- 柚木石川支部長、中川泉南支部長、
- 松本奈良支部長、八木西宮支部長(市長)、ならびに、ご丁寧なるお祝の書面をいただきました鮫島東京支部長、内田福井支部長、村上岡山支部長、永井東播磨支部長、松本和歌山支部長、永川姫路支部長、重松富山支部長、加藤東海支部長の皆様、特に、過分のお祝金をご高配いただいた柚木石川支部長様に対し心からお礼を申しあげます。皆様方とともに微力ながら尽力いたす所存でございますので、何卒ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。
- 支部長 小野 茂樹(26)
- 副支部長 飯尾 貞雄(29)
- 戸田 勲(30)
- 高橋 捷一(31)
- 青野 博(35)
- 栗谷 敬夫(35)
- 会 計 山地 義夫(33)
- 監 事 真鍋 一美(32)
- 池内 勝利(33)
- 事務局 宮崎 望(37)
- 顧問 佐伯 千尋(1)
- 後藤 太郎(6)
- 柳原 芳史(7)
- 久米 義隆(8)
- 布藤 尚一(8)

全国の会員の皆様へ。ぜひ一度、新居浜において下さい。お待ちいたしております。副支部長の飯尾貞雄さん(29)が、ビジネス・ホ

当日は、午前中、パシフィック・カントリーにおいてゴルフの親睦会を行いました。総会は、夜六時三十分より、同窓会本部から渡辺名誉会長、磯野会長、大学からは泉谷教授、黒正就職部主任の御臨席をいただき、出席者約四十名で盛大に挙行了しました。まず野崎邦男幹事(32)の司会により開会され、横田憲介支部長(7)のごあいさつにつづき、本部からのこ来賓、磯野会長より、同窓会の報告ならびに50周年を記念して新館建設のための寄付のお願いなど、ユ一モアを交えてのごあいさつがあり、泉谷教授より学園の現況および50周年の記念事業についてのお話し、黒正就職部主任の就職関係のお話しがあり、これで総会を終了しました。乾杯のあと懇親会を

についての提議があり、いずれも万場一致で可決。

支部長に就任された小野茂樹氏(26)よりあいさつがあり、引き続き続いて、本日の発会総会にご遠路ご臨席いただいた磯野 斉同窓会会長、和田憲明香川県支部長、比企 重同窓会本部事務局長より、それぞれのお立場からのご祝辞と同窓会の現況ならびに激励をかねたお言葉をいただきました。また、大学当局を代表して評議員・経済学部長、松村幸一教授より50周年記念事業の一環としての記念館建設など学園の近況を、黒正 明就職部主任より就職に関する現況と協力依頼のお話しがありました。そして、戸田 勲氏(30)の「閉会のことば」で無事発会総会を終りました。コープ会館内のスタジオで記念撮影を終り、いよいよ待望の懇親会に入りました。

まず、本年三月卒業の田中謙二氏(50)の乾杯の音頭で開宴。後はビール瓶片手に各テーブルを回る人、落着いて学生時代の思い出話を花を咲かせているグループ……。わいわい、がやがや、年代は異なっても、同じ釜の飯を食った輩同志、本当になごやかな時を過ごしました。自己紹介の間を利

現役の学生も参加し 高知支部 支部長 横田 憲介

昭和五十九年度高知支部総会は、八月四日(土)、高知第一ホテルで開催しました。当日は、午前中、パシフィック・カントリーにおいてゴルフの親睦会を行いました。総会は、夜六時三十分より、同窓会本部から渡辺名誉会長、磯野会長、大学からは泉谷教授、黒正就職部主任の御臨席をいただき、出席者約四十名で盛大に挙行了しました。まず野崎邦男幹事(32)の司会により開会され、横田憲介支部長(7)のごあいさつにつづき、本部からのこ来賓、磯野会長より、同窓会の報告ならびに50周年を記念して新館建設のための寄付のお願いなど、ユ一モアを交えてのごあいさつがあり、泉谷教授より学園の現況および50周年の記念事業についてのお話し、黒正就職部主任の就職関係のお話しがあり、これで総会を終了しました。乾杯のあと懇親会を

合い、後は、先輩諸氏のお話しを聞いていました。出席者の中には、高知の大手スーパ―「サニーマー」の中村雄一社長（32）も来られていて、学生と一緒に意匠をかかわっておられました。その様子を見ていて、来年以降も続けて行きたいし、出席者数も増えるのではないかと思っています。

### 名物「ぼたん鍋」で旧交を温める

山水の墨絵の世界を思わせる霧に包まれた朝の景色からも秋の深まりが感じられるようになりました。

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝で各方面にご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年も誌上を通じて支部だよりを交換することができまして誠にうれしく思います。

当地域は兵庫県東の内陸部にあるわけですが、阪神間の外縁地帯として、近年、社会的・経済的に著しい躍進を続けております。一方では、麗しい豊かな自然、香り高い文化に恵まれ、四季おりお

学生時代に戻り学歌を斉唱し、田上繁利県議会副議長（8）の音頭で宴会を終りました。

高知支部は、現在約一四〇名ですが、来年は参加人数も増やし、年々盛会になるよう頑張りたいと思います。

最後に、母校の益々の御発展をお祈り申しあげます。

（記 山脇宣明）

### 丹有支部 支部長 梶村 文弥

りの風情も格別であります。

ところで、われわれの支部は、大変複雑な組織のため、その運営にはいろいろと困難なこともあります。しかし幸いにも、六百数十名に及ぶ当地の高校出身者による会員を完全に掌握することができ、輝かしい伝統を継承し将来一層の発展を期しています。これは、本部のご理解あるご援助とご親切なご指導があればこそであり、深謝致しております。

さて、昭和五十八年度支部総会は、篠山地区が担当して次の通り盛大に開催しました。

とき 昭和五十九年二月十九日(日)十一時

こうした着実な歩みが約束されるようになりましては、支部役員はじめ会員各位のご配慮とご協力の

### 新趣向で 充実の総会

「わかくさ」団体が開かれる今年、昭和五十九年度支部総会は七月一日(日)、奈良県文化会館で開催いたしました。総会がマンネリ化

お陰であり厚く御礼申しあげます。会員の皆様のご多幸と母校の発展をお祈りいたします。

### 奈良支部 支部長 松本 孝之

する傾向があるので今年も、出席者が記念になり、有意義な一日であるように次の三つの企画を催し、八十余名の出席者諸兄の満足を得た次第です。

- (一)支部総会ネーム入り記念タオルを出席者全員に配布。
- (二)奈良市文化財保護審議会会長土井実先生の講演。
- (三)演題「奈良の文化財について」

当日は同窓会本部から磯野会長、渡辺名誉会長、大学から竹林祐吉教授の御出席をいただき、元田氏(29)の司会で開会。支部長は挨拶の中で「支部の発展には役員

の返信確立を高めるため、会員相互の自覚を」強調された。磯野会長は五十周年総会が盛大裡に終わったお礼の報告と、記念館建設の協力を依頼され、竹林教授からも同趣旨のご挨拶がありました。



ところ 篠山町・たかきこ  
出席者 五十一名(大学・本部 来賓三名)

玄関には、「大阪経済大学同窓会丹有支部総会々々場」と大きな字幕がつるされ、大広間はステージつきで総会会場の様相が整えられております。お互いの健康を喜び、再会を懐かしんで次第に参加者がつめかけ、ご来賓の方々に歓迎し、感謝申し上げる拍手の中で開会されました。学歌斉唱、支部長のあいさつと続き、磯野会長さんが支部総会を祝っていただくとともに、母校の創立五十周年記念式典並びに事業の概要や同窓会活動の近況とその意義などについてのお話しがありました。次いで、大槻先生からが述べられました。

そして、比企事務局長から同窓会と大学の進展について簡潔明確で情熱に満ちた提言がなされました。

支部報告のかずかずも順調に進み、次期総会は氷上地区で開催することを決定して閉会しました。

続いて記念撮影をし、あらためて懇親会の席に着きますと、冬の丹波名物、本場の美味「ぼたん鍋」がほどよく煮えたつておりました。

会計報告等議事は進行し、土井実先生の講演を拝聴。奈良の文化財を戦中、戦後、また、今日まで保護に努力された体験談には全員耳を傾け、深い感銘を受けた次第です。木山奈良市長(7)から市長立候補断念の趣旨説明があり、励ます会長堀氏(5)より、「残念であるが任期満了まで応援し、会は解散する」との提案があり承認され、総会も無事終了。記念撮影に入りました。

午後、懇親会に移り、今回新企画の出品コーナーには八社が参加された。高額商品を全員に配布される会員もあり、出席者番号で試供品を割り当てる社もあり、出品者のPR説明は和気藹々、拍手の連続で企画の成功を認識した次第

### 総会は「和田金」で本場の肉にしたつづみ

### 三重支部 支部長 水上 敏夫

在県同窓会会員諸氏、日夜ご健闘のことと拝察大慶至極に存じあげます。

年一回の「激江」でのご挨拶を謹んで申し上げます。残念ながら、最初に、ご報告申し上げますことは、副支部長、山本利夫氏(5)、

です。学歌のBGMに耳を傾け、談笑し、再会を約し、渡辺名誉会長の音頭で万歳を三唱し、閉会いたしました。

奈良支部も十一才になり、会員一、一〇〇余名になりました。名簿作成には支部で連絡を密にしておりますが、今回も数名の方に案内状の未着があり、お叱りを受けました。正確を期するためにも会員諸氏のご協力をお願いいたします。

次期総会は中和地区で予定しております。

最後に、総会開催に当り同窓会本部の多大のご協力に対し深く感謝いたします。

(文責・事務局、渕上 孝)

が去る昭和五十八年六月二十五日に逝去されました。三重支部会々員一同心から哀悼の意を捧げ度いと存じます。

三重支部会会員は第四十九回卒業生を含め、現在で三四一人と大世帯となりました。支部運営につきましては、会員諸氏の一層の心



からのご協力、ご援助を賜わりますよう懇願致します。

昭和五十八年度支部総会は、大阪市「和田金」で、十一月十三日、大学側、同窓会事務局より四人のご臨席を仰ぎ盛大に開催致しました。(和)田金社長、松田和祐氏(16)の特別のご配慮を賜わりましたことを深くお礼を申し上げます。

昭和五十九年度支部総会は津市で開催致します。日程は十一月十一日(日)ですから万障お繰り合わせご出席下さい。いずれ詳細は支部長



名でご案内申し上げますので、近況のご報告ならびにご回答を下さいますようお願い致します。なお、ご出席の方には三重支部会員名簿を差し上げます。本年は母校経大野球部が関西六大学で優勝の栄を獲得されました

### 各種同好会で親近感深める

同窓会の泉南支部総会を五月二十日(日)、午前十一時三十分より泉佐野市内の割烹「峯楽」に於て盛大に開催いたしました。

同窓会本部より磯野斉会長を初め渡辺達好名誉会長、比企事務局長、西本総務部副部長、また大学より内海健一理事、黒正明就職部主任等多数のご来賓をお迎えし参加者二十六名の同窓生が和氣満々のうちに時間を過ごしました。現在、私達の住んでいる泉州地区は国際空港問題で日々新聞紙上を賑しております。我々も希望と若干の不安を持って見守っております。泉南支部に於ても泉佐野市商工会議所副会頭の重里実氏(11)が日夜空港問題に取り組んでおられます。また、当支部は同好会として、

ので、早速三重支部として金三万円也の優勝祝金を送りました。会員諸氏のご了承を得ておきたいと存じます。簡単ですが支部報告と致します。会員諸氏の一層のご健闘をお祈り致します。

### 泉南支部 事務局長 車野 修三

ゴルフ会、カメラ会(撮影)、旅行会、陶芸会、テニス会を結成する予定です。ゴルフ会の第一回を、桜の美しい絶好のゴルフ日和の四月十七日、大阪ゴルフカントリーに於て敷内正博氏(1)のお世話で開催しました。また、近々、カメラ会は竹内三郎氏(10)のご指導で撮影に行く予定です。さらに、一月二十二・三日には、一泊二日の予定で新年会と役員会並びに懇親会を兼ねて北陸の片山津温泉に旅行することを決め

### 古代出雲文化 発祥の地に集う

出雲といえは「出雲国風土記」にみられるように、わが国の古代出雲文化発祥の地であることは周



知のことでしょう。歴にも「神無月」(十月)があるように、日本中の神様が出雲に集われるといわれ

### 島根支部 事務局長 神田 馨

ています。昨年は県庁所在地の松江で産ぶ声をあげた島根県支部は、今年、この出雲の地で支部総会を開催することになりました。

「十年一昔」という言葉がありますが、最近の地方都市は十年どころか、二、三年でその様相を大きく変えてしまっています。当支部産みの親である比企事務局長が町の中を車で走っている時、「浅原君、出雲は随分きれいな町になったね」と、また、「出雲はやはり日本の古代文化発祥の地として、その面影を保存した方が出雲らしくて、心がなごむのでは……」ともいわれました。そのように指摘されてみると、それは、やはり、昭和五十七年、島根県で開催された「くまびき国体」に、その一因があるように思えました。天皇陛下のご来臨に伴う道路整備、その他美観への配慮などが、街の様相を変えたといってもよいのではないのでしょうか。これらが町の施設を充実し、交通網を整備し、美観をもたらす、あらゆる面での町の発展に寄与したことは事実ですが、反面、それによって古さと伝統美が失われることは比企局長のお言葉のようには一抹の淋しさを覚えるのは私だけではないと思います。



さて、七月一日(日)、午後二時から(当日は奈良支部総会開催日とかさなっていたようですが)、くまびき国体開催の時、天皇陛下のご宿所となった島根厚生年金会館の「百合の間」で、母校より大槻理事、黒正就職部主任を、また、同窓会本部より、わが支部産みの親でありながら昨年体調をくずされてご出席いただけなかった、比企事務局長、西本総務部副部長のご臨席をいただき、三十有余名が集い開催いたしました。

総会は浅原宏氏(22)の司会により、まず、渡部弘一郎支部長

(9)、神田警務局長(10)より、それぞれのお立場から挨拶、大槻先生より50周年記念事業の概況のお話、黒正主任より就職についての報告とお願いがあり、引き続き、同窓会本部の比企事務局長、西本総務部長より、それぞれのお立場から母校50周年記念事業に対する全面的な協力依頼を主としたいろいろのことがユーモアを混えて話され、さらに、島根支部に続き第三十番目の支部として、九月二日に愛媛県支部が発会することを聞き、全員拍手で祝福を送りました。

さて、総会と記念撮影を終り、島根美人のコンパニオンを交えての待望の懇親会に移りました。杯を傾け、大いに語り、本当に楽しい一刻を過ぎました。やはり、同じ釜の飯を食った輩は何年たってもありがたいものだと痛感いたしました。美人コンパニオンと別れ難い気持を残しながら、また、来年の再会を約束して、この意義ある支部総会を閉幕しました。

まだご参加いただいていない同窓生の諸兄姉、是非、来年はご参加下さい。お待ちいたしております。大いに談笑しようではありませんか……。

最後に、母校陸上部で初めて秩父宮杯を受賞された、益田市在住の柴野茂大先輩(3)がご出席の予定でしたが、急用で拝見できなかったことが心残りの一つです。来年は、是非、お元気なお姿で、われわれ後輩をご指導下さいますようお願い申しあげます。

なお、「出雲の古きよき」を問われた比企事務局長に帰路、貞享年間(一六八四―一八八)大槻七兵衛(作州津山藩の家老であったが関ヶ原合戦のとき大阪方に味方して知行を失い、出雲に來り、農耕に従ったといわれる)によって開削され、用水路として利用されると同時に物資の輸送にも使用された、といわれる高瀬川と大槻七兵衛の銅像、さらに、その高瀬川兩岸の並木通りに残る出雲の風土をみていただきましたが、いかがでしたか……。ご同行できずお話を聞けませんでしたので、この紙面を拝借して……。出雲にも、まだ、裏通りには、そのよきたたずまいが残っておりますので、改めてゆくり、おいで下さい出雲へ……。

文責・浅原 宏(22) 同窓会支部役員リストは93頁に掲載。

# 学園の近況

- 人事 ● 59年度入試結果 ● 60年度推薦入学(募集要項)
- 60年度入学試験概要 ● 就職関係 ● 新刊紹介
- 学会 ● 学生生活実態調査 ● 公開講座

## 学園の活性化計画にご協力を



学長 鈴木 亨

同窓会の皆さん、ご壮健でそれぞれ各界において活躍のことと大慶に存じます。「先行き不透明」時代、「行財政改革」という減量作戦に入っている昨今のわが国経済界の真只中で、現在、四万三千名の卒業生諸兄が日夜奮闘されていることは、われわれ教職員はもとより、在学生にとっても力強い限りであります。

周知のように、昭和五十九年度政府予算の私立大学等経常費補助金は、臨調答申・行革推進の影響をうけて、総額一、四三億五千万円、昨年度比十二%の減額となり、私学にとってまことに厳しいものになっております。加えて経大では、教育条件を質的に充実整備するため、新入学生数を抑制しつつ、総学生数を減少せしめるよう努力してきましたので、今後は、学費収入の減少傾向をたどるのであることは避けられない状況下にあります。かかるさなか、私どもは昨年十一月二日、新阪急ホテルにおいて創立五十周年記念式典を行いました。多数同窓生のご参加をいただき、盛大裡に挙行することができました、沈

静のなかから沸きおこる雄叫びを聞く思いで、感激ひとしおであります。

あの日の感激を一過させることなく、式典でご報告しました通り、将来に向けての積極的な教学改善を打ち出す所存であります。例えば、新カリキュラム導入に伴う学生実習用のコンピュータ、視聴覚教育機器の設置により時代に適合した知識・技能を習得させる。開かれた大学として八月からは、昨年同様第二回公開講座「世界の明日に窓を開く」を開催いたします。また秋には記念講演会、学園功労者表彰、学園関係物故者法要、五十周年記念論文集の発行など、種々の記念行事を予定しております。

低成長時代ではありますが、今後、記念館建設で代表される諸々の、経大活性化計画のため、近い将来の募金事業には、これらの記念事業の意義を十分お汲み取りいただきまして、格別のご協力を仰ぎたく、お願いする次第であります。

昭和五十九年六月

## 人事

◆鈴木亨現学長の再任が承認されました

公 示

○五十八年十一月二十八日、理事会は、教授会が次期学長として選出した鈴木亨教授を学長に再任することを承認した。

○任期は昭和五十八年十二月二十二日から三カ年十一月二十九日

学校法人 大阪経済大学

◆名誉教授授与

昭和59年3月末をもって退職されました藤原光治郎先生、杉浦貫一先生、玉井孝弘先生に、大阪経済大学名誉教授の称号が4月1日付で授与されることになり、その授与式が4月11日、学長室で行われました。

藤原先生は昭和11年、本学に着任されて以来、54年の定年まで、主に経済理論の講座を担当されるかたわら、経済学部長、大学院委員長、就職部長、図書館長、理事などの重職も歴任され、専任教授退職後は特任教授として本学の発展に大きく貢献されました。

杉浦先生は昭和28年、本学に着任されて以来、54年の定年まで、主に物権法、債権法の講座を担当されるかたわら、経済学部長、就職部長などの重職も歴任され、専任教授退職後は特任教授として本学の発展に大きく貢献されました。玉井先生は昭和28年、本学に着任されて以来、59年の退職までに、主に英語の講座を担当されるかたわら、教養部長、就職部長などの重職も歴任され、本学の発展に大きく貢献されました。

◆左記の先生がたが退職されました。

永い間どうもご苦勞さまでした。

特任教授	岡村 正人
特任教授	杉浦 貫一
特任教授	藤原 光治郎
特任教授	田中 健一
特任教授	古久保 五郎
教授	渋谷 寿夫
教授	玉井 孝弘
教授	内田 三良
教授	内田 三良

なお、渋谷寿夫先生は引き続き特任教授として、活躍しております。

◆海外出張

久保田 諄 教授

行先	目的	期間	行先	目的	期間
青水	NCC、アメリカコンピ	59・6・4～9・15	青水	司 講師	
行先	ラสบエガス		行先	ラสบエガス	
中村	九一郎 教授		中村	九一郎 教授	
行先	大学、博物館などの視察		行先	大学、博物館などの視察	
西口	俊子 教授		西口	俊子 教授	
行先	国際経済学会		行先	国際経済学会	
高城	中小企業国際会議		高城	中小企業国際会議	
行先	シンガポール		行先	シンガポール	
元浜	清海 教授		元浜	清海 教授	
行先	世界哲学会		行先	世界哲学会	
木村	敏男 教授		木村	敏男 教授	
行先	ニューヨーク・ポストン		行先	ニューヨーク・ポストン	
西野	証治 教授		西野	証治 教授	
行先	シンガポール他		行先	シンガポール他	
井手	経三 教授		井手	経三 教授	
行先	国際生理科学会議		行先	国際生理科学会議	
高城	オーストラリア		高城	オーストラリア	
行先	オーストラリア		行先	オーストラリア	
中川	操 教授		中川	操 教授	
行先	ロンドン・アイルランド		行先	ロンドン・アイルランド	
細羽	由三 学生課長		細羽	由三 学生課長	
行先	鍋島 哲郎 中小研課長		行先	鍋島 哲郎 中小研課長	
行先	現地教育施設の見学と交流		行先	現地教育施設の見学と交流	
期間	イギリス等ヨーロッパ		期間	イギリス等ヨーロッパ	
59・8・4～8・16			59・8・4～8・16		
役職者一覧	昭和五十九年四月一日現在		役職者一覧	昭和五十九年四月一日現在	
学長兼	鈴木 亨		学長兼	鈴木 亨	
理事長代理	松村 幸一		理事長代理	松村 幸一	
経済学部長	竹林 祐吉		経済学部長	竹林 祐吉	
教養学部長	西野 証治		教養学部長	西野 証治	
大学院委員長	井上 乙平		大学院委員長	井上 乙平	
入試部長	岡本 昌夫		入試部長	岡本 昌夫	
学生部長	松尾 竹彦		学生部長	松尾 竹彦	
就職部長	松本 剛		就職部長	松本 剛	
図書館長	松本 剛		図書館長	松本 剛	
体育館長	松本 剛		体育館長	松本 剛	
広報部長	香川 幸策		広報部長	香川 幸策	
日本経済史	黒羽 兵治郎		日本経済史	黒羽 兵治郎	
研究所所長	岡本 正		研究所所長	岡本 正	
産業経済	岡本 正		産業経済	岡本 正	
研究所所長	岡本 正		研究所所長	岡本 正	
中小企業経営研究所	藤田 敬三		中小企業経営研究所	藤田 敬三	
経営研究所所長	藤田 敬三		経営研究所所長	藤田 敬三	
事務局長	玉岡 浩		事務局長	玉岡 浩	

● 訃報 ●

◆ 建林隆喜教授逝去



経済学部教授建林隆喜先生は、3月24日(土)午前1時40分、入院先の大阪大学医学部附属病院(福島区)において、リンパ腫のため死去されました。享年44歳。先生は昭和15年1月7日、山口県玖珂郡玖珂町に生まれ、38年3月京都大学経済学部卒業、43年3月同大学大学院経済学研究科博士課程終了。本学へは、同博士課程在籍中の42年4月から助手として就任。43年4月講師、48年2月助教授、56年9月教授に任せられ、54年4月から56年3月まで経済学部副学部長として、数学に学生指導に尽力されました。

◆ 杉浦貫一名誉教授逝去



名誉教授杉浦貫一先生は、6月3日(日)午後3時15分、入院先の吹田市市民病院において、胃ガンのため逝去されました。享年75歳。先生は明治41年10月13日のお生まれ、ご出身地は岡崎市菅生町、昭和9年3月京都帝国大学法学部卒業、15年4月同大学法学部大学院を退学されて渡満。満鉄調査部調査員を皮切りに、種々の職場を経て、28年4月、本学専任講師として就任。30年5月助教授、34年4月教授に任せられ、主に物権法、債権法の講座を担当されるかわり、44年12月からは経済学部長を3期、学生部補導課長、就職部長の重職を歴任。54年3月定年退職後は、特任教授として数学に学生指導に尽力されました。59年4月1日、大阪経済大学名誉教授の称号が贈られました。

昭和五十九年度  
入試結果

◆ 特技(スポーツ)推薦

11月8日に実施された昭和五十九年度特技(スポーツ)推薦入学者の志願者・合格者状況は左記のとおりです。

一、志願者・合格者状況

種目別内訳	志願者数	合格者数
柔道	34	95
剣道	35	100
陸上競技	3	
バドミントン	2	
卓球	3	
ラグビー	11	
バスケット	3	
バレーボール	3	
ハンドボール	5	

◆ 普通科・商業科推薦

12月4日に実施されました標記推薦入試の志願者・合格者等の状況は左記のとおりです。

普通科対象

一、志願者・合格者等状況

種目別内訳	志願者数	合格者数
経済学部	42	42
経営学部	42	38
合計	84	80

二、依頼校別状況

依頼した高校数	志願者数	合格者数
74	42 (57%)	38 (51%)
75		

商業科対象

一、志願者・合格者等状況

種目別内訳	志願者数	合格者数
経済学部	14	14
経営学部	14	24
合計	28	38

◆ 昭和五十九年度入試結果

2月9日、10日の両日実施されました59年度入試の志願者、合格者等の状況は別表のとおりです。昭和59年度入試の志願者合計は一四、二五二人で、昨年と比べ、三〇四人の増加(二二%)であった。

第一部は経済・経営両学部間の隔年現象が本年もみられ、経済学部が志願者増、経営学部は志願者減となった。また、第二部は全体で九・五%減少になった。

	第1部			第2部		
	経済	経営	合計	経済	経営	合計
志願者数	6,843 (56)	6,214 (65)	13,057 (121)	624 (5)	571 (6)	1,195 (11)
受験者数	6,721 (53)	6,083 (60)	12,804 (113)	605 (4)	542 (6)	1,147 (10)
合格者数	1,580 (22)	1,717 (22)	3,297 (44)	237 (2)	231 (5)	468 (7)
倍率	4.3	3.5	—	2.6	2.3	—
合格者最低点	290	247	—	217	185	—

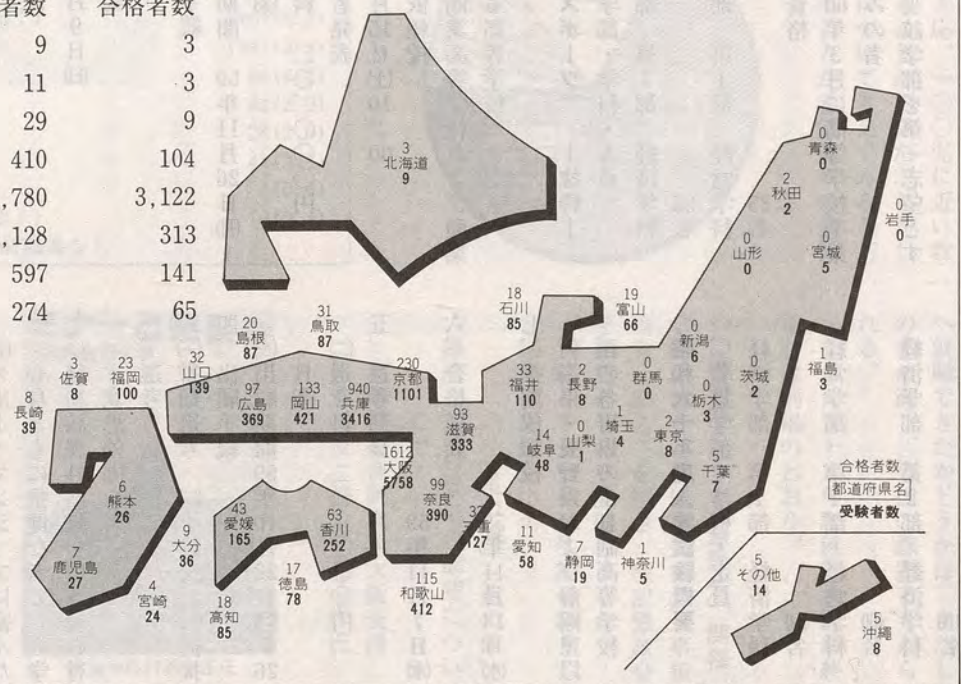
※( )は女子内数、総点450点

【地区別志願者・合格状況】

(第1・2部計)

地区	志願者数	合格者数
北海道	9	3
東北	11	3
関東	29	9
中部	410	104
畿内	11,780	3,122
中国	1,128	313
四国	597	141
九州	274	65

府県別受験者・合格者数(第1部・第2部)



昭和六十年  
入試・推薦入学  
募集要項

◆ 普通科対象 — 抜粋 —

一、募集学部・学科・人員  
経済学部 第1部 経済学科 120名

二、出願資格  
(一)昭和60年3月に高等学校普通科卒業見込みの者。

(二)本学当該学部を第一志望とする者。

(三)向学心に燃え、かつ人物優秀で健康な者。

(四)高等学校3年1学期までの全教科評定平均値の平均が3.8以上の者。

三、選考方法

(一)書類選考  
(二)小論文  
(三)面接

四、選考日

59年12月9日(日)  
五、選考場  
本学

- 六、出願手続  
 (一) 出願期間 59年11月26日(月) 30日(金)  
 (二) 選考料 二〇、〇〇〇円  
 七、合格発表  
 59年12月15日(土) 10:00  
 八、推薦依頼校  
 本学が指定する高等学校

◇商業科対象 — 抜粋 —

一、募集学部・学科・人員	経済学部 第1部 経済学科	20名
二、出願資格	経済学部 第1部 経営学科	20名

- 一、出願資格  
 (一) 昭和60年3月に高等学校商業科卒業見込みの者。  
 (二) 本学当該学部を第一志望とする者。  
 (三) 向学心に燃え、かつ人物優秀で健康な者。  
 (四) 高等学校3年1学期までの学習成績概評がA段階の者。  
 (五) つぎの3つのうち、1つ以上の資格を取得している者。  
 ① 日本商工会議所主催の簿記検定2級以上。  
 ② 全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定1級(工業簿記・会計を含む)。

- ③ 全国商業高等学校協会主催の情報処理検定2級以上。  
 三、選考方法  
 (一) 書類選考  
 (二) 小論文  
 (三) 面接  
 四、選考日  
 59年12月9日(日)  
 五、選考場  
 本学

- 六、出願手続  
 (一) 出願期間 59年11月26日(月) 30日(金)  
 (二) 選考料 二〇、〇〇〇円  
 七、合格発表  
 59年12月15日(土) 10:00  
 八、推薦依頼校  
 全国の商業高等学校および商業科のある高等学校。

- ◇特技(スポーツ) — 抜粋 —  
 一、募集学部・学科・人員  
 経済学部 第1部 経済学科 35名  
 経営学部 第1部 経営学科 35名  
 二、出願資格  
 (一) 昭和60年3月に高等学校卒業見込みの者。  
 (二) 本学当該学部を第一志望とする者。

- (三) 高等学校3年1学期までの学習成績概評がC段階以上の者。  
 (四) 高等学校在校中課外活動としてスポーツを行い、その成績が顕著な者。  
 (五) スポーツマンシップに富んだ心身ともに強健な者で、入学後当該課外活動を引き続き行う意思強固な者。  
 三、選考方法  
 (一) 書類選考 (二) 小論文 (三) 面接  
 四、出願手続  
 (一) 出願期間 59年10月22日(月) 26日(金)  
 (二) 選考料 二〇、〇〇〇円  
 五、選考期日  
 59年11月7日(水)  
 六、合格発表  
 59年11月14日(水)  
 七、推薦依頼校  
 新潟県・長野県および静岡県以西の各府県の全日制高等学校

- ◇昭和六十年入学試験概要  
 一、募集学部・学科・定員  
 経済学部 第1部 経済学科 400名  
 経営学部 第1部 経営学科 400名  
 経済学部 第2部 経済学科 100名

教科科目	配点	時間(分)
国語	150	70
外国語	150	70
英語 I・II・II B・II C	150	70
政治・経済	150	70
日本史・世界史	150	70
地理	150	70
簿記会計 I・II	150	70

- 五、合格発表日  
 昭和60年2月19日(火)  
 六、出願手続等  
 (一) 出願期日 昭和60年1月11日(金) 1月25日(金)  
 (二) 検定料 二〇、〇〇〇円  
 ※入学案内(要項・願書等)について  
 十一月月上旬に発行の予定。代金は七〇〇円(郵送請求の場合は送料共一、〇〇〇円)。

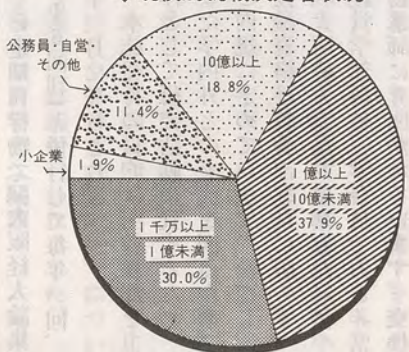
## 就職関係

### ◇昭和五十八年度就職状況

前年に引き続き、就職戦線は一向に景気回復の兆候を見せず、当初採用増を打ちだしていた企業でさえ、「人材の質的確保」ということに名分を切り換えて、実質的に採用人員の縮少を図るといふ全く狭き門を再現、売手市場の予想は買手市場へと様が変わりしていた。この情勢を反映して、担当者の心底には積み残しの不安がくすぶってはいたものの、最終的な就職

決定率は一応、一〇〇%に近い数字を挙げることができた。しかしその内容について考えてみると、果して学生各人が希望通りの会社

### ◇規模別就職決定者状況



### ◇業種別就職決定者状況

業種	1部	2部	合計%
製造	326	42	368 (25.8)
商事	316	43	359 (25.1)
金融	176	22	198 (13.9)
サービス	189	3	192 (13.4)
公務員	105	10	115 (8.1)
運輸倉庫	71	22	93 (6.5)
建設	13	3	16 (1.1)
マスコミ	13	2	15 (1.1)
公社・公団	11	1	12 (0.8)
不動産	10	1	11 (0.8)
その他	6	1	7 (0.5)
合計	31	11	42 (2.9)
合計	1,267	161	1,428 (100.0)

### ◇地域別就職状況

地域	人数%
大阪府	705 (49.4)
近畿(大阪府除く)	346 (24.2)
東京都	189 (13.2)
中国地区	60 (4.2)
四国地区	42 (2.9)
北陸地区	28 (2.0)
中部地区	44 (3.1)
九州地区	8 (0.6)
関東地区(東京都除く)	6 (0.4)

※東北・北海道は就職者なし

へ就職できたかどうかは、未だしの感が深く、今後の課題と考えられる。  
 なお、五十八年度就職状況最終集計は別掲のとおり。

### ◇「産業セミナーと懇談会」開催

就職部では、優良企業の人事担当者(85名)を招き、標記懇談会を左記のとおり開催しました。  
 日時 5月15日(火)午後2時  
 場所 新阪急ホテル  
 「星の間」「花の間」  
 講演 「内外景気の展望について」  
 野村総合研究所大阪支所 支所長 村瀬光正氏

### セミナーと懇談会



講演中の村瀬光正氏

講演の内容は予め配布した、グラフによって示されたわかりやすい資料をもとに、村瀬所長が、更に具体的に補足説明された。さすが経済調査機関として世界的に権

威のある野村総研の情報と感銘を深くし、一入有意義なセミナーとなった。ほとんどの人がノートされていた姿はその間の実情を物語るものであり印象的であった。

### ◇就職講座開催

就職講座が左記のとおり開催されました。就職活動を間近にした熱心な学生で会場は超満員。企業の選び方や面接の心構えなど、有意義な講演会でした。

### △第一回▽

テーマ 就職戦線突破の秘訣  
 講師 小林経営研究所 所長 小林 靖和氏

### △第二回▽

テーマ 面接の心構え——話し方・聞き方・応じ方  
 講師 長尾経営研究所 所長 長尾 晃氏

### △第三回▽

テーマ 就職模範面接編  
 講師 三中正企業の見分け方

### △第四回▽

日時 6月6日(水) 13時~16時  
 場所 学生会館

### △第五回▽

日時 6月18日(月) 14時~16時  
 場所 C41教室

### 国庫助成

◇昭和五十七年度  
私立大学等経常費補助金について  
昭和五十七年十一月二十四日付  
で申請していた標記の件について、  
五十八年八月二十六日付で、交付  
確定通知がありました。

【確定額】四九、六五、〇〇〇円  
(前年比二・一%減)

◇昭和五十八年度私立大学研究設  
備整備費等補助金の確定について  
昭和五十八年六月二十九日付で  
申請していた標記の件について、  
五十九年二月二十七日付で確定額  
(四、四〇〇、〇〇〇円)の通知が  
ありました。

◇伊藤武教授に学位授与  
伊藤武教授に昭和五十九年  
一月十二日付で東北大学経済  
学博士の学位が授与されまし  
た。



### 本学で 開催された学会

◇信用理論研究会  
昭和58年度秋季大会

日時 五十八年十一月七日(月)

場所 第一会議室

第一部 報告および討論

『金融資本論』の課題と信用論

報告者 高山 洋一氏

(大東文化大学)

コメンター 坂本 正氏

(熊本商科大学)

第二部 報告および討論

信用制度と国際金融市場の成立

—外国為替制度

(為替銀行)の必然性論を中心

に—

報告者 宮田美智也氏

(金沢大学)

コメンター 平岡 賢司氏

(北海学園大学)

◇日本中小企業学会西部部会

日時 五十九年一月十四日(土)

場所 第二会議室

報告 河崎亜洲夫氏(大阪府立

商工経済研究所) 親企業

の技術進歩と下請中小企

### 新刊紹介

◇学内刊行物



『大阪経済大学教養部紀要』創刊  
『教養部紀要』第一号が一九八  
三年十二月三十一日付で発行され  
ました。

本誌は、大阪経大会発行の新  
しい定期刊行物で、『大阪経大論集』  
(年6回刊)と併行して毎年一回、  
十二月に発行されます。

本誌発行の目的は、「教養部を主  
体として研究活動に資するため、  
また学内外との交流を図るため」  
と内規に定めています。ただし、  
投稿資格は教養部教員に限らず、  
『大阪経大論集』に準じた経済、  
経営学部教員、学会員である非常  
勤講師にも開かれています。交換  
先は、『大阪経大論集』の配布先に  
加えて、全国の教養部、一般教育  
関連の研究機関にひろげ、一般教  
育関係での研究交流の拡大と充実  
を図ります。

業への影響

石倉三雄氏(京都学園大

学) 伝統的工芸品産業を

めぐる諸問題と対応策—

「伝統的工芸品産業の振

興に関する法律」を中心

として—

◇日本学術振興会産業構造・中小  
企業第118委員会

日時 五十九年一月二十七日

場所 特別会議室

今回は第183回で、「構造不況下

における中小企業の諸問題」につい

て報告、討議が行われました。

◇日本OR学会(関西)

日時 五十九年二月二十五日

場所 特別会議室

テーマは「経営科学文献情報検

索システムについて」で、報告・

討論のほか大阪大学とのオンラ

インによる実演が行われました。

◇日本学術振興会産業構造・中小

企業第118委員会

日付 五十九年六月八日、九日

◇その他の学会

日本経営工学会研究開発管理部会

関西中小企業研究会

日本商業学会(関西)

六二  
六三  
六四  
六五  
六六

日本経済史研究所編

『経済史文献解題』昭和58年版

清文堂出版 58年12月 500ページ

産業経済研究所・中小企業経営研  
究所・経営研究所編

『蔵書目録第四巻』一九七八、

一九八二年度

59年3月 522ページ

樽本照雄著

『清末小説閑談』法律文化社

58年9月 403ページ(大阪経済

大学研究叢書第11冊)

日本における中国文学研究の現

状を紹介した中国語の文章がある。

それによると日本の学界は清末文

学研究に相当の力を割いていると

いう。中国の学界がそう認めてい

るということは、換言すれば、中

国においてさえ清末文学の研究が

充分でないことにほかならない。

拙著『清末小説閑談』の「清末小

説」とは、清朝末期の小説をいう。

辛亥革命(一九一一年)で中華民

国が成立する直前で、日本では明

治三十、四十年代に相当する。故

に、中国人作家が日本を訪問して

いたり、日中の作家どうしの交流

が持たれていたり、はなはだしく

は日中の書店が合併していたりす

る。中国に新しい文学をもたらした

最初の雑誌は日本の横浜で発行

され、中国に輸出されるといった

具合で、この時期の文学は日中間

係を無視しては成り立たない。し

かし研究は緒に就いたばかりだ。

もの静かに、雑談をするという意

味の「閑談」を書名に採用した理

由でもある。

谷口明丈著

『アメリカ初期トラストの研究—

アメリカ独占資本主義成立史への

プロローグ—』59年3月99ページ

(大阪経済大学経営研究所 研究

シリーズ第6冊) 定価900円、200円

渋谷寿夫教授古稀記念号

(大阪経大論集 158号)

59年3月30日

◇貴重文献 英国議会資料が

図書館に

図書館では、この度、英国庶民・

貴族両院議向日誌を入手しました。

一八五二年までの両院日誌を国

内で所蔵しているのは本学だけで

す。英国の政治・法制・経済・社

会史等の貴重な資料となることで

しょう。

### ◆新刊紹介◆

竹林祐吉著

『日本のボランティア・チェーン』



竹林先生は、現在、経営学  
部長として、教学、研究に重  
要な役割を果たし、多忙な日  
日を過しておられますが、こ  
のたび第四冊目の著書として  
標記の書を上梓されました。

「序」によれば、先生は数年

にわたる大阪ボランティア・

チェーンに関する一貫的調査

をご担当、その実情に親しく

接しておられ、また、数度の

ヨーロッパ・ボランティア研修

旅行に参加して、日欧のボラ

ンタリー・チェーンを絶えず

比較研究しておられます。そ  
こで、先生は「その方向を見  
極めることができ、わが国の  
ボランティア・チェーンに対  
する確信をもたらした根拠  
を、過去断片的な発表の寄せ  
集めとしてでなく、新しく書  
き直したものと、述べてお  
られます。

本書の購入については書店

でお願いします。

千倉書房発刊

昭和59年4月刊

定価3,000円



### 学生生活実態調査

◇学生生活実態調査を行いました  
 学生部では、昭和五十八年十一月から十二月にかけて、全学生の1/8を無作為に抽出し、八十六名を対象に学生生活実態調査を実施しました。結果、四六八名(回収率五七・四%)の回答を得、所期の回収率をやや下まりました。そのうち「本学に対する希望」欄への記入者は二八一名あり、その内容には大学に対しての強い要望や、あるいは厳しい批判等の貴重な意見が多くみられました。

この調査の主目的は、本学学生の生活実態を把握し、修学および福利・厚生面の基礎資料とするためのもので、大学としても、このアンケートの趣旨に沿って、学生の貴重な意見は謙虚に受けとめ、無駄にすることなく、学生生活に対して理解を一層深めていきたいと考えます。さらにあらゆる機関で検討し、本学をより良くするための糧にしたいと思えます。

今回の学生生活実態調査のうち、大学に対する希望「欄でとくに意見が多かった主なものは次のとおりです。

- 一、施設に関する事項
  - ① キャンパスの拡充、移転、統一〇八件
  - ② 学舎(教室)全般の拡充 五十八件
  - ③ 学舎、校庭の美化、緑化 四十二件
  - ④ 談話室の拡充 二十六件
  - ⑤ 生協関係全般の拡充二十六件
- 二、教学に関する事項
  - ① 講義内容の充実 四十五件
  - ② 単位数、制限単位の問題 二十七件
  - ③ 学科目、履修科目の問題 二十四件
  - ④ 学部増および総合大学化 二十一件
  - ⑤ 女子学生の増員 十八件
- 三、課外活動に関する事項
  - ① クラブ活動内容の充実、強化、活性化 六十一件
  - ② 勧誘問題に関する事項 三十三件
  - ③ 新設クラブ(同好会含む)の推進 十八件
- 四、事務に関する事項
  - ① 事務内容の充実(手続き、処理等)に関する四十二件
  - ② 事務職員の応対に関する四十七件

③ 事務取扱い時間に関する事項 二十四件

### 公開講座

◇第1回公開講座第二会場を設ける  
 当初一五〇名定員のところ、受講希望者が倍以上に及び、急拠、文化情報センターと協議の結果、第二会場を立正佼成会大阪普門館(西区京町堀1-5-15)を借りて、繰り返し開催しました。

#### 第1回公開講座アンケート結果等

「二十一世紀に向けて翔ぶ中小企業」をメインテーマに、十一月七日から十二月十三日にかけて行われました第一回公開講座の申込者数、出席者数および各会場で最終日に実施しましたアンケートの結果は次のとおりです。

「定員および申込者数」  
 当初定員 150人 申込者数 509人

「出席者数」

第1日	第2日	第3日	第1会場	第2会場	合計
163人	107人	87人	133人	104人	236人
133人	104人	89人	296人	211人	507人

第4日	82人	70人	152人
第5日	73人	73人	146人
合計	512人	469人	981人

「アンケート結果」

(1) アンケート数	出席者数	回収率
第1会場	73人	71人
第2会場	73人	73人
合計	146人	144人

(2) 年齢

20代	24(2)人	16.7%
30代	26(5)人	18.1%
40代	48(5)人	33.3%
50代	27(0)人	18.8%
60代	19(0)人	13.2%

(3) 職業

自営業	22人	15.3%
会社員	86人	59.7%
公務員	8人	5.6%
学生	6人	4.2%
他・不明	22人	15.3%

(4) 居住地・勤務地

居住地	勤務地
大阪市内	37人 25.7%
大阪府下	74人 51.4%
京都府	6人 4.2%
兵庫県	19人 13.1%
他・不明	8人 5.6%
新 聞	84人 56.4%
ポ ス タ ー	42人 28.2%

### 体育特別教室(トレーニングルーム)完成



西学舎の体育館に隣接する学生ホール一階の、旧生協食堂跡に、かねてより工事中であった、体育特別教室(トレーニングルーム)が、五十九年四月改造工事が完了し、若干の基礎トレーニング用機器を設置して、五月から使用開始しました。

教職員の、筋力アップのトレーニングと、基礎体力の訓練およびその向上に役立つものと思えます。

59年5月現在の設備機器類

フラットベンチ	4台
デイクライムベンチ	1台
ベンチプレスベンチ	1台
腹筋台	8台
亜鈴	8K 16K 14組
ダンベルシャフト	2.5K 14本
バーベルシャフト	7.5K 20本
	10.0K 10本
	20.0K 2本
プレート	1.0K 166枚

◇第2回公開講座概要  
 五十九年度も第二回公開講座を大阪府立文化情報センターと共催で開催することになりました。

第二回公開講座の概要は以下の通りです。

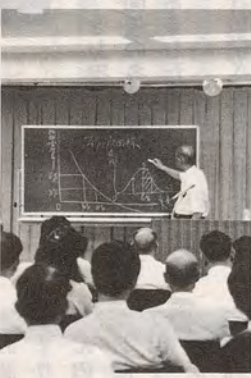
は軍事大国として挫折した。戦後再生の道を歩んで三十九年。今や経済大国となり、ジャパン・アズ・ナンバワンといわれ、もはや欧米に学ぶことなしとの声さえある。しかし、二十一世紀を目前にして、わが国が進むべき道は必ずしも平坦ではない。

今こそ国民一人ひとりが、世界資本主義、社会主義、第三世界——のそれぞれに、虚心に窓を開くことを求められているのではないだろうか。

経済学部長 松村幸一  
 「メインテーマ」 世界の明日に窓を開く

「日時」 五十九年八月二十四日(金) 九月十四日(金)  
 午後6時30分～8時30分  
 「場所」 大阪府立文化情報センター  
 「スケジュール」

- 8・24(金) 目で見るイギリス経済史 松村 幸一
- 8・31(金) ケインズは死んだか 末永 隆甫
- 9・4(火) 苦悩する現代社会主義 上島 武
- 9・7(金) 世界経済の前途を占う 松原 和男
- 9・14(金) 南西アジアの文化と経済 尾崎 彦朔



わが国は明治維新によって世界に窓を開いたが、その後もつばら「脱亜入欧」の道を進み、ついに

卒業生の皆さんに好評を得て、今回も各地から続々と「ゼミナル短信」をお寄せいただきました。各先生方を通じて同窓会（ゼミナル）同期生会（ゼミナル）開催の各幹事に寄稿をお願いしました。また、各先生にご近況、追悼文なども寄稿していただきました。

## ゼミOB会 今冬、沖縄を視察 OB各地で活躍

交通ゼミ 稲原 康雄

今冬は慶良間の渡嘉敷へ渡った。船上で米軍マリーンと飲んで潰れた土もあれば、阿波連の海で熱帯魚と泳いだボーイズも多い。この島には米軍の施設返還跡に建てられた国立青年の家がある。止泊の一夜、私は帝国陸軍の面目を知るを得た。それは、曾野綾子の作家的描写とは異なった事態なので紹介しておく。①この島には約二六〇人の特攻部隊と朝鮮人軍夫二千が駐屯し、陸士出の青年将校赤松大尉が、全島民にも君臨する至上指揮官であった。②米軍上陸の直前、出撃体制を完了し息を殺して下令を待つ八〇隻の人間魚雷に、彼は意外にも出撃中止を命じた。時期既に遅しと。③米軍上陸するや、彼は全島民に軍壕への集結を命じたが壕内には入れず、翌朝、集結した島民に手榴弾を増配して自決を命じた。④彼は持久戦を策して全く出撃せず、生残りの島民には保有食糧の五割供出を処刑のおどしを

以って強制した。⑤伊江島から移送された人々や集団自決のオチコボレ少年など、降伏勧告に軍壕へ来た日本人を悉く斬首銃殺した。かくて、沖縄本島陥落後約一ヶ月、生残りの島民の集団投降により孤立無援となって初めて、高松部隊は全員無傷で降伏した。尤も、ひそかに敵中に斬り込んで空しく果てた魚雷艇長たちもあつた由。

自動車部創設当時の会長岡本直樹氏は、卒業後十七年、岡山で自称よろず屋を構築して年商三十億と活躍中。その盟友塚田輝雄氏も独立して一城の主となる。舞鶴に帰った江守光起氏は、市議を経て京都府議に進出。増田多喜夫氏を初め、土谷、吉田、奥田の諸氏、OB組織の活性化に乗り出す。

## ゼミOB会 健康法から商いまで 北里先生の話を押聴

北里ゼミ会

北里会の皆様お元気ですか。今年の総会とは案内申しあげました通り、われら古里（立派になりましたが）の母校会



言葉「良い物を安く売ると買手が万来する。良い物を安く売ると売手が万来する（売手信用）」など、有益なお話でご指導下さり、われわれの知り得なかつた先生の一面を垣間見て、ますます先生の偉大さを感じるとともに、親しみを覚えました。

本当に有意義な二時間にわたるお話でした。さて、懐かしい母校を後にし、新大阪駅に近いガーデンパレスホテルの二階に会場を移し、同窓会を代表してご参加いただいた比企事務

局長を交え、先生ご夫妻、ご臨席いただいた諸先生方のご健勝を祝して杯を交わし、時間を忘れて心ゆくまで語り合い、またの日を約して、この有意義な一日の幕を閉じました。先生ご夫妻のますますのご健勝を祈念しつつ……。

なお、住所、呼称変更、あるいは、勤務先、電話などの変更がございましたら

越川 昇

へご一報下さいますよう、ご協力お願い申し上げます。

高野 守 (22)

## ゼミOB会 七夕の宵 十二回目の倉春会

（倉辻ゼミOB会）倉春会

昭和五十九年七月七日(土)、倉春会（倉辻ゼミOB会）が、梅田、新阪急ビル十二階の「レストラン・パレス」で小雨の降りしきる中、盛大に開催されました。

倉春会は発会以来、今年で十二回目になり、歴でいえば一まわりしたことになります。その一まわり目の七夕にと縁起をかついで、先生がこの日を選ばれましたが、参加者は四十有余名と、例年に比べて若干少なかったことは、世話人としていささか寂しさを覚えました。しかし、ゼミOB会の中でこのように長い歴史と伝統を誇る倉春会の健在を目のあたりに



して、われわれ現役も心強さと、伝統の重さを感じました。

会は、まず、陶山知康会長の開会の言葉で始まり、倉辻先生や同窓会本部の比企事務局長らのユーモラスなお話の後、乾杯でお互いの健康を祝し合い懇親会に入りました。時間がたつにつれ、アルコールで潤った口元は自らほころび、和気藹々、話に花が咲いているようでした。そして、会が大いに盛りあがったところで無情にも閉会の時間、全員

がお互いに肩を組み道遥歌を声高らかに歌いあげ、名残りを惜しみつつ、また、来年の再開を約して三々五々夜更けの街へ……。

われわれ現役も、この「誇り」を後輩に伝えるとともに、日頃先生の「ゼミ生相互間のコミュニケーションの大切さ」というお言葉を再認識し、決意を新たにしました。

倉辻ゼミ四回生 市岡 万幸

## 先生の近況

今も中世イタリア簿記史のとりこに  
泉 谷 勝 美

卒業生のみなさん！それぞれの職場でがんばっておられることと存じます。月日のたつのは早いもので、もう在職三十二年、五十五歳になりました。あいかわらず、古くさい中世イタリア簿記史のとりこになっています。

昭和56・57・58年度と三年続いた税理士試験委員はこの程やっとお役目ご免で、その責から解放されました。試験委員といえは、外部からみると、恰好がいいのかもしれないが、本人は全く大変です。問題作成では、受験界の出題批判に耐えうるものでないといけなしいし、受験講習会での講師もご法度、何よりも厄介なのは真夏の二万枚の採点。一口に二万枚といいますが、答案を積みあげると実に一・五メートルにもなります。朝から晩まで、くる日もくる日も、パンツ一丁で答案とのたたかい、それは私にとって、暑い暑い夏の陣でした。今夏はそれにくらべると天国です。

ついでにゼミ短信をひとつ。私のゼミ生で昭和四十一年三月に卒業した古野幸治君、会計から陶芸家に転身。今、ちぬの海の汐風を受けながら、阪南の貝掛の里でろくろをまわっています。この五月一日から六日まで、大阪の三越百貨店で第二回の個展を開き、成功裡におわりました。乞御声援！

ゼミOB会

ゼミ卒業生全員集合!  
昭和60年2月10日

重田 澄男

ゼミ卒業生の皆さん、元気で活躍していることと思います。

思いかえせば早いもので、私が経大に奉職した年(昭和三十九年)からもう二十年、静岡へうつってから十三年になります。経大時代は丁度三十代のまっさかり、学内外ともに激動の時代で、強烈な印象をもって今でも色々と思いかえすことがあります。

静岡へうつってから煙草を止めたので体重が一〇キロも増え、最近では毎年人間ドックで検査しながら酒量の調整をしているところです。昨年(マルクス死後一〇〇年)、御茶の水書房より『資本主義の発見』を出しました。

ゼミ卒業生の集りは第一期生は時々やっていますが、来年(昭和六十年)は、二月十日(日)、二時〜四時、天山閣(心斎橋)で、卒業生全員の集りをやろうと計画しています。幹事は乾攻郎君

です。各年次同期生の住所等連絡して下さい。

ゼミ短信

時流に対応すべく  
全力を傾注

井上 清

ゼミ出身の皆さん、元気に頑張っておられることと確信しています。小生も本学勤務三十七年、何時の間にか現役最古参となつてし

先生の近況

33日目、楽しく講義しています

岩井 茂

諸君!お元気ですか。私は昭和二十六年以来本学の教壇に立たせていただき、今年で三十三年になります。二、三年前特任教授の地位を退いてからも学部の非常勤講師として週に一日出講し、「外国為替論」の講義を楽しく務めさせていただいております。そのうえ、大学院の博士課程の講師としても名前を列ねさせておられます。健康が許せば明年度一杯この状態が継続されるものと思えます。

ところで私の健康ですが、今年二月に、それまで二十余年にわたり付合ってきた脱腸がいよいよ辛抱できなくなり、手術を受けましたが幸い順調に経過し、今では手術前にも増して元気にすごしていますので何卒ご放念下さい。

以上、私の方から近況をお知らせしました。諸君からのお便りも聞かせて下さい。ご来信には能うかぎりご返事を差し出したいと思っております。

七十の手習い

風間 鶴寿

六十の手習い、ということはいわゆることとがあるが、七十の手習い、などということはない。そりやそうだろう。そんな文句は初めから、ありやしないからである。

ゼミ短信

昨年、欧米を訪問  
今年、三回生一クラス

松原 和男

員をあまり学習にも力を入れておりません。残念ながら、サッカーもこの一年有る二部降格の憂き目にあい、今年はどうしても一部昇格をねらっています。ご期待下さい。皆さん、ご健勝で。

昨年は五月から十一月まで、本学の在外研究員としてロンドンを中心に欧米諸国を訪れ

建林教授を偲んで

本学教授 松村 文武

親子二代にわたり本学に縁のあった建林隆喜教授が三月二十四日午前一時に急逝されました。その前年に東ドイツに留学された時のあまりに真摯な学究生活が原因していると思われまます。東独から頂いた手紙にも、隔週で行われる教授と二対一のコンサルタチオン(特別ゼミ)の準備や国際価値論に関する独語論文の提出要請などで多忙をきわめ、相当の無理が続き発熱で病院通いがあつたそうです。

帰国した夏は暑さが特別に厳しく、その中で五十八年九月初旬、国際経済論の前期集中講義終了直後に体調不調を訴えられ入院されました。そして、その後半年ついに再起され

まいりました。年月のたつのは誠に早いものです。一昨年六月以来、病氣、入院を繰り返してきましたが、このところやつと回復軌道に入ったところですよ。

さて、本学の現状は、五十周年記念館の建設、カリキュラムの改善(情報関係の科目の新設、それに伴うコンピュータの設置など)、推薦入学制度の拡大などによって、時流に対応すべく全力を傾注しているところですよ。近い将来、面目を一新するでしょう。ゼミは今年度三回生のみで、じっくりと取り組んでいきます。諸君もゼミの時間を思い出して、広い視野で、多面的、総合的、創造的に物事と取りくんで下さるよう期待しています。

最後に一言―若い時から薄味の食事に慣れ、バランスのある食事をとるよう心掛けて下さい。成人病の予防にきつと役立つと思います。では引続き元気に頑張つて下さい。同窓会や清寿会でまた会いましょう。

ゼミ短信

ゼミ希望者の減少に  
各ゼミ大会参加も危惧

濱本 泰

濱本ゼミの皆さん、お元気に活躍のことと申します。小生も元気に教育、研究活動に励んでおりますのでご安心下さい。

さて、昨今、濱本ゼミも希望者がどんどん減少気味で、残念ながら、関西ゼミ大会、全日ゼミ大会への参加も危ぶまれている現状です。これは経大の悲しい現実かもしれません。しかし、半面、サッカー部員やラグビー部

ましたので、五十周年の記念行事にも出席できず失礼しました。また、いろいろな方々にお世話になりましたが、紙上を借りてお礼申し上げます。帰国後は元気に過ごしております。

今年のゼミは、三年の一クラスだけです。で、恒例のゼミ内での学年対抗ソフトボール大会が挙行できないのが残念です。

ることなく四十四歳の若さで不帰の客となられたわけですよ。まさに壮絶な戦死と表現するにふさわしい悲劇としかいいようがありません。

建林さんの死は残された御家族だけでなく、本学や学会にとつても大きな痛手であり、研究上の空白が生じます。経大は伝統ある名門ゼミナールを一つ失いました。さらに、あのすぐれた見識を、誰からも慕われた人柄は間違いないなく本学の将来を担ったでありましょう。したがって、建林さんの死は本学にとつて二重の意味で大きな損失といわねばなりません。改めてここに教授の冥福を祈るとともに、その遺志を継いで本学の充実発展に努力することが、その死に報いることと考える次第です。

先生の近況

養生中です。ご無沙汰を謝して

田岡 嘉寿彦

御無沙汰致しすみません。別に病氣という程のことはありませんが、足もが不安定でありますので、医師より一人歩きの外出はとめられております。それで誠に申訳ありませんが、大学関係へも御無沙汰致し失礼しております。あしからず御推察の程お願い申し上げます。



建林隆喜先生の突然の死を悼み

三十八回卒 山西 万三

建林先生が大阪経済大学に來られて二年目に第一回の建林ゼミ(国際経済論)を開講された。このゼミに参加させて頂いて以来、先生がお亡くなりになるまでの間、おそらく卒業生のなかでは最も長く、親しく御指導を仰いだであらうこともあつて、追悼の一文を書かせて頂きます。

ゼミを受講した当時は、先生が大学院を出られて間もないころで、年齢も三十才にはなつておられなかつた新進気鋭の学者であつた。ゼミの内容はかなり高度なものであつたが、テキストを何にするかはその都度私達に相談されてきた。マグドクの『現代の帝国主義』を取り上げようと提案された時には、原書でやらないかといわれたのに対し、冷汗をかきながらなんとか邦訳のテキストにしてもらった。今思えば、先生のおっしゃられるとおり原書で御指導いただければ、少しは英語の能力も鍛えていただけたのであるが、あの祭りである。

ゼミが終つた後はよく飲みに連れていっていただき、あれこれと論争の末、先生の自宅にまで押しかけさせていただいたことも一度ならずであつた。

卒業後二年程して、先生から『資本論』の研究会を始めようというお話があつた。よく聞いてみると、君達には、私が(先生が)未

熟で経済学のケの字も教えていない。せめて経済という言葉の意味がわかつてもらいたい。また、先生御自身も『資本論』を読み直したいのである。とのことであつた。この研究会は、卒業生を中心に十人程のメンバーで、毎月一回、一章あるいは一節毎に精読する形で回を重ね、途中いくつかの関連文献もこなしながら第三巻の前半にまで進んだ。先生のドイツ留学を前に中断してついに復活することができないままとなつたが、実に十年以上続いた研究会であつた。こんなに長く続いた原動力はなんといつても先生のお人柄に皆がひかれ集まつたからである。

建林ゼミOBの会である「隆盛会」も先生から私達に呼びかけられ、卒業後経大から縁遠くなつていた我々の結束の場を創つていただいたものである。先生を偲びこの会はいつまでも続けたいものである。

今思えば、先生の命を奪つた病気で入院される確か前月、奥様からお電話をいただき、入院されるというので、仕事の帰りに高槻のお宅に伺つた時のことである。ベッドに横になり、病状を私に色々説明しながら「こんな時に病気になるなんて!」と何度も沈痛な面持で、これからの抱負を話された。今まで蓄積されてきた前人未踏の分野の研究をまとめようとされてきた矢先の発病であつた。その時にあるいはこのようなことになるという予感をもたれていたのか、学問の事、御家族の事、思えば思う程残念でならなかつたらうとつらく思い出される。

先生に最後にお会いしたのは、先生が亡くなられる一週間前、阪大病院の病床へお見舞に伺つた時である。苦しい病床のなかから「ヨオ」と大きな声を私に掛けられニコリ笑われたお顔が忘れられない。

建林先生は私達にとつては二度と得ることのできない素晴らしい先生であつた。

先生の御冥福を卒業生一同、ゼミ生一同ともにお祈り申し上げます。

故杉浦貫一教授を憶う

本学教授 内海 健一

名誉教授杉浦貫一先生が去る六月三日逝去された(享年七十五歳)。先生が入院されたという知らせも軽く聞き流してしまふほどに先生はお元気なスポーツマンであつたのに、なぜ急いで淋しい旅路に出立されてしまったのか。痛恨の極みである。

先生は三十年余にわたつて本学で民法の講座を担当され、この間、学生補導課長、就職部長、経済学部長、評議員などの要職を歴任された。また、先生には法律関係の教員の中心的存在として、いろいろの問題についてまとめ役をお願いしてきた。まだまだ教わるべきことが多くあつたのに残念である。

ここに故杉浦先生に関する二、三の思い出話を綴り、先生のご遺徳を偲ぶとともにご冥福を祈ることにしたい。先生は、長年、硬式庭球部の顧問をされたが、印象に残っているの



はグリップに巻かれたバンドを解き、ガラスの破片で削つておられた姿である。微妙なラケットのバランス、グリップの感覚が既成品では満足できなかったのであらう。そこから、わが子を慈しみ育てる父親の愛情と妥協を排する冷徹な研究者の姿勢を伺うことができたように思う。

将棋については実力のほどを知らないが、風間鶴寿先生(現竜谷大教授)とは好敵手だつたように思う。昔のことだが、杉浦研究室を訪問したら両先生が盤をはさんで対峙し、「待ってくれ。」とか「参つたな。」を連発し合いながら打ち興じておられたが、形勢のよい方がおやつ(の果物)に手を伸ばし、タバコに火をつけるといった具合にゲームは展開していった。そこには無心に遊ぶ童子の姿があつた。暖かい友情で結ばれたお二人をうらやましく思ったことを憶い出す。

別の機会に研究室を訪れたとき、たまたま話が女房族のことに及び、「うちの女房は清潔

先生の近況

七十五歳、今も三二八号研究室で

田中 健一

田中ゼミOBの諸賢、ご健勝で活躍して下さいね。私も本学に、昭和二十六年來、非常勤十八年、専任十五年を勤務させていた。七十五歳を越しましたが、数年前からかえつて健康体となり、本年度も非常勤として「教育学」、「教育行政学」、「商業科教育法」を担当させて頂き、また、従来通り三二八号研究室も使用させて頂いておられます。

去る四月一日には、五十六・七・八年度のゼミ卒業生が合同同窓会をかね、私の現役教職生活五十一年を祝して、盛大な宴会を催して下さつて感泣、感謝したことでした。今後もOB会が開かれる予定で、幹事は五十七年度卒の渡辺真一君らがして下さいます。本年度はゼミ学生もなく淋しい限りです。

ともかく、三十三年間ひたすら「共学と先達也」の教師姿勢を堅持し「忍柔的生活」を貫いてきたのですが、能力不足は如何ともできませず、ゼミ生諸賢の十全な才能發揮への貢献もできず、学界をリードする研究業績も挙げえず、顧みて慚愧に堪えません。

左に四十八年度來の田中ゼミ学生諸賢の概況(詳細は紙面の関係で出来ません)を総括表示いたします。周知の通り、田

先生の近況

田中ゼミ生集計

(昭.59.3.31.現在)

卒業年度	人員	音信交換者	就職状況不明者	商社への就職者	小学校教諭	中学校教諭	高校教諭	養護学校教諭	専修学校その他の教職者	大学院進学	教職受検準備中の者	官庁公務員
48	21	9	11	7	1	1						1
49	18	13	1	3	6	3	3(商2)					2
50	11	5	4	4		2(国1)	1(商)					
51	12	5	5	3	2	1						1
三年間(脳溢血左半身不随入院後のため)ゼミ休講												
55	10	9	0	3		2	3(商2)				1	1
56	7	7	0	2	1	1	1(商)				2	
57	15	15	0	4		1	2(商)	1	4		3	
58	11	11	0	2		1	1(商)		1	1	5	
計	105	74	21	28	10	13(国1)	10(商9)	1	5	1	11	5

好きで困るよ。」とこぼしておられたが、その直後、コーヒーをご馳走になった。カップにインスタントコーヒー、三益白(グラニュー糖でないところが先生の好いところである)、熱湯と順次入れて下さったのには恐縮したのであるが、最後に、肥後守それも相当年季が入って錆が出、鉛筆の芯で黒光りした代物で混ぜて下さったのには閉口した。偉い先生自らのサービスマンなので、熱湯消毒、熱湯消毒と呪文を唱えながら頂戴したことを思いだす。奥様が潔癖すぎるのか、先生が構わなさすぎるのか、その辺の判断は同窓会諸兄姉にお任せしたい。

### 杉浦先生の死を悼む

三十四回卒 森川 義一  
硬式庭球部 OB会会長

たしか五月十六日の日だったと思う。OB総会に出席していただくため、杉浦先生宅に電話を入れた。春先から体調を悪くされたと聞いていたが、電話に出られた先生の声は意

外にお元気な様子で「三月二十九日に市立吹田病院に入院し、四月四日胃かいようの手術を受けた。そして五月二日に退院したんだよ。ちょうど三十四日間病院にいたことになる」、「それでおかげんは……」、「そりゃ君、胃を三分の二も切ったんだからね。いまはおかゆぐらいしか食べておらん。六十八キロあった体重も五十八キロに減ってしまったよ」、「そうですか、二十日のOB戦は無理でしょうが、九月頃に先生の退官祝いを盛大にやろうと思つています。その時には先生とコートで一戦まじめましよう」といったら「どうだろうね」とちよっぴり元気のない返事が返ってきた。「それより身体には気をつけなさいよ」と。これは先生の最後の言葉となった。

思えば昭和三十年の創部以来、顧問として永きにわたり、ご指導をいただき、まさに経大硬式庭球部の育ての親であり、我々OBにとりまして、よきおやじであり、よき相談相手でもありました。その杉浦先生を失ったことは、大きな悲しみであり、我々の大きな心の支えを失ったといつても言いすぎではありません。このうちは杉浦先生が硬式庭球部にかけられた情熱を忘れることなく、硬式庭球部の益々の発展を先生への恩返しと思ひ、OB会活動に注力するつもりです。最後になりましたが、杉浦先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

### 平野 章先生退職される

比企 重(7)

私は昭和十三年、昭和商に憧れて入学し、第二外国語としてドイツ語を選択しました。そして、二、三時間授業が進んだ頃、突然、ドイツ語の時間が歌の時間に変ったのには驚きました。ローレライ、菩提樹、そして、野バラの三曲でした。今日、思えば、こんなユニークな先生がおられるでしょうか。ドイツ語を選択された方には、この三つの歌が何を意味するかおわかりいただけだと思います。本当に偉大な、そして、私の尊敬する先生の一人です。

その平野先生が、最後まで非常勤講師として処遇されながら約五十年、大阪経済大学に注がれた情熱に対しては、ただただ敬服あるのみです。本年四月、非常勤講師の名簿から平野章先生のお名前が消えたことを知り、経大の巨星 また一

### 北里武三先生と伊藤若冲

本学教授 松本 剛

伊藤若冲というのは、江戸時代の画家です。応挙、大雅、蕪村らと並ぶ人物です。

この若冲には色彩の美しい鶴や鶏の絵があるかと思えば、釈迦や同時代の僧を描いたものもあります。若冲は八十四歳

つ消ゆの淋しさを禁じませせん。大学として、規約になくとも、何か先生の永年のご功労に対して謝する策はないものではないでしょうか。

先生は、最近、軽い脳こうそくにかかられて自宅で静養中です。神戸学院大学の教授も退職されました。先生に一方ならぬお世話になった卒業生諸君、お便りを差しあげ、先生を励ましてあげてください。

先生、いつまでもお元気で、昭和商以来、昨年まで経大の五十年の歴史とともにご尽力いただき、ご指導いただいた教え子のために、一日でも長くご健勝で、ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

なお、先生のお住居は左の通りです。  
〒555 吹田市古江台一―六―五 平野 章  
☎〇六―八三一―六八七一

まで生きていますが、五十歳のときに発心して、自分の墓を京都の相国寺に建てました。相国寺には沢山の絵も寄進しています。

ところで、北里先生は、あるとき、私におよそ次のような話をされました。――北里先生が奥さんと結婚の話がきまった頃のことです。先生は奥さんのお

### 先生の近況

り就職就職困難な状況下で、誠に恥かしい集計です。しかし、昭和二十六年来の教子で私の声をかけた就職従事者(小・中・高・大学・養護学校等) 諸賢も、北から南までに幾百人とおられますので、そろそろ「教子就職従事者巡歴の旅」でも始めようかと思っております。

でも、まだ当分は仕事が残っているので安心して下さい。講義にも全力投球したいし、四十三年「機会均等の教育原理」、五十七年「学校教育の原点」に続いて、なお予定の研究物を出版したく頑張りますから、諸賢も一層ご自愛ご健闘あつて、ゆとりをもちつつ、それぞれの職域で不可欠の人となられるよう、自力を頼み(Self-Reliance)とされ、自らご多祥を招かれんことを祈り上げます。

### 39名の大世帯、ビデオを活用

松村 文 武

卒業生のみなさんお元気でしょうか。この一年は公私ともに多情多端でした。昨年十一月には本学の五十周年記念式典があり、本年四月からはカリキュラムの改訂が行われました。他方、同僚で親友の建林先生が三月に急逝されました。小生も二月に入院するさわざになりました。幸い大事にはいたりませんでした。自分「保護監察付」というところ。さて、八十四年度のゼミは、四回生一

部八名、三回生一部二十二名、二部九名の計三十九名という大世帯になりました。今年の特色はビデオテレビを用いたゼミナール学習が行われていることです。世界経済に関するテレビ番組を私がビデオに採り、それをビデオ教室(四月より二教室に設置)で再生し、活用しています。評判も大変良いようです。

以上のように、本学でも各人の創意工夫で教学条件や教育方法の改善が試みられています。環境問題や学生定員改善、教学の拡充等、大学生急減期をにらんだ確かな対応が全学的に求められています。様々な形で御支援をお願いいたします。

### 二十世紀のしめくくりを

松本 剛

一、体の方は少しずつ元気になってきています。ゼミ旅行にも参加しています。二、勉強の方は、遅々として進みませんが、休まずにやっています。テーマはドイツの現代会計理論です。三、この頃、しきりに人生の意義を考えます。少年時代に、あるいは青年時代に抱いていたような人生に対する憧れの念を、今なお、捨てきれずにいます。二十世紀のしめくくりを有意義に生きたいと思っております。

### 先生の近況

まで生きていますが、五十歳のときに発心して、自分の墓を京都の相国寺に建てました。相国寺には沢山の絵も寄進しています。

うちのお墓が相国寺にあると聞いていたので、お墓に参っておこうと思われましが、場所が分からない。探してみたが、どうしても見つかりません。しかたなく、先生は、とにかくお墓というお墓に一つずつ順番に半日かけてお水をあげられた。全部にお水をあげておけば、その中にあるだろう、というつもりだった。ところが、ひよいと気がついたら、伊藤若冲の墓があった。

それから一週間くらいたってからのことです。丸太町堀川西入に骨董屋があった。その頃、先生はその近くの待賢小学校の青年学校に勤めておられた。学校からの帰りに、何気なく骨董屋をのぞいてみたら、鴉の絵がある。「だれの絵ですか」と聞いたら「若冲です」という。

「なんぼですか」と聞いたら「四円五十銭」というのです。それで、学校へ引き返して、教頭の松室龍雄先生に「若冲の鴉の絵がある」といったら「そんなら買うといいたらいい」といわれた。それで翌日行って買いました。

家へ持って帰って見てみると、どうも青地の表装が派手で、気になる。それで表装を替えて貰うことにした。ところが、奥さんのお母さんが、「表具屋さんがこの表装はころもですよ。それを替えてもいいですか」と尋ねました、と言われた。それを先生は、「いいです」といつ

て、替えて貰った。ところで、あとから相国寺の大江大蔵さんが先生のうちへ来られたとき、「うちに若冲のこんな絵があります」といってお見せしたら、「若冲の墨絵は珍しいのです。相国寺は若冲を大変、大切にしている。寺院には全部、若冲の位牌をまつています。丁度、今日相国寺で若冲の研究会がある。研究会の人たちに、これを見て貰いましょう」といつて持って帰られた。そして、その研究会の人たちを見て、若冲の真筆に間違いなし、ということになった。箱書には「若冲居士筆柏木鳥之図真正無疑若也景蕉」とありました。

それから、しばらくして北里先生の奥さんのお父さんの三十三回忌が相国寺で行われることになりました。そのとき、山崎大耕老師のあとをついで管長さんになっておられた大蔵老師の床の間に若冲の破れ芭蕉の墨絵をかけて下さっていた。それを見て、おどろいた。なんでびっくりしたかという、その表装の布が、あの鴉の絵のと同じお袈裟だった。ここまで聞いたとき、私が「それは、おいしいことをされましたね。表装を替えてしまつて」といいますと、先生は「しまった、と思つたな。ころもを脱がせてしまつたんだから」といわれました。しかし、これから先の話が私には面白く思われました。先生のお話では、その後、この鴉の絵をかけると、きまつて雨

本学教授、竹林祐吉先生  
油絵小品展

心齋橋、ギャラリー・ミツワで

竹林先生から油絵小品展のご案内をいただいたとき、やはりと……先生の絵画歴を知る人は私と同じ気持ちで案内状を受け取られたのではないのでしょうか。

昭和四十六年に第一回石仏写真展を、そして、「斬つたら血の出るような石仏」を狙って撮り続けられた作品展を昭和五十三年三月に心齋橋のヤノ・ギャラリーで第二回石仏写真展として開催された先生の作品を拝見して、先生は、本当に、絵筆を折られたのかな?……と思つていました。

昭和五十六年「澱江」十七号に「私と絵画」をご寄稿いただいたとき（五八ページに掲載）、先生の絵画への愛着心の一端をかいまみたような気がしましたが、

は、笑うかも知れませんが、目に見えない糸があつたのでしょうか。ところが、わたしが勝手にころもを脱がしてしまつた、罰があつたね。それから、五、六回、職を変えたね。うろつかされたな。あのころ、ほんとうにうろろしたな。ここで、先生は例の豪放な声で、あつはつは、と楽しそうに大笑されました。

まさかそれが現実化するとは……。私の本心は、やはり、嬉しきの方が強かつたといえます。

先生のお言葉は次の通りです。「絵筆を折つて約二十年になりますが、その間も画心捨てがたく、ひまをみて描き続けてきた小品のいくつかを、このたび並べてみることに致しました。

おもに信州の野尻高原大学村での四季折々の生活の心象を、妙高山と花とに托して描いたものですが、これを契機に制作活動が再開されたらと思つています。」

「妙高山と花」という表現で四月三日（火）から八日（日）まで、心齋橋、ギャラリー・ミツワで竹林祐吉油絵小品展が開催されました。それが先生のお言葉の具象化といえるでしょう。絵心のない私でさえ、写真展の時には感じえなかつた、なにか表現できないなにかが体の中を走る

先生の近況

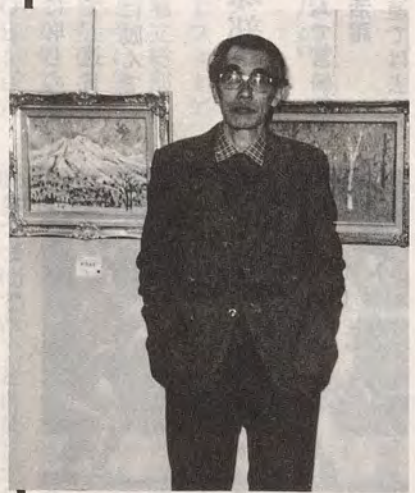
『損益計算史論』を発売

渡辺 泉

渡辺泉ゼミ卒業の皆さん、元気ですか。私も今年の三月で、経大にきて丁度十年になりました。あつという間のことでした。昨年の三月には、『損益計算史論（森山書店）』と題してなんと一冊にまとめることができました。諸君達への約束を果たすことができましたと思つています。

今年の四月からは、いよいよ十一年目をむかえたことになりました。二冊目に向けての新たな出版への元年と自分自身にいきかせています。もしできれば、イギリスに行つて、当時の商人達の帳簿を手に入れ、実証分析をしたいと願つています。うまく丁度良い資料が手に入ればよいのですが、果たしてどうなるやらわかりません。いずれにせよ、諸君達に負けないようにと思つています。お互い我張りましょう。

もし時間があれば、大学の方にも足を運んで下さい。今年も月曜日と火曜日に出勤しています。逢えるのを楽しみにしています。



のを覚えました。さすが……。一言で表現しておきます。

なお、参考までに先生の絵画歴を左に記しておきます。

- ◇大正九年熊本生れ。
- ◇昭和二十四年東光会にて奨励賞受賞、会友となる。
- ◇昭和二十五年熊日総合美術展にて熊日賞受賞、同年東光会会員となる。
- ◇昭和二十五、二十六、二十七年日展入選、その頃より海老原喜之助画伯に師事。
- ◇昭和二十八年頃より三十七年三月まで、海老原美術研究所（熊本）の指導員となる。
- ◇昭和三十七年熊本商科大学より大阪経済大学に転職。現在同学経営学部教授・経営学部長。

（比企 重 記）

# キャンパスだより

## 日本拳法部

先日行われた全関西学生拳法選手権大会において、わが日本拳法部は、準優勝という栄誉を勝ち得た。これは、春合宿より部員一同が一丸となり、大会に向け総力を上げてきた努力の賜物であると感じている。

また今春、新入部員八名を加え総勢二十八名となった。ここで新



入部員の指導及びわが部の方針を申し上げると、練習中は後輩が先輩に対し体ぶつかつてゆくという方法を取ることによって、上級生の良い所を下級生が体で習得することになる。また普段の生活においては、武道部である以上、上級生は上級生らしく下級生は下級生らしく行動を取ることによってそこにたのつながりというものが生まれ、さらには上下間の信頼となって現われてくることになる。

以上がわが部の取って来た方針である。今後もこの「努力」と「信頼」という伝統を守り、常勝経大、全日本制覇を目指し、精進してゆく所存である。

## 軟式庭球部

わが体育会軟式庭球部は、部員四年生七名、三年生五名、二年生四名、一年生四名の計二〇名で活動しております。

現在、関西学生軟式庭球リーグの一部校として活躍しており、昨



年度、西日本大学対抗軟式庭球選手権大会では準優勝し、本年度、関西学生軟式庭球春季リーグ戦では3位に、個人戦では関西学生軟式庭球選手権大会で、平脇・古久保組が3位に、大阪学生軟式庭球優勝大会では、多田・萩野組が準優勝という見事な戦績を残しています。

今後、今までの戦績に恥じぬよう部員一同一丸となって、連日朝早くから日没まで練習に励んでいます。

## 準硬式野球部

関西学連中国遠征チームで宮崎英樹くん(四回生)が大活躍

準硬式野球の関西学連では去る



八月六日より十九日までの二週間、中国へ親善遠征を行い、北京、天津、大連、上海と各地を転戦、七試合を戦い五勝二敗の成績で帰国しました。

この間、本学四回生の宮崎英樹君は、二番打者として全試合に出場し、打率三割、出塁率五割以上と大活躍をして、日本チームの勝利に貢献しました。

何分、今回の遠征は親善を第一としておりましたが、中国棒球隊との親善は十分に達せられ、「来年もまた来てほしい」といわれる程の好評を博しました。

## カヌー部

わが経大カヌー部は、瀬田川レガッタ二位、六位入賞。シンガポール国際試合参加、大阪学生選手権総合優勝と、五十九年度のカヌーシーズンに入り大変好調なスタートをきりました。

とりわけ、シンガポール遠征につきましては諸先輩方に大変なご援助をしていただき、より充実したものとなりました。これを糧として今後、より一層の努力をするとともに、戦績向上を目標に頑張っていきたいと思えます。



## 応援団本部

わが応援団は創団以来「智・仁・勇・和」の精神で幾多の苦難に当たり、伝統を継承する事、本年を



もって二十八代目を数えるに至り、名実ともに、関西応援団の雄として成長するに至りました。

その主な活動としては、今春、全日本学生野球選手権大会出場を果しました硬式野球部の応援を中心に、空手道部、日本拳法部等の試合に臨む選手の士気を高め勝利に導いております。

しかしながら、この退廃して行く現代にあつて、応援団と言えは何かと批判を受け、誤った解釈をされるのですが、団員が一致団結し、学生たることの自覚を基礎とし全学生の範たるべく、母校経大発展の為、粉骨砕身精進してゆく所存であります。

今後共、同窓会の方々にも、応援団活動に温かい御理解を頂き、経大発展の為、ご指導、ご鞭撻の程宜敷くお願い申し上げます。

## ワンダーフৌゲル部

昭和三十四年にワンゲル同好会として発足したワンダーフৌゲル部は昭和三十五年に独立総部となり現在までその伝統を受け継ぎ、また時代と共にその形を変化させ発展をつづけています。今年ですでに二十六年目を迎えOBも百六十三名となり、OB会の活動も活発化されていく傾向にあり、現役部員も四年五人・リーダー十一人・二年八人・一年八人総勢三十二人と充実し、現役・OBが一致協力し関西ワンゲル界をリードしている状態にあります。今年度の二十五代リーダー会は、「自然の追求」をテーマに「けじめある活動」をサブテーマに新人養成を神戸六甲・京都北山で三回、強化合宿を比良山で行い、夏合宿を南アルプスで3パーティー分散集行を行う予定です。また後期の活動は十月の秋合宿を4パーティー完全分散で行い、春合宿も分散形態で行う予定です。我々の活動は山登りをはじめさまざまな活動を通して自然とふれあい、地方文化・人・風俗との交流を持ち、また団結し協

## 芸術会

調性を持つて部員相互の親睦をはかり、それによって生まれてくる体力・精神力によって人間的に成長し学生生活を充実させようと部員全員で日々がんばっています。

また我部では九月から始まるリーダー養成において来年度の我部の活動の基本方針を確立させるつもりです。これにより来年度も独立総部ワンダーフৌゲル部は、発展をつづけていくと自負しております。

現在、芸術会には軽音楽部・演劇研究部・写真部・映画研究部・グリークラブ・美術研究部・吟詠部・茶道部・マンドリンクラブ・邦楽部・ギタークラブ・落語研究会の十二クラブが所属し、今年は百五十三名の新入部員を迎え総(芸術会)会員数四百七十名と順調に増えつつあり、芸術会本部長の笹倉浩明を中心に各部員、芸術会発展の為に日夜努力しております。

特に今年には毎年恒例になっていた二大行事の一つである「ミュージック・フェスティバル」も二十回を数え、去る六月一日に森の宮

青少年会館において二十回記念演奏会が「今、始まる新しい歴史」と題して盛大に行われ、無事成功を納める事が出来ました。これも諸先輩方のご支援の賜物だと心から感謝しております。

また、二大行事のうち一つである映画研究部と演劇研究部の「ごくつぶしの夕べ」も早いもので来年には十回を数え、内容面でもかなり充実したものになってきました。この二大行事の両実行委員はこれからも一層の努力で素晴らしいものを作っていくよう精一杯頑張ります。

さて、各クラブに目を向けてみますと、軽音楽部は第二十回定期演奏会を去る七月二日に読売文化ホールにおいて華やかに、無事終了する事ができました。また今年には四十一名の新入部員を獲得し、学内はもちろん学外でもジャズ系、ロック系共に充実した活動を続けております。

またグリークラブも、創部三十年を迎え、第二十回定期演奏会を来たる十二月八日に尼崎のアルカイックホールで行なうという、非常に喜ばしい年を迎えました。また今年には部員数が九十三名と芸術会一の大所帯となり、各自の練習

への熱の入れようも例年にはないものが見られなかなか期待できそうです。

そして、去る六月二十四日に無事、岡山大学吟詠部との交歓吟詠発表大会を終えた吟詠部も、第二十回記念学内吟詠発表大会を来たる十二月二日にひかえて部員一同、この日の為に懸命に練習に励んでおります。

以上、今回ここに揚げました三クラブはもちろんの事、他の九クラブも技術面の到達だけに凝り固まる事なく、部員相互の思いやりと信頼を第一の課題とし、精神面の向上を計って懸命に練習に取り組んでおります。

### 淀都五大学総合定期戦

恒例の淀都五大学総合定期戦が、桃山学院大学を主催校として開催されました。

今回は、21回大会として5月26日より6月2日までの8日間にわたり、23種目(内本学4種目欠場)が競われ、その結果、本学は14種

目に優勝し、第9回大会以来13年連続、通算19回目の総合優勝を誇りました。

### 硬式野球部

#### 一に練習、二に練習で優勝

——全日本大学選手権第一代表に——

硬式野球部 監督

第三〇回卒 仲川 雅俊

優勝	大阪経済大学	79点
2位	桃山学院大学	63点
3位	大阪工業大学	53点
4位	大阪産業大学	46点
5位	大阪電気通信大学	32点

私が中島元監督から現役中教わったのは、技術面よりもむしろ精神面が多かったと云っても過言では無いと思う。「スポーツは礼に始まり礼に終わる」と絶えず口にされていたことが昨日のように思われる。技術的に優れている者が練習時間に遅れて来たり、鼻にかけたような生意気な態度が目についた場合、容赦なくメンバーから外された。また練習もさせてもらえなかった。それだけに真面目にコツコツやっている者にはチャンスがあった。(あくまでも学生野球、アマチュア野球である)。四回生だから一回生だからと言うことなしに、平等であった。

知らないし、また、それが経大野球部の伝統となっている。この伝統が監督就任シーズン目に徐々に部員達に浸透して来た結果が、今回の優勝につながって来たと判断してもよいだろう。(少し甘いかも知れないが)とにかくこの春のリーグ戦に部員は勿論、私も新コンビの安達も賭けた。昨年は就任一年目とは言え、余りにも不甲斐無い成績で終わったからだ。(春期四位、秋期五位)。新チーム編成以来の冬期練習には友人である笹倉トレーニングコーチ(阪急ブレーブス嘱託)に、十日間みっちり基礎体力を、また、一月最初からボールも、バットも握った。「身体さえ

### その他の体育会クラブ活動状況

(優勝・準優勝のみ)

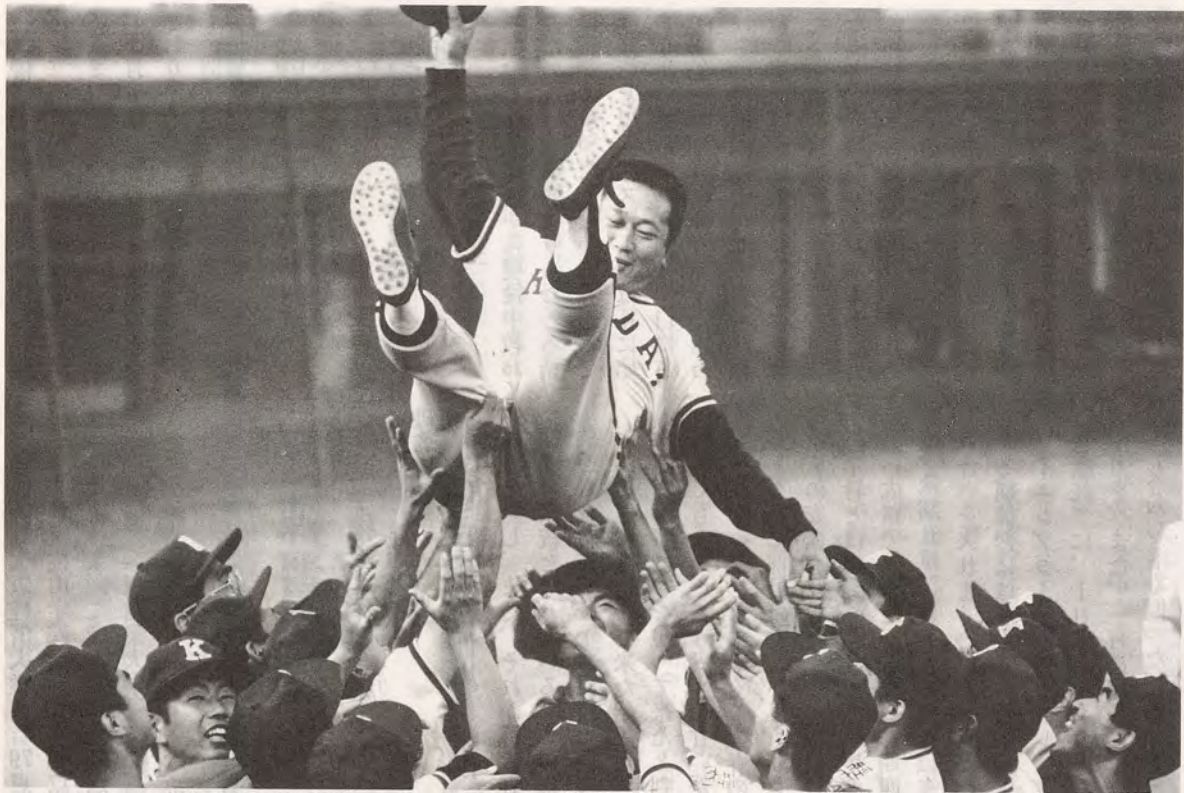
- △柔道部
  - ・寺島杯争奪親善柔道大会 優勝 59・4
  - △合気道部
    - ・全日本学生合気道演武大会 連盟賞受賞 58・11
  - △硬式野球部
    - ・関西六大学野球春季リーグ戦 優勝 59・4
    - ・関西代表決定戦 優勝 59・6
  - △準硬式野球部
    - ・近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝 58・3
    - ・近畿地区大学準硬式野球選手権大会 優勝 58・5
    - ・近畿六大学準硬式野球秋季リーグ戦 優勝 58・8
    - ・近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝 59・4
  - △硬式庭球部
    - ・関西大学対抗テニストーナメント四部 優勝 59・4
  - △サッカー部
    - ・関西学生サッカー春季リーグ戦二部 Aブロック 優勝 59・4
  - △ハンドボール部
    - ・関西学生ハンドボール春季リーグ戦二部 優勝 59・4
    - △卓球部
      - ・関西学生卓球新人大会 個人シングルス 優勝吉田(2) 58・4
    - △バスケットボール部
      - ・関西学生バスケットボール下部リーグ戦 優勝 58・7
    - △バレーボール部
      - ・関西学生バレーボール春季リーグ戦四部 第二位 58・5
    - △アメリカンフットボール部
      - ・近畿学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦二部 優勝 58・9
    - △自転車部
      - ・関西学生サイクルサッカー春季リーグ戦二部 第二位 58・5
      - ・関西学生サイクルサッカー秋季リーグ戦二部 優勝 58・10
      - ・関西学生サイクルサッカー一

- ・二部入替戦
- △アイススケート部
  - ・関西学生氷上フリー競技会 総合 準優勝 58・11
  - ・関西学生氷上競技選手権大会 総合 優勝 58・12
- △ヨット部
  - ・関西学生ヨット個人戦選手権 大会四七〇級 第二位角谷(4)津田(3) 59・6
  - △洋弓部
    - ・関西学生アーチェリーリーグ戦二部 第二位 59・3
  - △重量挙げ部
    - ・関西学生ウェイトリフティング選手権大会 準優勝 58・10

温まっておれば、投げること出来るし、打つことも出来る!!」このような状況で福山キャンプ(広島県、神勝寺)に入った(二月二十六日～三月七日)。おそらく四回生は入部以来一番厳しかったと思う(部員六十名中約三十名キャンプ期間中倒れる)。しかし四回生がよく率先してついて来た。本当に皆よく頑張った。キャンプでは特にバッティングにウエイトを置いて来た。社会人等のオープン戦では勝敗は二の次で、徹底的に攻めの野球に回った。結果、昨年とは考えられなかったここの一番で何試合かに集中打が出来た様になった。それと同時に点を取られなくても取り返すようになってきた。粘りが少しでできた。

大・エース米沢攻略打ち勝つ。第二節大阪商大ガッブリ四つに組む。高大エース渡辺には捨身作戦、近目の球は体当たりでいった。ファイトを丸出しにした野球がこのゲームでは見られた。三節目の竜谷戦はストレートで負けた。敗因は油断の一言に尽きる。四節目の京都産大は皆気合いが入った。一歩も譲れない。この勝利で部員は優勝を意識した。五節目神戸学院戦はストレート勝ち、特に二試合目は今春のチームの特長をよくだした。積極的に打ち、走りまくる。ワンチャンスに、そこへ集中打(集中力)、そして一気に決めてしまふ。このリーグ戦を振り返って、一番印象に残ったのは大商大四回戦の試合であった。一勝一敗一分で商大が勝てば優勝は商大へ、経大が勝てば優勝の望み未だありという、





## 硬式野球部より感謝とお願い

OB会副会長

関西六大学連盟 代表理事

第二十三回卒 滝

重一

◇硬式野球部に対する物心両面にわたるご支援に感謝

野球部の活動状況およびその成果に対し、全国の同窓会会員の皆様、それぞれのお立場で、わがことのように一喜一憂され、また、それを通じて母校に思いをさせていただいていることを思えば、現役諸君にハッパの一つもかけたくなると同時に、我々OB会も監督、コーチ、審判員、そして連盟役員などがそれぞれの立場で責任を果さなければならぬと痛感しております。

とくに、リーグ優勝のとき、また、全国大学選手権出場のための上京のときは、全国の同窓会支部および会員の皆様よりお祝い、あるいは、直接球場でのご声援に対し心から厚くお礼申しあげます。

◇野球を通して

母校の将来について一言  
二年前、関西大学野球界の一波乱を通して感じたことは、現代の

社会風潮が、ブランド志向、偏差値（学力のみでない）志向、また、企業側の指定校制度などが、スポーツの分野にまで波及し、関同立を中心としたリーグ再編成という結果を招来することになり、それに携わった我々は口ではないえないショックを受けたものでした。

したがって、母校も単に五十年という伝統のみにアグラをかくことなく、学問、スポーツ、その他あらゆる面において進取的研鑽をされないと、現在の関西六大学リーグ所属校（大商大・大院大・神院大・京産大・竜谷大）にも追い抜かれ、見離される時代が近い将来に、決して誇張でなく、来る可能性があるといても過言ではないと思えます。現実に、他校の諸施策と母校のそれとは根底的気運の差異を肌で感じているのは私だけではないと思っています。大学当局のより一層の奮起を期待してやみません。

今季最大のゲームであった。7回迄0-0、8回の裏に2点取られ、9回表に3点取り逆転勝。このゲームは私にとっては生涯忘れれることの出来ないゲームとなるであろう。「勝負は最後の最後まであきらめてはならない。審判のゲームセットのコールがある迄は勝負はまだ決まっていない」投手も守備陣も打撃陣に関しても耐える時は耐える。打撃の糸口を掴んだら一気に全エネルギー神経を集中せよ。後には無い」と普段からやかましくいっていることが見事にこのゲームに出たのである。五リーグ代表決定戦で大阪教育大、天理大を破り関西No.1に成った。このゲームに関しても粘りと集中打が出た。

そして関西第一代表で全日本大学選手権大会へ出場し、一回戦島根大に破れるという屈辱を味わった。敗因は竜谷に負けた時と同じで、油断の一言である。しかしこの様にリーグ優勝し、関西No.1になったのは決して偶然ではない。日頃の激しい練習と部員個々の考え方、気持の持ち方が結果として表われたのである。

他の五大学では、我々が優勝ムードに酔っている間に、はや秋に向かって打倒経大と、練習に明け

◇野球というスポーツは

「金」がかかる

野球というスポーツは金がかかることは周知の事実でしょう。それに加えて、一昨年のリーグ再編という名の分裂による関西六大学リーグ新設に伴う連盟は、ゼロからのスタートであるだけに金が必要なものも当然の帰結でしょう。その意味では、近畿リーグに属しておれば、この悩みを味わわなくてすんだかも知れません。しかし、一昨年の騒動および関西学生野球リーグに対する意地を我々は忘れることはできないのです。したがって、現在、関西六大学リーグに所属している他の五大学も同じ条件の中で、関同立なんするものぞ……と、それぞれの学校が母校を思い頑張っているのが実情です。

とはいっても、精神論だけでは生き残れません。やはり、先立つものは「金」であることが残念ながら事実なのです。母校自治会の予算が年間四〇〜四五万、それに対し、連盟の各校分担金は春秋リーグで約二〇万、その他を合算すると、その差額は大きく、OB会側も頭を抱え込む毎日です。

これを解決する一つの方策として、現在、連盟の後援会作りを準備中ですが、その前提条件として、各校の後援会作りを仮発足させております。

右に述べました諸事情をご賢察いただき同窓会会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

◇ご協力いただける

全国の会員の皆様へ

(母校・硬式野球部後援会)

関六瑞光クラブ 世話人

滝 重一

年会費 一〇〇〇〇円(春、

五〇〇〇円、秋、五

〇〇〇円)

もし、この件に関しご質問などがございましたら、同窓会本部事務局へおたずね下さい。よろしくご協力をお願い申し上げます。



# 同期生クラブOB会

「会の現況」「会開催当日の状況」などを中心に各クラブOB会、同期生会から活発な報告をお寄せいただきました。

## 有馬の湯に二十名 藤本ご夫妻に深甚の謝意

呼友会

昭和商第三回卒同期生会、誰が名付けたか、その名を「呼友会」という。今年も、呼び声に応ずるかのように、六月十九日(火)、千葉、島根、徳島からの常連に加えて、近畿各地から有馬温泉に馴せ参じたもの二十名。そのうち、ご夫人



同伴が七名であるから、けっこう賑やかな会合になった。もう二十年以上にもなるうか、通信連絡から、会計報告、記念写真にいたるまで、すべてをやつてのける二宮清次君に、おんぶした格好で、この会の歴史が続いている。

ときどき、これでいいのかなあと思わぬこともないが、至極自然のなりゆきとして、今日に至っている。恥多き青春からの長いお付き合いのお陰だと感謝に堪えない。ところで、本年の幹事さんは、村中君。同君の祖父の代から呢懇という有馬グランドホテルが会場である。今年も、四季感がなく、冬からすぐ夏になったような感じで、六月もまだなつかしいのに、汗が流れる程の暑さである。それでも温泉は有難い。お湯につかると、浴衣がけになる涼風一過、疲れがすっかりなくなって爽快その

## 同期生クラブOB会

ものになる。揃いの浴衣で記念撮影、どの顔も、昔のままならぬ、卒業後半世紀に耐え、人品そなわった顔、顔顔がならぶ。

まず、本年何十年ぶりに出席した下川君が挨拶を述べる。往年、サッカーの名手だった彼も、肉付きよく堂々たる体躯に成長した。いわく久し振りに、みんなに会えて嬉しい。想い出すのは、やはり、満洲出兵のこと、同じ部隊に、想いもよらず、門前小隊長を見付け、その不思議な出会いに胸打たれたことは今も忘れ得ない。帰還後大病をわずらい、九死に一生を得た。これからは是非出席を続けたい。真実溢れる言葉であった。祝宴にはいり、杯を交わすにつれて、いよいよ宴会のムードも高まり、誰彼となく十八番の披露が続ぎ、遂に、内藤君の先導でにぎやかな軍歌の合唱となる。何の違和感もないのは、やはり年代のせいだろうか、

## 篠山美術館を見学 恒例の「ぼたん鍋」で盛会

一月二十二日、第三(月)目の集りを、恒例の篠山のぼたん鍋で有名な「たかきこ」で行った。

全員まさに意気軒昂、青年にかえった雰囲気は、いつ果てるとも思えない。

来年は、加茂清重君の当番幹事、一同揃って淡路島に渡る。また楽しい趣向を期待したい。この総会とは別に、毎年、京阪神在住者の新年会がある。甲子園の富士家旅館に、泊りがけで押しかけるのが永年のならわしになっている。同窓のよしみで、藤本孝次君ご夫妻の会費を度外視したものでなしにあづかるわけであるが、この楽しみも今年限りになる。富士家旅館といえ、人も知る高校野球の有名宿舎。老後を考えて、閉業を発表されるや、各方面から問合せが殺到したと聞く。われわれの新年会も、今までのようなわけにはいかなかった。今更ながら、藤本君ご夫妻の長い、深い親切が身にしみる。この機会に深甚の謝意を表したい。

磯野 斉 記

## 「ぼたん会」 第八期生阪神部会

同窓会本部より比企事務局長のご参加もあり、総勢二十名という盛会であった。

## 本学卒業生を専任教員に

(本学大学院教授 たいら みのる)

本誌「澗江」の前号に、同窓会姫路支部長の永川仁一氏が、将来における本学の一層の発展を希望して、いろいろな意見を述べておられた。その中で本学の卒業生、特に研究者養成の大学院コースに進んだにもかかわらず、本学の専任教員に成っているものがないことに關して、不満とされるような御説が見出された。これを読んだときに、いつかは同窓会の中から発せられるであろうと予測していた意見が、ついに出て来たという感じがしたものである。

本学も修士課程はいうまでもなく、博士課程を設けて以来かなりの年数を経ており、ドクター・コース修了者も少なくない。その中にはかなり優秀で研究者としての適格性をそなえた人々も見出される。それなのに、なぜ、民族資本としての本学卒業生が専任教員として、その生産的機能を十分に発揮できないのであろうか。かつて筆者が本学大学院委員の末席を汚がしていたときに、一時は修士コースの入学志望者が三十名を越す年もあった。ところが昨今はその数が激減している。伝えられるところによれば、本学の大学院に入っても、将来、研究者として専任になるのは不可能という理由で、修士コースの志望者が激減するようになった、との噂が流れている。

筆者なども従前、他の私大などにいる友人、知己に本学大学院博士コース修了者の就職に氣を使ったこともある。だがそのときの異口同音の返事は「君とこの大学で採用しないのは出来が悪いということだろう。その出来の悪いのを他の大学に押しつけるのか……」ということであった。他の大学への就職を円滑にしようと思えば、まず「隗より始めよ」で、本学において率

先して、本学大学院生を採用し範を示さなければならぬということか。博士課程修了者の中では、本学で採用しないほど出来の悪い院生がいるというのではあれば、そうした院生を育成した大学院教育に責任があるのでないか、とする痛烈な批判の声も聞かれる。大学当局は諸般の事情を考慮して、大学の円滑な将来的発展のために、大乗的見地から民族資本の保護・育成に慎重な態度で以て善処されることを望まれる。それと同時に、同窓会名簿に本学大学院修士コースを終えた人々の名前が記載されてないのは不当である。筆者の母校、大阪市立大学の同窓会名簿でも修士コースを終えた人々の名前は判然と記載されている。大学院を設置しながら、大学院生を軽視する態度はここにもあらわれている。同窓会当局の善処を併せ期待する。大阪経済大学が名実ともに叡智の府たることを願ってやまないものである。



厳しい寒さを心配していたが、篠山地方は想像したより、はるかに暖かかった。

梶村君の説明で篠山美術館を見学、終つて、美術館前で記念撮影後、引き続き、「たかさこ」で宴会をスタートした。

年々参加者がふえる。思いがけない顔に心暖まる本当に楽しい一日であった。

特に、比企先輩の大学の近況報告で、久しぶりに母校の現状に思いをはせた。

この会開催ごとにシリーズで配

### 黒正先生、寺尾先生と伊勢神宮で記念撮影

思えば昭和十六年五月十一日に伊勢神宮参拝をしている。当時の内官大鳥居前での記念写

られる梶村君お手配の立杭焼は大きな見事な絵皿であった。ぼたん鍋をつつきながら、はずれていた同期生のつながりのボタンをはめるといふ趣旨のこの会、参加大歓迎です。まだお誘いしてない方、どうかお許しあれ。ご連絡をいただければ嬉しいです。来年も、また一月に集まります。参加者、

- 比企先輩、伊藤 勝、大橋秀男、梶村文弥、琴野 浩、山本芳樹、田中史郎、大谷 悟、市川 宏、浅野義逸、石井 濟、尾崎寿一、関田庄司、橋角一郎、酒井 広、長尾 晃、柴田真典、谷川徳五郎、稗田正太郎、沢田新太郎
- 当会へのご連絡は

(柴田真典記)

### 第八期生会

真を見ると、すでにいない彼、あいつも；と目頭が熱くなる。しかし、写真では、お若い黒正先生を

真中に級友の嬉しそうな顔は輝いている。

その懐しきの再現をと、五月十九日、二見の「朝日館」に集まった。

寺尾宏二先生ご夫妻をお招きして、集う者十六名。「人生での最高の贈物のひとつは友達である」という言葉をしみじみと味う。

亡くなった友の冥福、病の床にいる友の一日も早い回復を、そして、同期生の幾久しい健康を祈って黙禱。八十一才になられて、なおかくしゃくとしておられる寺尾先生のご挨拶；あの当時一泊した「高千穂旅館」での話、黒正



伊勢神宮参拝記念  
昭和59年5月20日

先生の思い出など、昔話は尽きない。

今回は人数的には少し淋しかったが、久々の顔が二、三加わったために会は大変な盛り上がりであった。お互いに会うとすぐに、「おい、久しぶりやな、来てくれてありがとう。あの時なあ；」と学生時代の話になる。私たちすべてが六十歳を数年オーバーしている。顔にしわがよるのは仕方がないが、心にしわをよせたくない。青春とは心の若さなのである。

二十日の朝は、心配していた雨もなく、伊勢の海は静かである。朝早く護岸堤をあの「夫婦岩」に行く、海岸の模様は随分変わったが、注連縄に飾られた夫婦岩のたたずまいは私たちの思いを四十三年の昔に引きもどしてくれる。四国の徳島から車でやってきた西崎規明君の車に寺尾先生夫妻を、私たちはタクシーに分乗して内宮へ、記念撮影、そして参拝。

お伊勢さんというと、大鳥居、五十鈴川、玉じり、そして、平野国臣の「なにごとのおわしますかは 知らねども ただかたじけなさに なみだこぼるる」の歌が浮んでくる。

参拝を終って、先生ご夫妻を中

### 十一回卒業、林 俊男氏が、「毎日郷土提言賞」受賞 おめでとう

さぬきの心を取り戻す時期



明日のふるさとづくりを具体的に提言する五十八年度の「毎日郷土提言賞」(毎日新聞社主催、自治省、全国都道府県、同教委後援)の中央審査で、香川県の「感想文の部」に林俊男氏が「あすのわが県を考へる」というテーマで入賞され、あわせて知事賞も受賞されました。

その内容は、「明日の香川県を考へるとき、概論的にいわれることは、いわゆる六十二年開通の瀬戸大橋、六十四年開港の新高松空港と四国横断自動車道の三大プロジェクトであろう。この

は、クラシックであり、日本のシルクロードであろう。したがって、丸亀市の条例化や琴平金丸座のように町並み保存の動きも、その査証の一つのあらわれであるといえる。

これからの郷土は、こういうことにこそ力を入れるべきで、今をときめくふるさとブームに香川もおくれをとることなく、構想も新たに郷土のイメージアップを図るよう「讃岐の心」という一大キャンペーンに、人も物もすべての英知を凝集してゆくことが、明日の香川にとって忘れてはならない巨大なテーマである。」という概要である。

なお、その中で「ふるさと」とは何か、ということについて

ように変貌して行く中でのが町の行方について考えてみたい。まず、県都高松の将来はどうなるだろうか。久しく四国の玄関口といわれてきたが、瀬戸大橋との関連で市の活性の傾斜化が懸念されている。もともと観光商業都市であるから、市のあるべき方向を見失わないよう市民意識を一つにして、四国の中枢管理都市らしい発展を望みたい。それは十年一日ならず、屋島や栗林公園などの恵まれた観光資源の特色を生かし、特に屋島に昔の緑を取り戻すべきであろう。また、瀬戸大橋の基点となる新坂出市は一層躍進するであろう。このほか、本県最大の象徴といえる讃岐の金刀比羅さんをはじめ、オリーブの小豆島や瀬戸内海国立公園など、まさに観光の宝庫が点在している。そして、現代人の志向するもの

でも問題提起をされているのが印象に残った。

林 俊男氏のプロフィールを略記すると、高松市役所在勤時代は主に教育委員会畑で、市立中央公民館長、市立図書館長などを歴任し、三十年に菊地寛顕彰会が発足して以来、同会にかかわり、銅像建設をはじめ香川菊地寛賞の制定、菊地寛文庫の設置などに尽力した。市役所は一昨年に定年退職し、現在は文筆業に専念している。また、出身校の高松商高の野球部後援会幹事としても活躍中である。

(参考資料。昭和五十八年九月五日(月)毎日新聞、十五面、香川版)

(文責 事務局)

徳島・西崎規明。京阪神・足立武敏、市川 宏、大橋秀男、琴野 浩、浜田正彦、谷川徳五郎、酒井 宏、柴田秀一、柴田真典、長尾 晃

(追記) 少し残念なのは、案内に対して返事をいただけない人があることだ。ただ、会の案内を意味するだ

けではない、どうしているかな、一年一度の同期生の思いをこめて安否を問うているのである。欠席

### 九期生第十回 同期会を大阪で

恒例の同期生会も十回を重ね、この記念すべき集いを大阪「山中荘」で盛況裡に開催。



であつてもいい、何か一言聞かせてほしいと願うや切である。(世話人 長尾 晃 記)

### 第九期生会

会は年を重ねる毎に参加者増加の傾向にあり誠に喜ばしいことである。これひとえに南部、西澤両兄の熱意とご努力により名簿が完成した結果であろう。心から両兄に感謝を申し上げる次第である。花菖蒲の紫あざやかな、去る六月十六、十七日、三十一名の同期生が長崎、広島、岡山、高松、金沢、東京から参集し、恩師山村先生及び同窓会本部から比企事務局長のご臨席を得て、なごやかな雰囲気の中に開会。

まず、数多くの戦没、病没者の御霊に黙禱を捧げ、堀江幹事の挨拶に次いで山村先生から格調の高い昔日の思い出話を賜わり、また比企同窓会本部事務局長から同窓会の近況報告があり、いよいよ乾杯を行い、宴会にはいる。あとはお互いに昔日の面影を忍び、杯を交わし思い出話に花が咲いた。塾年の度にまして僅か二年数ヶ月の高商時代が心印象深く、懐かしくしの

ばれ、思いはともどもそれぞれの近況を、欠席者の消息を確かめ合えることは誠に意義があり、生き甲斐を感じるものである。

会はずまず盛り上がり、とつじよ武川氏が中央に進み出て、ユーモラスなスピーチのあと、例により「教授の教え歌」を彼の音頭で声をはり上げ大合唱。会は最好潮に達し、次いで、学園歌を斉唱、一応閉会し、二次会に移る。

四十二年振りに恩師山村先生に

### 三十五周年総会を大阪で開催

第十五回卒業の同期生会の三十五周年総会は、五十九年二月十八日(土)、午後五時から、梅田新道の同和火災ビル地下の「アサヒビヤハウス・ウメダ」で行われました。当日は来賓として、渡部徹、中村九一郎の両教授と同窓会本部事務局長比企重氏をお迎えしました。他にも私達が在学中にお世話になった教授方をご招待しましたが、ご都合が悪くご出席いただけませんでした。

同期生は僅か十四名の出席しかなく、三十五周年の記念総会としては、いささか寂しい感じでした。

再会の機を得た喜びに、先生を囲み夜のふける時を忘れ、飲み交わし、心ゆくまで語りあかし、誠に痛快な一夜であった。先生にはお疲れをいとおれず、最後までお付合いたいただき、一同感謝に堪えません。

翌日、朝食後、名残りを惜しむつつ次回京都での再会を約し、また、母校の益々の御隆盛を祈念して散会した。

### 第十五期生会

この会は毎年一月に開催していましたが、多忙な人が多く毎回二十名前後になるので、今年は二月に変更しましたが出席数が増えなかつたのが心残りでしたが、横浜から参加してくれた平石瑞子さん等女性三名の出席者があつたのがせめてもの慰めでした。

私達の同期の特色は、終戦の翌年の入学であつたため、復員兵など戦争の直接経験者が多く、中には妻帯者もあり、年齢も大正の末から昭和一桁の前半まで、五、六歳から十歳以上も年齢差のあるものがいても、お互いに「俺」

### 大阪・北浜、三越で開催 古野 幸治(三十二回卒業)作陶展



大経大出身者の中にもいろいろ毛色のかわつた職業の人がおられる。古野幸治氏(32)もその一人である。在学中、泉谷ゼミで先生から陶芸を学ばれたわけでもあるまいに。

その古野幸治氏が五月一日(火)から六日(日)まで、大阪・北浜、三越の四階、美術特選画廊で茅渟窯開窯記念、古野幸治作陶展を開催されました。彼の言葉は

「この度、第二回目の個展を開かせていただきます。昨年六月、新たに陶窯を築炉し、茅渟ノ海に面している所から「茅渟窯」と名付けました。心が走るまま、真夏に第一回を焼きました。灰釉の上をまるで炎が乱舞する、そんな様子を窯の中に

見ました。焼き上がった作品はやはり計り知れない釉調の変仕を見せ焼物へますますのおもしろさ、又、難しさを知りました。まだまだ、未開へと、極をしりませんが、どうか御覧下さい。」

なお、古野幸治の陶歴を左記に。昭和四十一年大阪経済大学卒業 昭和四十四年より作陶に入る 昭和四十六年より公募展出品

- ◇日本伝統工芸展 入選 八回
- ◇(昭和五十四年日本工芸会正会員となる)
- ◇日本伝統工芸近畿支部展 入選 八回
- ◇中日国際陶芸展 入選 七回
- ◇全関西美術展 入選 十回

(昭和五十八年)

佳作賞(受賞)

◇大阪土芸展入選 十回

(昭和五十年)

黒岩賞(受賞)

(昭和五十九年)

大阪府知事賞(受賞)

(比企 重記)

### この日の丸の旗にお心当り ございませんか……

昨年の秋のある日、突然、匿名のお手紙と共に、このよいうな「日の丸」の旗が同封されて、大学に送付されてまいりました。同窓会本部といたしましては、一日も早く、これをご関係の方にお渡ししたいと存じますので、ご協

力をお願い申し上げます。なお、ご参考までに匿名氏のお手紙を原文のまま掲載いたします。

「前略 秋色いよいよ深い折柄、貴学諸先生、職員様方には御清勝の程お喜び申し上げます。



先日(筆者注、×のところが)の字が判読できず、あえて×で示しました)について照会して(筆者注、どこに照会されたのか学内を調査いたしました)が不明でした(旧制の昭和高等商業学校が現在の大阪経済大学であること露知らず、私の息子も貴大学の卒業生でありめんぼくありません、大変失礼致しました。日の丸(武運長久)の入



ある。昭和商高からひきついで母校の地盤を、今後、より一層高め、後輩の就職問題や将来のために尽力し、自負して礎石となろう」という趣旨の挨拶があった。

拍手が飛ぶ。できる限りの協力をしよと一同心に誓う。次回にも出来る限り、新しい仲間を集める努力をする事の約束をする。

記念撮影、乾杯でパーティーに移る。美しいコンパニオンに囲まれ杯をくみかわすうちに「キミだっただんか!」「……」「黒い髪だね、少しもかわらんなあ」「いや染めているんだヨ」。緊張もほぐれて話題がはずむ。会場内は熱気につつまれ学生時代へ一気にもどる。さきほどまで名前をまきぐっていたのが不思議なくらい。家族の話、会社の事情。セミナーの話、およぶと恩師の顔が浮んでくる。大隅の学窓を巣立って二十九余年、タイムカプセルのなか

## はたちかいを中心に 大阪支部結成を決意

経大に二十回卒業生集る。有志の肝煎りで二十回会(はたちかい)誕生を見てから三度目の例会が、昭和五十八年十一月十九日(土)、大

前「また、アタナ」で呼び合い、あちこちに集団が出来て話に花が咲き、毎度ながら楽しい、和やかな時を過ごす事が出来ました。

当日は出席の予定者が二名、連絡なしで欠席し、内一名は後日会費を送付してくれましたが、他は請求した筈であるのにナシのつぶてでした。出席予定で料理の数を注文しており、無断欠席の分は無駄になり、費用はすべて出席者の負担になるわけで、迷惑を掛けることのない様にしてもらいたいと思います。なお、前者は同期ですが、後者は十六期で、同期の某君が特に参加を呼びかけたものでした。

また、「誰と誰は同窓会の案内が来てないというところ」と知らされることがあり、同窓会名簿を調べると不明者になっており、連絡不能の人が数名居ることがわかりましたが、案内状が届かなくて

も、同窓会の日程を聞く機会があれば、とび入りでも出席してもらいたいものです。

私達の同期生は最年少者でも五十五才を過ぎ、定年退職者や転職者が出て来ている昨今です。お互いに健康に留意して、出席者の人数が増えなくても、この会を毎年開催し、永く続けて行きたいもの思っています。

当日の出席者は次のとおりでした。

- 朝比奈茂夫、岩田録四郎、岡田幸也、岡田至弘、数井安子、金子昭典、讚井永晃、菅脩(16)、田中博見、平石瑞子、広瀬時子、幹事 酒井亮介、黒田稔、松川圭一。

### 追記

住所不明の方がありますので、ご存知の方は同窓会事務局か、右の幹事宛にご連絡下さい。

## 二十回会 (はたちかい)

阪、江坂の「ホテル・タイトー」で催された。

夕方の六時半、定刻どおり西陣の司会で開会。磯野同窓会会

のキャンパスが甦ったようであった。

歓談がはずむなか、川野常任理事から「全国二十九の同窓会支部があり、みなさんが各界で、それぞれ活躍なさっています。ところが肝心の大阪支部がありません。この際二十回会の我々が中心になり、呼びかけて結成しては……」との提案があり全員拍手で賛同。

アルコールの後押しもあって余興も佳境にはいる。おのおのマイク片手に自慢のノドを披露。打出幹事などプロ歌手もビックリのうまさ、ひとときわ生彩をはなっていた。

懐かしい思い出話は尽きないが、午後九時半、学歌斉唱、経大万歳を三唱、再会を約して散会した。

今回の出席者は十三名、卒業生総数の一割と、こじんまりしたものであったが、友情が温められ、愛校心をみやげの有意義な同期生会になったのが印象に残った。

最後に、三回の実施により、種々の職業にある同窓生の事情をも考慮して、一番集りやすい時期、日時を早くから決める事を約束して閉会した。なお、次回の幹事は打出清、西山忠の両氏に決定した。

(北西 久男 記)

手については、十数年前に大阪市阿倍野区内の古物屋において、ぼろ切れ等に混じていたのを発見、店主よりもらい受けたものです。

当日はすぐに持主がわかり返還出来るものと思っていたのが、今日まで私の本箱の中に置きざりにしていた、本当に申し訳ありません。

新聞社を通じて捜しても、らうかとも考えましたが、あまりにも大袈裟過ぎるとご迷惑をおかけするので、学校を捜して(学校生徒名簿より)持主にお返しするのが良いと思います(自分勝手なことでは申し訳ありません)

長からの祝電披露につづいて自己紹介……。

テーブルをはさんで、昭和ヒトケタ生れ、塾年の顔が並ぶ、白髪まじり、出っ腹もいる。卒業以来初めてという顔もある。

一時間も前から会場のロビーで待っていた数人、今回初出席の人すでに名乗りあった同期生もいたが、まだ二、三人は暗中摸索。配られた名簿をのぞき込みながら往時の面影を求め。職業もバラエ

ん) 貴学校を通じて返還できる様に願います。

貴学校に御面倒なことをお願いしまして、また、匿名であることもお許し下さい。××粗雑文にて失礼致します。」

匿名ではありませんが、その方のご好意に心からお礼申し上げますとともに、全国の同窓生の皆様のご協力をお願いします。

なお、お心当りがおありの方は同窓会本部事務局までお申出下さい。お待ちいたしております。

(文責 同窓会事務局長 比企 重)

ティーに富んでいる。銀行員、教師、自家営業、会社の部課長、重役さん……。各自持ち時間一分以内での近況報告であったが、社会へ出てからそれぞれの立場での活躍ぶりがよくうかがえる。みんな力一杯生きているようだ。

自己紹介もすんで、川野同窓会本部常任理事から学園の現況と二十回会の在り方などを兼ねた報告のあと「私たちは大経大になってからの名実ともに第一回卒業生で

## 『幕末維新の大阪』

本学教授 北崎 豊二



本書は、幕末維新の経済、社会、文化など、さまざまな面からこの時期の大阪の姿を描いているが、とくに明治初

年の衰退に照明を当て、その原因を追究。大阪の地盤沈下の歴史的考察を通して「大阪復権」の手がかりを提供したいという著者の意図が反映されている。

天下の台所といわれた近世の大阪についてはよく調査されているが、明治以後の大阪についての研究は少ない。しかし、その中では菅野和太郎

先生の研究はすぐれている。その菅野先生の大阪衰退の原因研究に加えて、著者は、さらに、地租改正・開国に伴う大阪周辺の縮作の衰退などを原因としてあげている。

そして、政治、経済と文化は密接な関係にあつて、政治が地盤沈下すると文化も駄目になる。現在は、地方の時代といわれているが、それは地方がいうだけで中央は地方に任せている。こんな状態が続く限り、大阪復権は望めない、という著者の論理は大阪人には耳の痛いことだろうか。

◇なお、本書紹介にあつて、毎日新聞大阪本社、学芸部松村洋氏が七月十九日(木)、夕刊、「指標」欄に執筆された原稿転載、転用を快諾されたことに対し、この誌面を借りお礼申しあげます。

◇発行所 松籟社  
◇発行年 昭和59年6月刊  
◇価格 八八〇円

(文責 比企 重)

クラブOB会

### 宝塚市役所に 経大会誕生

「経大会」は宝塚市役所に勤務する四十名の経大出身者で組織されており、日々の仕事に追われ、ともすれば自分を見失いがちな毎日ですが、そんな時、同じ大学で学んだ先輩、後輩が一堂に会し、親睦旅行や忘年会などに興ずることは、本当に意義深いものがあります。大学を卒業して十年、二十年とたつにしたがい、在学当



時よりもかえって愛校精神が強くなるような所があります。そうしたことから、今年は例年の遊山旅行と違ってなつかしい母校を訪れようという事になりました。卒業以来初めてという者や、十何年ぶりという者ばかりで、実に感慨深いものがありました。母校の発展を目的に、会員一同母校の名譽に恥じないよう、より一層仕事に精励しよう、実に身のひきしまる思いがしたものでした。時間があれば昔よく出入りした学生食堂や喫茶店で時間をつぶしたかったのですが、スケジュールの都合で一路京都へ。その夜は京都の料亭で宴をひらき、前学長の玉置保先生の御出席をたまわり、昔の大学の様子や最近の様子などをお聞きし、青春時代の話に花が咲き本当に楽しい夜となりました。機会があれば、再び母校を訪れ青春のよき思い出にひたりたいものだと、思いながら、京都の夜がふけていきました。

幹事 石田 義久

クラブOB会

### 商業建築研究懇話会 近況報告

当研究懇話会も創立以来四十年になりました。その間、会員相互の連携も益々緊密の度を加え、例会出席者の数も増えて参りました。

今年も五月二十七日、八日の両日「天の橋立」で五月例会を開きました。

参加会員は九社、九名、八回卒の宮津市在住の名士、一色圭蔵氏のご配慮で、会場を設営していただきました。

二十七日は有志による天の橋立観光を行い、西国第二十八番札所成相寺に詣で、夕刻より旅館「千歳」で例会を開き、情報交換や懇話会の活性化等、有意義な意見が百出した後、懇親会に移りました。



二十八日は早朝より宮津カンントリークラブでゴルフコンペを行い、成功裡に二日間の日程を過ごしました。

当会は商業建築関連の企業に勤務し、また、関連の事業を営みしておられる大阪経済大学同窓生がお互いに業界関係の諸情報の交換や、商業施設の開発事業に対する参加等を計ることを目的としており、同窓生諸氏の当会に対する、なお一層のご支援、ご協力をお願いする次第です。

最後に、このような業種に従事同窓生の皆さんには是非とも本会にご参加下さい。

現在の会員は左の名氏です。

㈱アート・スペース

取締役会長 足立 武敏 (8)

コーア電装

開発部長 柴田 真典 (8)

大阪商工会議所

経営指導員 池田 宏 (10)

㈱田経営研究所

所長 畑田 稔 (19)

大成建設㈱大阪支店

土木部営業部長 南沢正広 (21)

### 『母と教師の連絡帳』 第四十回卒 中南(渡辺) 勲



本書は、さまざまな問題をかかえている「啓史」(仮名)という一生徒についての成長を、彼の母親と手を携えて見守った記録を中心に編集されている。第一部では啓史自身の足跡、第二部では「人間はいかにあるべきか」を母親と共に考えぬいたことがまとめられている。

現在は、新聞、テレビ、その他マスコミの報道でもわかるように、子ども受難の時代である。校内暴力、家族内暴力、登校拒否……幾多の不幸な事象が子どもに世界に侵入し、蔓延している。一体、その原因はどこにあるのか。子どもの側か。学校の側か。親の側か。社会世相であるのか。絶えず原因究明がなされるも

の、結論となると誰もそれに明確な回答をすることができない。

この問題は、実に今日的な問題であると共に古くて新しい重要な課題でもある。そして、この課題をふまえながら、一歩進めて、人間としての「生」という問題を内包提起しているところに著者の思考の深遠さがうかがえる。

◇著者略歴

昭和四十九年三月 大阪経済大学(北崎豊二ゼミ)卒業後、同校大学院経済学研究科修士課程(福井孝治ゼミ)修了、経済学修士。

大学院在学中、大阪の私立女子高校で教鞭をとって、以来、教育問題に関心をもち、現在、神戸市立星和台小学校教諭。

◇発行所 ㈱第三文明社 (灯台ブックス)

◇発行年 昭和58年9月刊

◇価格 六八〇円 (文責 比企 重)

### 井本綿子詩集

#### 『雨蛙色のマント』

第十三回卒 井本 澄子



井本氏は大阪市の生まれ、日本現代詩人会の会員で、詩誌「地球」の同人として活躍。

この「雨蛙色のマント」のほかに、「人あかり」という詩集を上梓しているが、その直接的ともいえる言葉の表現をとおして、独自の詩の世界を屹立させている。

ある詩人は、「雨蛙色のマント」について、「雑バクな空気から逃れて、清浄な空気に肺

腑を青くすることができた」と書き、「作品の一篇一篇に集中した作者の批評性が醗酵してポエジイとなった」と感想を述べている。また、ある詩人は「作品に見られる直接性は、単に詩の技法にとどまらず、あなたの生き方そのものとなつているところに、人の心に直にふれる感動を生じさせるのだ」と書きおくっている。

一九二六年に生まれ、戦中、戦後をまっすぐな目で見つめ、これからも「飽かずに人生というものをしっかりと見つめつづけた」と願う詩人の声にふれてみてはいかがだろう。

発行 一九八三年八月三〇日

発行所 百鬼界

定価 二〇〇〇円

限定 四〇〇部

取締役社長 広瀬 勲 (25)

㈱エーピーシー商会

西日本営業部長 逸見 学 (26)

㈱エーピーシー商会 大阪営業

開発部課長 井沼 研 (29)

日産建物管理㈱

取締役社長 小西幸男 (27)

- 大和シャッター㈱ 常務取締役 美安亥一 (23)
- 大和シャッター㈱ 大場謙二 (24)
- 大阪支店 大和シャッター㈱
- ㈱日本オータマーカーベット 前田耕作 (24)
- 営業課長 ㈱日本マネジメントエージェンシー



クラブOB会

### 本年度OB会名簿作成を決定 毎日曜日、YBの指導に

ラグビー部OB会（経業会）

本学のラグビー部OB会（経業会）は、会員二五〇余名にも及ぶ会員により構成されています。会長、理事、会計、顧問の役員を置き、年一回の総会、二カ月に一回の常任理事会を開催しており、OB会の充実と、YBへの財政的援助、指導を行っています。YBへの指導にはコーチを八名派遣し、毎日曜日にグラウンドに行き指導

OB会役員  
名誉顧問 梅田 武文  
顧問 北崎 豊二  
監督 岡本 昌夫  
会長 柴田 秀一

りの一本道を、羽織、袴にステッキをつけて、悠々と歩いておられた姿が印象的で、男のわれわれもホレホレする偉丈夫ぶりだったのが思い出されて懐かしさひとしおだった。  
それから、マネージャーをされていた阿部さんは、現在興和火災の副社長ながら、実に気さくな方で、瑞光寺時代のめし屋の看板娘「ミッチャン」とのラブロマンスをひょうひょうと話される。そういえば、アゲとネギを汁と一緒にめしにぶっかけたミッチャンの○井のことなどを懐かしく思い出した。青春は死んではいない。これからの活力だ。

今回もお世話いただいた、紀伊達男（7）先輩、梶村文弥（8）君のお二人と、大阪経大剣道部OB会の伊藤監督（41）阿南幹事（28）大西主将（現役）の皆さんにお礼を申し上げます。  
△出席者V十八名  
土田博吉先生、樫正雄（5）、渡辺民雄（5）、阿部英臣（6）、岩岸巖（7）、紀伊達男（7）、梶村文弥（8）、山本芳樹（8）、北之坊治夫（10）、阿津実（11）、酒井賢三（11）、北条仁（11）、村田吉司（11）、西垣内一郎（12）、馬場薫（12）、阿南信行（28）、伊藤幹男（41）、大西浩文（現役）。

しております。  
五十九年度のOB総会は六月十日（月）に経大グラウンドで午後二時よりOBチームと朱雀クラブの試合を行い、その後総会を開催しました。OB多数参加で盛会のうちに終了しました。本年度はOB会の名簿を作成する事を決め、事務局はその準備におおわらわです。夏期合宿は例年八月十二日、八月三十日新潟と長野県で実施されるので、その指導体制も常任理事会でOBが重ならない様に調整し、指導にあたっております。  
OB会もシーズンには十試合以上計画し、ゴルフコンペも計画し、OBの親睦に努めています。OB会長も、幹事長も、関西ラグビー協会員をつとめておりますのでラグビーの指導は他大学に負けな自信をもっていきます。財政的援助も、OB会費（年額一万円）よりYBへ多額の援助をしております。関西大学Aリーグ優勝を目指してOB会は努力をしまないつもりです。

### 一流企業にモテモテの ラグビー部員の就職先

ワンホアー、ファイフティン個人はチームのために  
ラグビーは無責任なプレー、組織の中で自分はどういう役割を果すべきかということプレーヤーはよく知っている。  
それが会社組織の中に入ってもきちんとやっていけると、企業側は判断している。補欠は補欠なりに、チームのために、協力することを知っており、縁の下の力持的存在の部員も企業には好まれている。

一つの集団の中で、四年間頑張って、一体となってきたことに価値がある。  
四年間、何となく過して卒業していくのと、自分の能力の限界に挑戦し青春を賭けようというのでは自ら就職のとき差がつけられるのは当然である。  
関西ラグビー・フットボール協会理事  
大経大ラグビー部OB会長  
柴田 秀一（8）



それは多分に、自らの青春の墓標を確かめに向かっているのではあるまいか。自分で、「あるまいか」などというのには無責任な話だが、自分でもよくわからないのだから仕方がない。  
Aと会う、生きていることを確かめ合う。Bと話す、すると瑞光寺通りの小川沿いの砂ぼこりの田んぼの中の道を歩いて行く自分を思い出す。新歌舞伎座地下の二十銭の映画劇場の「商船テナシチー」や「巴里の屋根の下」「自由を吾らに」を超満員のなか、後から背のびしながら観ている自分が浮んでくる。道頓堀の天牛の古本屋。下宿していた淡路の旅館。桜塚のアパート。曾根の音楽喫茶「ローズ」のベーターペンの音楽。京都、熊野神社付近での夏期合宿。みんな自分の青春の一コマだ。それからどうした。それからあの戦争だ。

### 第三回旧昭和高商剣道部OB会 死者に対して何をなしたか

八回卒 山本 芳樹

柴田 真典 記

「昭和五十八年十一月六日（日）十一時」  
その日の会場六甲荘は、結婚式の関係者で相変らずロビーは華やいでいた。この会館は教職員の福祉施設としてつくられたものだが、建物も大きく、設備も綺麗で、料理もいので、日曜日などは、特に、予約満席のところを、高校の校長だった梶村君（8）の顔で、一室を借用、準備していた。OB会発足以来ずうっとこの会場である。  
それにしても、いつも自分で不思議に思うのは、どうして毎年同じように同窓会とかOB会に出かけてくるのだろうか。三十年ぶり、四十年ぶりというのなら、旧懐の情もひとしおで、積る話も……というところだろうか、毎年だともあまり変りばえもせぬと考えるのが普通ではないのか。にもかかわらず出かけて行く。全く不思議なことである。

朝鮮から一兵卒のまま無事に復員した。  
そして、それから、また、一生懸命働いた。戦後の日本復興にはいささか寄与したと思っている。しかし、戦争で死んだ者と生き永らえた者の人生の差はあまりにも大きい。今日の暖衣飽食、繁栄の一滴でも、戦死した同僚に味わせてやりたい。死んだ者は仕方がないのか、死んだ者は運が悪かったのか、それでは一体、彼等は何のために死んだのか。自分たちが今のうのうと生きているのは誰のおかげなのか。彼等がこの同窓会にも、OB会にも永久に出席できないのは誰の責任なのか。私たちは、このことを永久に問いつづけなければならぬ。  
キナクさい道を再び歩まないように努力することこそ生き残った者の責務であろう。  
会場には、師範の土田博吉先生のほか、岡山から樫さん（5）、熊本から渡辺さん（5）、それから毎回出席の阿部英臣さん（6）が東京からそれぞれ駆けつけていた。土田先生とは昭和十六年十二月卒業以来であるから、まさに四十数年ぶり。現在もお元気で活躍の様子で、かつて瑞光通

幹事長 西岡 保  
理事 各卒業年度の主将  
あるいは主務

経業会事務局

(文責) O B 会事務局会計 上野

### 創部二十五周年 O B 総会を 同窓会総会懇親会の場で

簿記会計研究部 O B 会

昭和五十八年十一月十二日(出)、梅田にある「曾根崎たよし」にて、O B 総会を開催いたしました。

顧問の渡辺大介先生はご都合が悪く、ご出席いただけませんでした。したが、メッセージをお届け下さり、会の進行に花を添えて下さいました。会の進行係は水野貴司君(O B 会幹事、三年)で、まず、クラブの現状報告(部長の藤井尚士君、三年)、五十七年度 O B 会事業報告(五十八年度会計中間報告(O B 会幹事、杉本勝司君、三年)があり、一同現在のクラブの現状等に耳をかたむけつつ、それぞれの学生時代の活躍を思い出していたようです。ついで、五十九年には創部25周年にあたり、O B 総会をどの様にするかということが話しあわれた結果、大学の同窓会総会の場をお借りして、できる限り、O B のご出席をお願いし、同窓会総会を盛り上げるとともに、簿記

出席された方々は、泉谷勝美先生(旧顧問)、大谷慧(32)、森政彦(33)、井上正彦(35)、池田善雄(36)、榎原正夫、土出隆康(37)、八木克征、栗原健治(41)、佐竹薫(44)、阪倉正巳、滝本康行、辻敏夫、湯本盟也(46)、今仲保、阿部義行、野口幸利(47)、定野陽一、津本雅明、梶原秀幸(四年)、坂田恵治、杉本勝司、河本陽介、藤井尚士、水野貴司、勝間直樹、藤野恭久(三年) 追記四十七期の新開誠一君と四

十八期の端岡のり子さんが去る五月十四日に結婚されました。皆さんにおよろこびを伝えるとともに末長く、仲よくお過ごし下さい。現住所が不明な左記 O B の方々をご存知の方はお知らせ下さい。小野啓三(28)、辻宏夫(32)、浅野幸男、南直之(33)、竹内俊夫(34)、大山伸之、小倉均(35)、須藤光三(37)、川端英仁(38)、新井哲成、村川正徳(39)、熊崎彰(40)、池田信次(41)、松本和政、森正幸、古林裕久(44)、小林祥二、谷口泰彦(48)

### ハンドボールと ゴルフボール

ハンドボール部 O B 会会長 鮫島 圭 (18)

一九八三年版「濠江」で O B 会再発足をお知らせしてから、早くも一年が経過しました。その間、会長の私が東京在住という変則運営ながら、副会長の辻村(21)、山田(39)両君、また、面倒な連絡、会費徴収等雑用を引き受けてくれた大島(17)、高早(30)両君のご努力により会合には常に二十名を越える老若 O B が顔を連ね、再発足した O B 会も漸く定着した感があります。以下、活動状況を簡単に記します。

昭和五十八年十二月四日(日)、O B、現役合同納会兼激励会を山下君(34)のお世話で、住道の「福祉」で開催しました。部長の高城教授にもご出席をいただき、酒の飲みっぷり、あるいは、挨拶の仕方等、それぞれ各 O B の個性を感じた半日でした。昭和五十九年に入り、現役の新入部員セレクション、春季リーグ戦等、ご多忙な中、色々な年齢の O B が参加応援してくれました。

昭和五十九年六月三日(日)、O B・現役合同練習試合兼懇親会を「母校体育館、同窓会ホール」で

開催しました。藤井君(18)を筆頭に、篠原君(44)、林君(46)、吉田君(46)等の若手まで、汗をかいたあとのビールは格別のものでした。

右記練習試合に先立つ昭和五十九年五月二十六日(土)、岸和田 C C でゴルフ大会を開催しました。実は、昨年来、ハンドボールという過激なスポーツに走行困難?のため、参加がためらわれる O B の間で、ボールを小さくして、かつ、歩こうという意見がでており、それが実現したものです。参加者は幹事の奥田君(22)を初めとして、辻村、清水君(21)、金沢、石田君(22)、岡本君(23)、伊藤、平木君(25)の諸君で、金沢、奥田両君がクロス86で優勝、準優勝となりました。すでに、ハンドボールが投げられない、走れないとお嘆きの O B 諸君、今すぐにゴルフ会(幹事、奥田泰道君(22))へ加入をおすすめします。

さて、昭和五十九年度ハンドボール部 O B 会総会は、規約通り十一月三日(文化の日)、母校同窓会総会後開催する予定です。場所は、大阪、梅田、新阪急ビル「レストラン・パレス」です。決定次第あらためてご連絡しますが、今から

予定して多数のご参加を期待しております。

以上の様な行事を行うにあたり、毎度お世話になっております此企

### 九シーズン連続優勝の 偉業をねぎらう

クラブ O B 会

昭和二十三年、私達が大阪経専の門をたたいた頃、敗戦日本の混乱は、今では想像もつかない有様であった。そうした中で、ただ一つの救いといえるものが、野球の復活であり、一コのボールがあれば、どこでも出来るスポーツとして日本中がキャッチボールを始めていた。私達はこうしたスポーツ人口の底辺を大切に、そして、勉学とスポーツを両立させるために軟式野球部を創設したのである。

前置きが長くなったが、以後三十五年の歴史は、そのまま部の伝統となり、昭和五十九年現在、O B の数も二百名を数えるに至っている。

しかし、我々の O B 会が正式に発足したのは昭和五十六年であり、O B 会としての実績はまだまだ乏しいけれど、現役との対応や、学連内での活躍は、決して、他部にひけはとらないと自負している。

同窓会本部事務局長を初め同窓会本部事務局の皆様はハンドボール部 O B 会一同を代表して厚く御礼申し上げます。

### 準硬式野球部 O B 会と土球会

クラブ O B 会

山中氏(19)は全国学連と関西学連の理事をつとめ、現在、近畿六大学連盟の理事長に就任しているし、荒井氏(23)は全国学連の評議員と関西学連の事務担当理事として、その敏腕をふるっている。

また、土井氏(45)は監督として、牧田氏(19)はコーチとして、時間をさいて現役の指導に当たっている。

O B は頑張っているが、現役は更に頑張っており、本年の春のリーグ優勝によって、九シーズン連続優勝の偉業を成しとげた。

こうした背景の中で、昭和五十八年度 O B 会は約五十名を集めて行われ、谷邦夫会長の挨拶の後、なごやかな懇親会となったが、ブラジル遠征で全日本チームの四番をつとめ、四割二分の好成績を残した山本君の紹介で万場大拍手となった。また、全日本大会で優勝候補筆頭の日大を破り、中京大を

も破りながら、京産大に苦敗を喫した事にも、ねぎらいの拍手が送られた。

こうして O B 会の更に充実する事を約して解散となったが、創部当時の O B 会ともいえる土球会について一寸ふれてみたい。当初、十九回の O B は十一名であったため、土球会の名を冠したものであるが、発足後早くも三十年が過ぎ、昨年は記念の北海道旅行を実施した。土球会は毎年開催と家族ぐるみの参加が原則であり、かつて、昭和四十年の会合では実に五十人(子供共)が集ったものである。

今では子供達も大きくなり、夫婦参加の形となっているが、昭和二十八年以来今日まで続いているこんな会は珍しいのではなからうか。梅田先生と奥様も会員として御参加頂いているし、図書館の石川菊女史も会員である。そして、この土球会が O B 会の基幹である事は申すまでもない。わが準硬式野球部 O B 会は今後益々充実し、発展するであろうが、創部時の精神を忘れることなく、有為な人材の温床となれば幸である。

山中 良夫(19) 記



クラブOB会

### 第二十一回OB会同窓会開催 会員数一六四名に

ワンダーフォーゲルOB会

特々大のザックが肩に食い込む。息はずみ、汗が目にしみる。前からも後からも、ハッハッと荒い息づかいが聞えてくる。「ガンバレ!!、頂上はもう少しだ!!」とリーダーの励ましの声がとぶ。夜、ローソクの灯がゆらぐテントの中の皆の顔は充足感にみちた男の笑顔である。そして、全員が一つのテントに眠る。



同じ釜の飯を食った仲間がOB会を結成して、早や二十一年目を迎え、会員数も一六四名になり

ました。

第二十一回OB会総会は昭和五十九年二月十九日(日)午前十一時半、大阪、梅田「豆狸」で開催され、意見交換、会員の近況報告を含めた予定議題を可決し、総会を終りました。

記念撮影の後、午後一時より懇親会に入りました。

クラブ部長井手経三教授の音頭による乾杯で始まった懇親会は、恒例のごとく大変な盛り上がりを見せ、ドッキリのかくし芸まで飛び出して和気藹々、雰囲気満点の会でした。最後に、エールを組み追送歌を歌い、午後四時、次回の総会での再会を楽しみに散会いたしました。

なお、今回の総会には同窓会本部の磯野会長より祝電をいただき誠にありがとうございました。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。

最近のOB会の活動をご報告します。昨年一月、OB会名簿を発行、一月二十九、三十日の両日、大阪、羽衣「新東洋」で新年会を

かね第二十回OB会総会を開催、

また、九月十、十一日、岡山、苦田温泉「泉水」でOB会結成二十周年記念大会を開催、記念品とO

B会旗を作りました。

今回の総会には、是非、ご参加下さい。

木元 和男(32)記

### 全国から駆けつけ 創立十五周年のOB総会

法学(律)研究部OB会

本年六月二日(土)午後六時三〇分、共済会館「新大阪」にてOB会創立十五周年記念総会が開催されました。当日は母校より、お忙しい中、当時顧問をしていたいた門坂先生の御出席をいただき、十五名のOBが参集しました。遠くは九州、八代より浜(35)、岡山、津山より大家(36)、北陸、金沢より安江(38)、愛知、春日井より池田(39)、地元関西からは、十五年ぶりに福沢、後藤(33)、五年



ぶりに水野(27)、角野(35)、そして常連の大谷、奥(36)、西村(38)、篠崎、長島(39)、馬場(40)(敬称略)が駆けつけ、西村世話役が開会宣言をした後、星加会長(26)が力強く乾杯の音頭、続いて門坂先生より御祝辞並びに母校の近況報告をしていただき、出席者が自己紹介をしながら和気藹々のうちに杯を交して語り合ううちにあつという間に時間が過ぎ、全員の記念撮影をし、最後に、門坂先生を中心に力強く肩を組んで、いつものように「学歌」、「追送歌」を合唱し、またの再会を約束して散会となりました。なお、初代会長の多賀顧問(24)は出席の予定でしたが、家庭の事情で欠席になり残念でした。また、横浜在住の土屋(27)、姫路在住の八木(33)、香川県在住の野田(37)、石川県在住の山崎(39)、広島県在住の笹山(40)等(敬称略)から

### 白馬ヒュッテ 修理完成

#### 祝賀会を開催 大いにご利用下さい



昭和三十六年十一月三日、当時の山岳部OB会(経稜会)、山岳部員が中心となり、大学、自治会、体育会、第二学部自治会の協力を得て白馬山麓(一九〇〇m) 柵池に完成した大阪経済大学白馬ヒュッテも、早いもので二十有余の風雪に耐えてきました。このヒュッテは、当時の山岳部員二十名が四十日間の夏休みを利用して、大黒柱から

釘一本にいたるまで四トン余の建築資材を、自分の双肩で登路四時間半の急坂をかつぎあげて完成した文字通りかれらの汗と涙、血の結晶であったといっても過言ではないといえます。

昭和四十三年、大学に寄贈し、本学の厚生施設の一つになりましたが、今夏、大学の手で大修理が行われ装いも新になりました。これを機会に、設立当時の苦勞をしのび、また、今回の大学の誠意による修理などをふまえ、経稜会主催の山小屋設立二十五周年をかねた祝賀会(九月十五、十六の両日、参加者四十五名)を現地で盛大に開催しました。

ヒュッテは二階建てで、見晴しも素晴らしく、北アルプスの白馬連峰、唐松岳、鹿島槍岳が手にとるように一望に眺められ、その美しさは筆舌に尽し難いものであり、正に「百聞一見に如かず」の文句がピッタリのパノラマが展望されます。また、小屋周辺は高原林で柵の森や高山植物が美し

くハイキングにも好適です。四季を通じて、利用していただけですので、同窓会員の皆さん、白馬の経大ヒュッテを大いにご利用下さい。なお、利用手続等につきましては、大学の学生部へお問い合わせ下さい。

林 義昌(32)記

激励のメッセージをいただきました。

翌日は、八名で十五年ぶりに母校のキャンパスへ行き、周囲の様相の変化にとまどい、緑が当時よりも多くなっているのにうれしく思いましたが、残念なことに現役が存在しないということに少しがつくり、本館前にて記念撮影をして解散しました。

奥 正信(36)

法学(律)研究部OB会事務局  
奥 正信様へ

前略、先日はめでたい法学(律)研究部OB会十五周年記念の宴席にご招待いただき厚くお礼申し上げます。短期間で何もお手伝いできなかつた名ばかりの顧問であつた私に声をかけて下さって恐縮しております。懐かしい顔々で当時のごとあれこれと思い出し、帰宅後も一刻、感傷にひたつた次第です。大先輩の出席、また、北は金沢、南は熊本までという広範囲の参加、素晴らしい会合でした。これも貴君をはじめとする幹事諸氏のご奔走の賜物です。今後の益々のご発展を祈り上げます。草々

昭和五十九年六月六日

門坂 正人



訪韓の節はお電話を

第十二回卒 方 漢奎 秀賀秀二  
同窓会の御発展を心から祝賀申し上げます。

小生、貿易商ならびに代理店業務に従事しております。訪韓の節は御電話下さいませようお願ひ申し上げます。

御健闘を祈つてやみません。

母校の発展を祈ります

第十三回卒 永尾(杉山)千賀子  
戦中、戦後の激動の三年間をすごした十三回生の女子です。

只今は、九州の福岡で教員をしている夫と、受験に苦勞している娘と息子をもつ、のんびり、平凡な主婦です。でも、学校で久野先生をはじめ諸先生のおかげで、ものを見る目、自分の価値観をもてたと思います。今後も、時間を作っては本を読み人間として充実した生活をおもっています。母校の発展をはるかに祈ります。

母校のPR作戦を強力に

第十三回卒 名越(三輪)美智子  
昨年の同期会で伺いましたが、母校の知名度が低く、後進の大学の中で、世間によっては母校より有名な大学が多いようです。今後とも益々こ

のPR作戦を強力に続けて下さい。アンケートの掲載は興味深かったです。今後とも続けて下さい。益々のご活躍を期待しております。

貸ビルを経営しています

第十四回卒 川本 静子  
戦中、戦後の激しい時代の変化の中に卒業いたしました。早や三十数年ふり返つてみればほんの束の間のご活躍です。

私は、今、マッチ箱の様な小さやかな貸ビルを経営致しております。テナントを通じまして新しい時代に生き残るために、また、前進するために日夜懸命に努力している中小企業の人々の活力を感じている毎日です。母校大阪経済大学の発展と同窓生の皆さまのご健康をお祈り致します。

定年を迎える年頃に

第十五回卒 西川 仁水  
我々の年代も、もう定年を迎える年頃となりました。これからも元気で日々を楽しみながら送りたいと考えております。年とつた皆さんと元氣でお会いするの楽しみにしています。

六甲登山に励んでいます

第十八回卒 加納 博  
シベリアより復員の翌年、昭和二十四年、黒正先生の高名を慕いといつたらおかげですが、新学制改革の一年に編入学しました。当時は、相当ヒネた学生で背広姿で通学、会社と学生の掛け持ちでした。

来年三月には、早や、第二の定年を迎えつつあります。母校も大きく立派になって行くのを眺めつつ、楽しくうれしく思っている昨今です。日頃は、裏山の六甲登山とやらで、時には有馬温泉まで足を延ばします。森林浴は私の第三の人生への伴侶です。

経大カラーのアピールを

第二十回卒 渋谷 猛彦  
卒業して三十年です。今の会社に入社して、東京、大阪、神戸、福岡、京都、そして明石です。行く先々で経大同窓会に出席し、立派な先輩、後輩の活躍を心強く感じております。経大のユニークな体質は他校にないものであり、そこで学んだわれわれは幸せだったと思えます。これを社会人になっても忘れないで欲しいのです。また、学校側も、さらに経大カラーを社会にアピールして欲しいと思います。最後に、関西六大学で初優勝の野球部、おめでと



実力ある学校教育を期待

第二十二回卒 森田 利一  
同窓会の皆様、いよいよご健勝にてご活躍のこととおよろこび申し上げます。小生も五十代に入りましたが青年の心意気で仕事に、下手なゴル

最近に思うこと。みみずのたわごと

第二十三回卒 大盛 豊一

簡単な貸し出しにより、これら多くの方々にご迷惑をかけるようになってはと思ひ、相手の執拗なまでの要請をていよく断つた次第である。

最後に母校に一言

毎年春・秋になると大学野球リーグ戦の様相が新聞のスポーツ欄ににぎわしている。特に関西六大学のリーグには、我が経大が出てくるので新聞のスポーツ欄を開いて見るのが何よりも楽しみである。経大の名が出る度にその勝敗に一喜一憂の思いがするのは私一人であろうか。恐らく全国各地で活躍中のすべての同窓会員に共通する感情であろう。

現在、日本には、四年制大学が四五八校あるといわれている。まさに大学乱立時代である。比喩的な言い方をすれば、群雄割拠の戦国時代さながらである。このような数ある大学の中で、たとえ新聞の活字は小さくとも一応大阪経済大学の名が出てくることは我々母校を愛する同窓会員にとっては、よろこびこの上ない心境である。

そこで思うのであるが、今後、社会的、経済的、その他諸々の要因が作用して、大学へ進学する世代の価値観が大きく変わり、高等教育を希望する者の数が激減したとき、果して四五八校のうち何校が存続可能なのか大いに関心のもたれるところである。仮に、将来大学の存在そのものが問われる

島根県の高校教師です

第二十二回卒 立花 嘉治  
おかげで元気に勤めています。県教委の定める規程によって、現在、へき地校勤務二年目です。県内の高校に経大出身者が十名勤務しているの、今夏は集って結束を固めようと思っております。母校のご発展をお祈り申しあげます。

びしい時代が到来したとき、我が大阪経済大学はそれにたえうるだけの力量を十分持ちそなえているであろうか。自問自答しながら、母校の行く末を案ずるものである。ちなみに、毎年行われる南九州支部総会で何時も話題になることは、母校の知名度についてである。このことについて出席者の大半が今一つぱつとしないことにも足りなさを感じているのが共通の実感である。

ご承知の通り、今日の週刊誌は、大学の入試前後や就職時期ともなると「全国主要大学の……」というタイトルでその情報提供に余念がない。日頃は週刊誌にほとんど関心を示さない方であるが、この時期ともなると、我が経大はどのような状況下にあるのだろうか。気になり、書店に立寄って大学に関連する記事を興味しんしんの思いで見るのである。しかし、残念

フにと頑張っております。今年春には優秀な後輩が一名入社してくれまして、社内同窓生は都合四名となり、大いに我が経大の声価を高めているところであります。

なことでありますが、一流経済人、または評論家などを講師に招くとか、東京経大との交流をはかるなどは校名のPRにはならないでしょうか。同窓生アンケートは予想通りです。関係の皆様がこれを活用してほしいと思ひます。当事者の方のご苦勞に敬意を表したいと存じます。

白砂青松に囲まれてます

第二十二回卒 竹内 清幸

近しい人々ともつい疎遠がちな今日この頃、「瀬江」をなつかしく読んでおります。

小さい文字が段々と読みづらくなつたと思ったら、五十歳になつており、人生の大きな節目を迎えた感じが致します。さらに、待っていたように町内会の役員のお鉢が廻つてき、今まで、人さまのお世話になつてきたのがどうとう自分の番になつたのかと感慨無量です。しかし、諸先輩のお元氣な音信をみるにつけ、まだまだ負けずに頑張る積りでございます。

勤めは謡曲で有名な白砂と青松に囲まれた高砂の海際で環境は抜群、やる気は十分です。

編集部の皆様のお健勝をお祈りするとともに、今後もよりよいお便りを期待しております。



島根に支部ができました

第二十五回卒 中尾 則房

若葉薫る季節となりました。「瀬江」を楽しく拝読させていただいて

おります。先輩、同窓生の顔がうかんでまいります。

島根にも去年待望の支部が結成され、これで同窓会の仲間入りができたと喜んでおります。誕生間もない支部ですのでご指導下さいますようお願いいたします。

なお、母校の野球、サッカー部等の選手の名前、出身校を一覧表にして掲載して下さいませんか。母校、同窓会のご発展を祈ります。

質的充実を期待

第二十五回卒 棚橋 勝

一、近況

目下税理士として税務会計事務所を新大阪駅前にて開業しています。男子職員三名中二名が大経大の卒業生です。税理士としては大学で習ったことが役立っています。もう少し大学で勉強に専念していたらと後悔しています。

二、母校・後輩への希望

仕事柄クライアントの会社からよく新入社員の紹介をたのまれるのですが、残念ながら入社試験で他大学より成績が悪く恥かしい思いをしました。質的充実をはかつて頂きたくお願いします。母校に対しては、校風は地味だが、勉強努力する大学だとの定評がありますので評判を落さないよう努力してほしいと思います。

でびつくりと反省をしています。

在校生の奮起を望む

第二十九回卒 土田 勲

一、私は、現在、東京地区(一部三県)の家電商品(冷蔵庫、電子レンジ)の販売企画の担当責任者です。二、ニューイメージの学園、活力にあふれる学園で、学生時代に与えられた貴重な時間を最大限に活用し、自分の可能性にチャレンジして欲しい。

野球部の関六での優勝、全日本選手権出場おめでとう(決定の日に筆をとる)。本大会での活躍を祈る。

東京では経大の話題は少ない。他校(たとえば京産大など)の話題の方が多し。先輩は頑張っていますので、在校生の奮起を望む。

母校の将来計画を真剣に

第二十九回卒 曾我 積

大経大卒業以来ずっと現会社に勤務、厳しい環境下ですが気力だけは若い人達に負けずに頑張っています。当行でも経大会を組織し、現在二十三名在職、毎年新年会を催しています。私事ですが、早婚だったので、今年二人の子供が同時に進学受験に大変悩みました。結局長女は国立京都工芸繊維大学、長男は地元府

大阪、ミナミの心斎橋筋の一

本東の筋、豊屋町といえは、大阪を知る人にとっては多くを語る必要がない程、ミナミのド真中である。近年米、ミナミの名称にもなったヨーロッパ通り、アメリカ村にも近く、また、夜ともなれば宗右衛門町、三ツ寺町、八幡町、周防町……とネオンがきらめき、ミナミの盛り場になる。

その一角(地図参照)に、地下一階、地上五階の豪華なシティホテル「富久屋」が清楚なたたづまいを誇っている。ご宿泊



に、会議に、宴会に、また、喫茶、レストランでの一時に……と、戸外の雑音に関係なく、あなたに快適で魅力あふれるプライベートタイムを約束してくれる。

心が落ち着く静寂さと、交通至便さを誇りにしている「富久屋」、観光、ビジネスにも便利で快適な「富久屋」に是非一度お立ち寄り下さい。伝統と格調が息づくくつろぎの時間があなたをお待ちしています。

〒542 大阪市南区豊屋町四〇  
☎ 〇六―二一―〇七五七

教育者の使命感を痛感

第二十六回卒 中尾 道徳

瀬江二十号発刊に寄せて近況をお知らせする機会を得ました。諸兄にはますますご活躍のことと幸いです。大阪経済大学も五十周年

を迎えられ、その年輪とめざましい発展にひとしお感慨深いものがあります。私も教育の仕事に携わって二十数年になります。現任校の県立鳥取西高校は、全日制・定時制・通信制の各課程と付属幼稚園を持ち一七〇〇

仙台に単身赴任中

第三十回卒 神田橋秀雄

若葉の候同窓生の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、このたび、瀬江に掲載するため、近況を寄せよとの通知を頂き、自信のない筆をとっている次第です。学校を出て早くも二十年。現在には仙台にて単身赴任の生活をしながら頑張っております。仕事の性質から病院のドクターを相手に、また、営業所の責任者として、日夜奮闘しております。仙台にお越しの時には是非お立ち寄り下さい。

最後に、大学の益々の御発展と同窓生の皆様方の御健康を念じ申し上げます。仙台上に失礼します。

記念館に黒正教本部を

第三十一回卒 久保 富夫

先ず、本年は大阪経大七季ぶりの野球部の神宮球場第一出場を果されたことに對し、ここでお祝い申し上げます。

昨年は五十周年記念式典を立派に開催され、先生方及び関係者の方々御苦労様でした。

式典後、寮経済研のA宅に立寄り、なつかしい御家族を目にして、とりわけ御長男は寮時代からですので、高校三年生のたくましい姿には驚きました。玄関軒先の二家族ものつばめの巣にはうらやましく思っていた



立高校に決まり、現在ほっとしています。

故郷や母校を愛さない人は誰もいない筈です。最近経大野球部の関西六大学優勝、関西地区大学野球No.1確保、神宮大会への進出。同窓生にとつてほんとうに嬉しい出来事です。今後とも、常勝経大を期待致します。アンケートの結果によると、大多数の卒業生が大阪経済大学の現状に満足していません。大学当局はこの際真剣に経大の将来計画を進めるべきだと思います。

その他、経大同窓会には支部が相当あり、大変良いのですが、将来とも一番会員増の見込める?地元大阪にない事が気になります。早期に足を固めるべきだと思います。最後に、母校大阪経大の創立五十周年を契機になお一層の発展を祈ります。

と全国五十カ所程の事業所があり、だいたい五年周期で転動してありますが、幸いこれまで四カ所とも通勤可能地で、今の場所へ、往復百キロを自動車通勤です。職場の環境は何といつても自然そのもの大気ですが、さすがと北山杉木立で、毎日いるとあきませんが、春は山菜とゴリ、夏は鮎、秋は松茸、冬は猪と鹿肉で四季折々に変化が味わえて左党にはたまらないでしょう。この地域にダム建設を公表して二十三年、やっと今秋家屋百八十戸等の一部の用地買収に掛かれるまでになり、経理を担当している私も忙しくなりそうです。一つのダムを作る予算が千二百億円、国の交付金、補助金の他、下流の府県市町村の負担金もあり、水の無駄使いはできません。

連日仕事、仕事です

第三十三回卒 藤村 克成  
光陰矢の如し、で卒業して早くも十七年過ぎ、連日仕事に追われています。

懐かしい論文発表

第三十六回卒 木村 宣久  
経大OBの皆様、また、現経大生の皆様お元気で御活躍の事と存じます。

経大の躍進に期待

第三十五回卒 佐野弥三郎  
早いもので経大を卒業してすでに十五年になります。同じ職場に経大の卒業生が次々と入ってきます。同じ経大を出たことで仲間となり、仕事もスムーズに行っており、私も三人の子供がおり、新聞のスポーツ欄に経大が「お父ちゃん、経大が野球勝つとるで」と教えてくれます。岡山市内に住んでいます、経大の躍進を見まもっている今日この頃です。

母校の発展に協力します

第三十七回卒 田沢 誠  
最近、澱江が発行されていることを後輩より聞き、また、今年早々のOB会に出席も致しました。北九州ブロックにも様々な業種で皆様活躍しておられる様子で、私自身も、より頑張らなければ……と、改めて意を強くした次第です。同窓会および学校の発展に尽力するつもりでございますので、何かありましたら何なりと申し付けて下さい。



毎回楽しみな「澱江」

第三十七回卒 竹本 巧  
卒業後早や十余年が過ぎました。「澱江」を毎回楽しみにしております。

後輩はゼミに力を

第三十七回卒 正原 一樹  
一、毎日を平和に、平凡に過ごしています(？)。片田舎に居るため、上阪の機会がなかなかありません。同窓会の案内もあつたり、なかったり。

と、小生の家でも七年目にやつと一家族のつばめが巣を造ってくれました。七夕生れの次男が喜んで戸の開閉を静かにしめるようになり、O君も学生時代よりソフトになられ、子供の頃から転勤に慣れていて、全国をまわるのが楽しいぐらいたどのことと安心致しました。K君も行政書士と宅建業でお忙しいようですが、早く飲み屋の一つでもあって、落ち着いて飲める場所を提供してくれるのですが、商売繁昌を願ってやみません。学生時代、思案橋で飲み、思い出の長崎めぐりをさせてもらったM君、原爆病院に入院するまで手帳を持っていないことなど知らせてくれずに入院してからの機会もあつた。小生も十二年前に夫婦(みょうと)養子と養子の間にはさまれて、スポーツ的骨折損のくたびれ儲的にかむしやらに自問自答しながら、今日まで大きい事故もなくこられましたのも、良き師、よき先生方のお導きの賜物と思っております。さらに、藤田敬三先生のお顔により勲一等の笏(しゃく)持にまでしていただき厚く御礼申し上げます。黒正記念館もきつと完成するでしょうが、その中に黒正理論の体系的教育、思想が確立されなかつたならば、先生の日本人間史の奥深きところまでは到底追求できるものではないだけに、黒正教の本部をその中に設置下されば幸いに思います。

ゴルフ場に勤務中です

第三十二回卒 宮本(弓場)憲昭  
一、ゴルフ場に勤務しています。日、祝日に関係なく営業しておりますので同窓会、支部総会に出席しております。誠に申し訳なく思っております。

初めて総会に出席

第三十二回卒 広沢 征雄  
昨年はじめて同窓会総会に出席させていただきました。楽しい時間を過ごしました。次回もできるだけ参加したいと思っております。

北山杉に囲まれています

第三十三回卒 佐々木 肇  
卒業と同時に水資源開発公団に就職以来十八年目、現在京都府日吉町のダム現場に勤務しております。北は利根川水系から南は筑後川水系へ

同窓生のお店拜見

信州 斑尾高原 さわやかな高原ライフ

ペンション ピノキオ 二十九回卒 山名 富雄  
春はミスバショウ。山菜、夏はテニス・ウインドサーフィン・ヨット・ゴルフ、秋はハイキング・キノコ狩り、冬はスキーと四季それぞれの楽しみがある標高一〇〇〇メートルの斑尾高原、それはメルヘンの世界です。



Map and information for Penzion Pinocchio. Includes a map showing routes from Tokyo, Nagoya, and Osaka to the pension via train and car. Text describes the pension's location and amenities. Contact information: 〒389 長野県飯山市斑尾高原 公〇二六九六―四一三四一九.

人生の根本は家庭に

第三十八回卒 春名 豪

一、昭和五十五年十二月十三日(三年半ほど前)に結婚し、一歳半になる長女と三人暮らしです。大変円満な家庭に恵まれました。幸せを感じております。最近、人生の根本は家庭生活にあるのではないかと思うようになりました。仕事は相変りませず三光汽船(海運業)の財務部で働いております。入社十三年目を迎へ、益々張り切っております。一時は、極度に落ち込んだこともあるだけに、今の燃えるような情熱は、かつてのものより一まわり大きいと確信しております。ただし、我々を取りまく客観情勢はいずれも厳しいものばかりです。ことに海運業界の長期化している不況は目を覆うばかりです。しかし、必ず未来はあると信じ、希望を夢に自分の人生をかける心積りで。

二、皆さん、殊に後輩の皆さん、人生は何時(老人でさえ)花開くか誰にもわかりません。お願いしたいことは、花開くチャンスが一生に二度や三度は必ず来ますから、決してあきらめず、その時々に対応出来るように毎日の生活のなかで自分を磨きあげておいて欲しい!!ということ。夢と希望と信念を持ち続ける限り、必ず勝利の女神は君に、あなたにほほえみます。挑戦し続ける限り、戦いに敗けはありません。どうぞ自分自身を高め、無限に伸ばす工夫をして下さい。私自身もやっ

山間の自然に囲まれて

第四十一回卒 山崎 稔

四国へ来て二年が過ぎました。高知県越智町でダム工事(桐見ダム)に配属されております。卒業後、会社に入り十年目になりましたが、ずっと関西方面にいました。街の灯が恋しくなることがたびたびあります。でもダムがビルの谷間に出来たことがあるかな? きつとないぞと自問自答。納得して山間の町で自然に囲まれたのびのびと頑張っております。社会へ出て十年、やっとな経大での四年間の貴重な時間がわかりかけてきたこのごろです。先日、庭球部顧問の杉浦先生の御逝去の報を新聞で知り寂しく思っております。

澱江が唯一のつながり

第四十一回卒 米沢 茂郎

卒業してはや九年がたちました。毎年、秋に「澱江」をいただくたびに学生の頃を思い出します。今、私にとっては「澱江」が母校との唯一のつながりになっています。

現在の勤務は区役所の窓口で区民と対応している毎日です。私の職場には母校の同窓会があり、案内をいっつもいただくのですが欠席ばかりで申しわけなく思っています。クラブ活動で母校の名前が出るとやはり気になります。野球部の関西六大学優勝は嬉しかったです。その

三十半ばにしてこの事に目覚め、感動とともに毎日を送らせて頂いております。今からが勉強です、これからはが修業です、とくり返しくり返し自らに言いかけ、自分の内に潜在(ひそんでい)している能力、未開発の可能性を掘り起そうと日夜謙虚に自省致しております。

三、大変貴重な資料となります。ご苦心に感謝するとともに、このせつかくのデータを単に資料で終らせることなく、是非とも生かして使って欲しいと思います。それぞれの立場で役に立てて下さい。今後とも活力あふれる澱江の編集を期待しております。最後になりましたが編集部の皆さん、いつも本当にお世話さまです。また、今回選んで頂いたことに感謝しています。

推理小説二十年

第三十八回卒 山本 幸一

私は推理小説が好きである。その読書歴は約二十年になる。和歌山の自宅から大阪のオフィスまでの往復二時間半の通勤はもろろん、休日も大半を読書で過ごしている。年間百五十冊以上は読んでいます。女房が、また、私以上に推理小説が好きである。犯人がわかった箇所が付箋つけて置くと、後で読んだ女房が「私の方がもっと早くわかったわ」とか「あんな箇所がよく犯人がわかったわね。貴方は推理じゃなくて

あとの大会は残念でしたが……。これからも澱江を楽しみにしています。

一年から目的をもって

第四十一回卒 松原 誠二

一、現在、一般国道の指定区間内国道(建設省が直轄で維持管理している区間)の占用に関する行政を行っている。母校から私の知る限りでは二人の後輩が四国にいる。現在私は占用係長という官職にいる。倉辻ゼミの都市化社会の問題とその政論というテーマにはあまり直接的に、関係ない仕事であるが、もう少し広範囲な視野で勉強すれば良かったと思

二、私自身、目的を持って勉強したのは大学三年後期からであるが、一年から目的をもって勉強することを後輩に望む。

三、同窓生アンケートについてのPR不足というのには同感でありますが、なにより学生自身もっと自信を持つべきである。

四、母校のますますの発展を期待いたします。



想像でしよう」と憎まれ口をたたくのである。とにかく、夫婦そろって推理小説が好きなのである。卒業後十二年、何百冊の推理小説を読んだことか!。今後も続きそうである。

体育クラブの健闘を

第三十八回卒 三宅 博

一、五十七年十月十日結婚。五十八年七月二十八日、長男誕生。五十八年十二月新居完成。  
二、剣道部に在籍していた関係上、体育会の活躍が目がゆきます。野球部の記事はよく目にしますが、他のクラブも頑張って新聞に載って欲しい。

母校の発展を祈ります

第四十回卒 梅村 進

昭和四十九年、第四十回卒として卒業し、はや十年が過ぎ去ってしまいました。私、卒業と同時に、地元相互銀行に入行し、銀行員生活を送っておりますが、父親の急な死去により家業の食料品、雑貨の小売業を継承しまして、もう六年になろうとしております。何もわからずに仕事を引き継いだ頃に比べて、商売の難しさがわかりかけ、頭を悩ませている毎日です。

昨年、上新庄近辺を訪れましてその発展ぶりに驚かされました。青春

シカゴの夏を満喫中

第三十五回卒 平林 祥雄  
第三十四回卒 K(朝岡)勝子

同窓の皆様におかれましては如何お過ごしですか。  
私は、現在、アメリカの中西部経済圏の中心地、シカゴで長い冬の後にやっとな美しい緑一杯の初夏を満喫しております。シカゴと一言で申しあげても、皆様にはかつての暗黒の町、マフィアの抗争のイメージが強く焼きついているだけという方もおられると思いますが、現在では、ニューヨークに次いでロスアンゼルス、サンフランシスコの方がむしろ危険といわれており、大都会の割には治安は良い方だと思います。



四年前に、仕事の関係(勤務先 株式会社海外営業本部)でアメリカに参りまして、カンザスシティからセントルイス、それからシカゴと、それぞれ全く異なったムードの町を経験しておりますが、この町の良い面は、夏の湖と高層ビル、湖岸沿いの木々の緑が綾をなす変化の都会美、西海岸の人々の陽気さとまた違った、とても暖い人間性等々……色々あげることが出来ます。でも冬の厳しさだけは全

時代を過ごしたなつかしい母校の発展を心から願ってやみません。

関六優勝に感激

第四十一回卒 千代 博

澱江いつも楽しく読んでおります。一、私、昭和五十年に卒業し、早や九年になりました。会社でももう中堅クラス。責任も重くなり、そろそろ自覚しなければと思う今日この頃です。

二、関六で優勝し、全国大会へ出場できたときは大変感激しました。そして、一回戦の相手が島根大、ラッキー一回戦いただきと思いましたが……。どんな相手でも油断してはならないものですね……。



く別で一寸一言ではいい表わせません。例えば、暖房が完備してホカホカしている室内でも、二重窓のアルミサッシに二センチ位の厚さでビッシリと氷が結晶して凍りつき、手でもあてようなら、引っ付いて離れなくなる程です(部屋の内側がですよ……念の為)。戸外では、零下30度位まで下っていますので目と口の部分だけを出した覆面をしていても五分も外にいれば冷たさで目がチカチカして涙があふれてくる始末です。勿論、殆ど家の中か、車の中です。勿論、別問題は無いのですが、この頃は、日本の露天風呂が恋しくて恋しくてたまらなくなっています。  
ワーキングビザの関係で、妻は働くことが出来ず、毎日カレッジに通い、暇をみては、ステンドグラスの講習やテニス、スイミングと多忙な毎日を過ごしておりますが、自然に恵まれた国とはいえ、日本への恋しさは増すこととはあっても減ることはない様子です。今になって、大学時代に英文タイプよりE・S・Sに入ってもっと勉強しておけば良かったなどといっています。

国鉄全線乗車挑戦中

第四十一回卒 望月 秀樹

早いもので、卒業して満十年になります。松村先生ならびにゼミの同期のみなさんお元気ですか。

郵便局に就職し、京都の研修所に一年いた以外は明石、高砂と郵便内務業務を行っています。経大出身の先輩、後輩も活躍中です。私が所属している課に十三名いますが、十年たつて気がついたら上に六名、下に六名で中堅と呼ばれるまでになりました。

大学に在学当時は、学校と自宅を往復の毎日、今になって思うと、サークルやクラブなどに所属して活動していたらもっと大学生活が楽しめたと思っています。

いまだに独身で、それを利用して、一人きりままに、趣味の日本国鉄全線乗車挑戦中です。全線約二万キロのうち未乗車線区も約二〇〇キロとなり、今年中には達成したいと思っています。

卒業してからは同期生たちともあまり会わなくなりましたが、私自身元気ががんばっていますのでご安心のほどを……。

最後に、母校の今後の発展をお祈りします（ときたま新幹線の車窓から母校をながめてなつかしんでいます）。

選手権出場は立派

第四十二回卒 玉出 真人

六月十三日、大経大が全日本大学選手権で残念ながら負けました。ニュースを観ながらこれを書いていきます。負けたとはいえ、選手権へ駒を進めるまでの活躍は立派でした。

さて、私の近況ですが、卒業して三年間は広島にいましたが、転勤で今は愛知県蟹江に住んでいます。

学生時代はいつも出歩いていたのに、だんだん出無精になりました。ただ年賀状の友人達とは、一度機会を見つけて会いたいと思っています。

司法試験取り組み中

第四十二回卒 伊達 正二

私は、マルオ被服(ビッグジョン)入社以来九年間、コンピュータ室でシステムエンジニアとして勤務してきましたが、三年前に総務課へ配属されました。それまでは労働・社会保険については全く白紙だったので早く一人前の総務マンになれるように勉強の目標を社会保険労務士、行政書士におき頑張り、昨年それぞれが二回目で合格できました。そして、今は法律に興味があくと同時にふりがつき、人生後半に向けての長期目標を司法試験、司法書士に向けて取り組んでいます。何分、経大には法学部が無いので、その道の友人を

捜すことは困難なので、目下、独学で孤軍奮闘しています。もしその道

の先輩、同志の方がおられましたらアドバイスを宜しくお願いします。

毎日が勝負の連続

第四十三回卒 山城 正嗣

五十二年卒業後、五年程サラリーマン生活を送り、三年程前に故郷の尾鷲に帰り、家業の魚問屋を継ぎがなばつております。魚といっても、尾鷲は、かつお、主体の水揚げとなっており、朝八時のセリ市までに各地の水揚量、各卸市場の市場価格などの情報を収集し、それに魚自体の鮮度を自分の目で判断し、それらを総合して入札するという、毎日が勝負の連続です。きびしい世界ですが、やりがいのある仕事とはりきっております。

各クラブの現況を瀬江に

第四十四回卒 井上 康幸

野球部関六優勝おめでとうございませう。いつの日か学生日本一を我が経大の手に!!

同窓会役員ならびに編集部の皆様、日頃のお世話ありがとうございます。私も卒業してもう六年の年月がたちますが、経大の各クラブの活動ぶりを新聞等で拝見し学生時代を振り返っております。また、私の所属しておりましたアメリカ民謡研究会の年二回の定期コンサートの招待状を毎年いただき、なつかしい経大の芝生での練習風景が浮び、戻れるものなら戻りたい心境です。

「瀬江」に一つお願いがあります。それは各クラブ(体育会、芸術会、学術会、同好会、愛好会)等の現況の連載の希望です。たとえば、体育会の××部が関西学生リーグの何部の何位で活躍しているか、ということ。知らせて欲しいと思います。

経大の一層の発展を

第四十四回卒 津木 満史

以前にも瀬江に掲載させていただき今回も驚いております。

現在、神戸市にある東灘高校で事務をしています。本校から毎年卒業生が経大にお世話になっております。卒業して六年、学生時代が昨日のように思い出します。ゼミの稲原先生、

応援して下さい!!

「三十日、ドラフト外で大阪経済大学・原田 要捕手(三) 178センチ、74キロ、右、右、右の入団を内定した。契約金1300万円、年棒300万円(毎日新聞、一九八三年(昭和五八年)二月一日(木曜日、一面)、プロ野球だより、より転載)と毎日新聞が報じたように、本年卒業の原田 要君がセントラル・リーグ所属のヤクルト・スワローズに入団しました。

おそらく大阪経済大学からプロ野球界に入団したのは、彼が最初だと思います。一日も早く一軍入りをして活躍することを、同窓生として祈念します。応援して下さい。(文責 事務局)

札幌に転勤して一年

第四十七回卒 桑村 彰

卒業してから早いもので四年目になります。体育会本部十八代目の桑村です。

卒業と同時に仙台に着任して二年半、それから札幌に転勤して約一年、だんだん北国の生活にもなれてきました。

やつと半人前に仕事が出来る様になつてきた私ですが、時々学生時代を思い出しながら、生れ育った関西と違った北国で、見るもの、聞くものが全く新しく、新鮮な気持ちで(長男でありながら少々親不幸しております)経大健児の名に恥じぬ様日夜一杯頑張っております。

卒業以来、遠隔地に赴任しておりますので、大学には随分御無沙汰致して申しわけありません。

道内に於ては、関西地方の運動部成績はあまり新聞にも掲載されませんので、体育会本部より送付される戦況報告で知らされるくらいです。早く全国制覇するクラブが現れて、新聞紙上を賑わす事を心より祈っております。

大変御世話になりました先生方、先輩、同期、後輩の方々元気でいらつしゃいますか。北海道にお立ち寄りの際はぜひ御一報下さい。機会をつくって一堂に会し、なつかしい酒をくみかわしたいものです。

各種資格、免許取得中

第四十五回卒 塩見 薫

当地に転勤して来てから三年が過ぎました。先日、大型自動車、けん引免許を取得し、入社以来取得した資格、免許が大型特殊自動車、クレーンなど、年に一つずつくらい増えていきます。

「男は死ぬまで勉強」とはよく言つたもので、在学中よりよく勉強しています。経済大学で学んだ事はかけはなれていくようですが、現在の自分に二応満足しています。

母校の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

広報活動に期待

第四十五回卒 山本 真義

一、今年十月に開催される「わかき国体」の準備等のため忙しい毎日をお過ごししています。わが当麻町では、少年女子バレーボール競技が開催されます。

二、広報媒体をフルに活用し、我が経大をもっと広く周知されることを希望します。また、学部の増設等

がんばっています

第四十六回卒 本多 輝夫

一、とにかくがんばっています。二、母校のより望ましい発展と、後輩の諸君にはくれぐれも体を大切に、一日、一日を大切に生きてほしいと思います。

三、各世代間の違いがよくわかり、大変参考になりました。

四、世界各国に諸先輩もおられますし、全国にも、先輩、後輩、諸先生がおられますので、皆で力を合わせてゆきたいと思っています。



同窓生アンケートに興味

第四十七回卒 加藤 雅夫
母校を卒業してからはや三年の月日が過ぎました。現在、私は岡山公共職業安定所で雇用保険給付の仕事をしております。毎年届く「澱江」を見て、楽しかった学生時代の事を思い出しています。その十九号には同窓生アンケートのつており、特に興味深く読ませていただきました。私も多くの同窓生の方々と同様、母校の発展を願っております。世の中はまだ不景気が続いておりませんが、学生の皆さんには自分に合った一生の仕事が見つかるように祈っています。

住所 岡山市富町一八八一三
岡山公共職業安定所

職場社会よりきびしい大学生生活を

第四十八回卒 西村 徹

経大卒業後、地元の役場に勤め財政係を担当しています。財政係の仕事は、細かく、複雑な仕事で、日々の残業につかれ気味ですが、新しい役場庁舎を建設することになり、それに向けて頑張っています。私は大学時代に職場よりきびしい学生生活を送ろうと思っていました。が、職場はもつとどろどろしてきびしいものでした。大学というところは人生で一番自由を持てる場所であり、本人の努力しだいではたいへんな可能性をもつたすばらしいところ。どうか目標を早く定めて、

自分自身を律し、職場よりきびしい大学生生活を送って下さい。

神宮の森で経大応援歌

第四十八回卒 森山 剛正

四年前の関六昇格、優勝、明治神宮大会出場の記憶も徐々に薄れかけていた頃、全日本大学野球選手権出場のお知らせを後輩より受け、仕事の都合をつけて神宮球場に顔を出しましたが初戦で敗退。しかしながら、四年振りに神宮の森に響き渡った経大の学歌、応援歌を聞いて当時を思い出し、気持ちを新たにしました。東京暮らしも二年になりましたが、硬式野球部の仲間はいつ会っても良いものです。OB諸兄の御活躍を御祈り申し上げます。



自分に合った道を進行中

第四十九回卒 前川 晶英

一度職場を変わり、今、工員として働いています。人生いたるところに青山あり、で、この道も奥が深く、また、自分に合った仕事です。母校の名を汚さないよう、後輩も自覚をもって下さい。

やっと先輩に

第四十九回卒 勝田 洋

社会人になって早くも一年が過ぎ、新入社員を迎えて、ようやく先輩と呼ばれる身分になりました。ただ、販売業という仕事柄、労働時間、休暇などの面できつい面が多いです。

気を引きしめて

第五十回卒 近藤 尚史

卒業してまだ二カ月しかたつていませんが、学生生活がなつかしいです。私は運よく公務員になりましたが、公務員に対する風あたりのきつい現在、気を引きしめてがんばっています。河川管理課に配属されましたので法律を覚えるのに一生懸命です。もし、公務員になろうと思っている人は、公務員(国家・地方)の職務、採用状況を総合的に研究して、いろいろ受けるのではなく、二つぐらいに絞って勉強し、また、現に公務員になっている人からいろいろと話を聞く



べきだと思えます。私ももつと勉強し、話を聞いておけばよかつたと思つています。最後に大阪経済大学の繁栄と、後輩達が就職戦線に生き残れることを祈ります。

同窓会支部役員

- |         |           |       |           |       |           |
|---------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|
| 東京支部    | 支部長 鮫島 圭  | 岡山支部  | 支部長 村上 一夫 | 徳島支部  | 支部長 横田 憲介 |
| 東海支部    | 支部長 加藤 正秋 | 広島支部  | 支部長 佐々木一義 | 丹有支部  | 支部長 梶村 文弥 |
| 岐阜支部    | 支部長 坪内 敏男 | 山口支部  | 支部長 串田 一  | 奈良支部  | 支部長 松本 孝之 |
| 滋賀支部    | 支部長 野田 邦弘 | 北九州支部 | 支部長 嶋原 正孝 | 三重支部  | 支部長 水上 敏夫 |
| 京都支部    | 支部長 阿部 淑子 | 南九州支部 | 支部長 宮田順一郎 | 泉南支部  | 支部長 中川 克己 |
| 大阪市役所支部 | 支部長 金子 昭典 | 福井支部  | 支部長 内田 甫  | 和歌山支部 | 支部長 松本 旬弘 |
| 西宮市支部   | 支部長 八木 米次 | 石川支部  | 支部長 柚木 繁  | 鳥取支部  | 支部長 亀井 寛  |
| 神戸支部    | 支部長 町田 達治 | 富山支部  | 支部長 重松 尚  | 島根支部  | 支部長 渡辺弘一郎 |
| 東播磨支部   | 支部長 永井 宏  | 香川支部  | 支部長 和田 憲明 | 北海道支部 | 支部長 田中喜三郎 |
| 姫路支部    | 支部長 永川 仁一 | 愛媛支部  | 支部長 小野 茂樹 |       |           |



新しく発行予定の「同窓会会員名簿」を、より正確に、より充実したものにすることを目的として、協力下さい!!

来年度は同窓会会員名簿発行予定年にあたります。来年度の理事会において会員名簿発行が可決されましたら、限定出版いたしますので、より正確な、より充実した会員名簿の発行に会員の皆様のご協力をお願いいたします。

**居所不明者の減少にご協力を!!**  
「澱江」がきたか、を合言葉に

同窓会機関誌「澱江」は、毎年一回、十月中に会員の皆様へ届くようになっております。

もし、この期間内に「澱江」がお手許に届かなかつたときは、同窓会本部のコンピュータは、その会員を「行方不明者」として処理しております。

同期生会、ゼミOB会、クラブOB会の会長・幹事の皆様、また、各回理事様、各支部長・事務局長様、さらに同じ職場で活躍の皆様、その他個人的に親交を持っておられる会員の皆様各位にお願い。

「澱江」がきたか……を合言葉にして下さい。そして、「いや、まだきてない」といわれる会員の方が、

おられましたら本部へ一報下さい。ご協力をお願いします。

**異動があつたときは**  
ただちにご連絡下さい。

名簿の正確性維持につきまして、従来とも「澱江」誌上のご協力をお願いしておりますが、昨年も約六〇〇部を越す「澱江」が「転居先不明」「該当者見当らず」などの理由で返却されてきました。これは「澱江」の郵送料が一部二四〇円かかりますので約一五万円の経費の浪費を意味します。

◆住所変更 ◆呼称変更  
◆勤務先変更 ◆所属部課  
◆役職異動 ◆電話番号変更  
などの諸変更がありました時は、同封してあります「名簿作成調査票」をご利用のうえ、本部へお届け下さい。

特に、官公庁、金融機関、損保関係、国立学校にご勤務の会員のご協力をお願いいたします。

**「名簿作成調査票記入について**  
(同封ハガキ記入についての注意)

同封しております名簿作成調査

票へ返信用ハガキ(受信人払い)にご記入のとき、特に、左の事項についてご留意下さい。

一、記入前に「注意事項」をお読み下さい

二、⑧の現住所は正確にご記入下さい。たとえば、

(1) マンションにお住いの会員の方は、××マンション

×号棟××号室

(2) 自宅にお住いの会員の方は(株)××あるいは××(株)××寮××号室

(3) 勤務先を現住所としてお届け会員の方は

同社内とせず(株)××あるいは××(株)内と勤務先名を必ず明記して下さい

三、①のその他の住所は、万一、転勤、転居、その他の事由により、発送した「澱江」が万一「転居先不明」「該当者見当らず」の付箋がついて事務局に返送されてきたときに会員の皆様の新しい現住所あるいは勤務先を事務局がお尋ねできるところをご記入下さい。

たとえば、親元、親戚、兄弟姉妹などの住所を意味します。

名簿のより正確性と、「澱江」郵送料の浪費軽減にご協力をお願いし

ます。

**近々北摂支部の発会**  
本誌の「支部だより」欄でご覧いただきましたように、現在、全国に三〇の支部がございます。

本誌が会員の皆様へ届くころには

三一番目の支部、北摂支部(高槻市を中心とした支部)が発会して支部の仲間が増えていると思えます。

**大阪地区支部設置について**

さて、北から南からでもご意見が出ていますが、本部の所在する大阪には、まだ支部の結成をみておりません。大阪に支部を設置することは、本部の永年の念願でございますので、会員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

**徳島支部再建について**

次に、故谷俊一郎氏の遺志を引き継いでいただける会員の方、本部ではどのような協力でもいたしますから、お申し下さい。

また、適任者があれば、本部へご推薦下さい。お待ちいたしております。

**滋賀支部再編成について**

## 昭和59年度 同窓会総会へのご案内

●とき●  
11月3日(土) 祝日  
(午前10時30分～受付)  
午前11時 開会

●ところ●  
大阪梅田  
新阪急ビル12F  
レストランパレス  
ラ・クール

●参加費●5,000円  
※当日は、「簿記会計研究部OB会」「ハンドボール部OB会」の総会が懇親会の後に同所で開かれます。

滋賀県の支部は歴史としては古い支部なのですが、滋賀県といいますが、彦根も滋賀県であり、大津も滋賀県であり、これを一支部として把握することは困難だと思えます。そのためか、現在、滋賀県支部は活動を停止しております。滋賀県在住の会員の皆様、ご意見をお聞かせ下さい。

**その他支部組織化にご協力を!!**

会員数が年々約二〇〇〇名ずつ増加してゆくに従いまして、その増加数の多いところ、あるいは、同一府県でありながら、東西・南北に長いため、支部がありながら支部活動に参加できないという、不満をお持ちの会員がられることと思えます。

会員数の増加に伴い、既成支部を細分化して、会員同志のより緊

密な連絡と融和を図るためにも、また、母校のより一層の発展と同窓会相互の連帯を高めるためにも、より一層のご協力をお願いいたします。

なお、これらの件に関しまして、ご意見などお聞かせいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

**「コンピュータシステム」名簿をご利用下さい**

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

- 一、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
  - 二、ゼミ別会員名簿作成
  - 三、卒業回数別会員名簿作成
  - 四、クラブ別会員名簿作成
  - 五、業種別会員名簿作成
  - 六、封筒用漢字ラベル作成
- などのアウトプットが可能です。

事務局では原則として、毎年十月上旬に一回、インプット(会員名簿の修正事項)とアウトプット(各支部別、ゼミ別用原簿と澱江発送ラベルの打ち出し)を行っています。

会員の皆さん、大いにご利用下

さい。ただし、この十月上旬以外のご用命につきましては、正式に費用見積をして実費をいただく予定でありますのでご了承ください。

**同窓会総会を有効にご利用下さい**

同窓会総会のパーティー終了後、××OB会総会を開催されているクラブ(部)があります。

本年も、簿記会計研究部OB会が、また、ハンドボール部OB会総会も開催されると聞いております。万一、このようなご希望がございますしたら事務局までお申し出下さい。別室を準備いたします。なお、詳細については事務局にお問合せ下さい。

**同窓会の雑収入(物品売上げ)にご協力を**

●好評の文鎮がまだ少しあります。

同総会で製作いたしました文鎮がまだ少し残っています。

飾りにもよく、机の上においたり、子供さんの習字用にも好評。一コ、五〇〇円です。(送料本部負担)



●経大マーク入りキーホルダーはいかがですか。  
経大マーク入りキーホルダーは特に若い人には「カッコイイ」と好評です。ぜひお買上げ下さい。

一コ、一、〇〇〇円です(送料本部負担)ご希望の方は折返しお申込み下さい。学生に好評です。から売り切れのおそれがあります。



●お申し込み方法  
同封の郵便振替か現金書留宛名 大阪市東淀川区大隅二一八

大阪経済大学同窓会事務局

残部僅少

55年度版

同窓会名簿



●一冊代金五、四〇〇円(送料込み)  
●お申し込み方法  
同封の郵便振替 現金書留  
宛名 大阪市東淀川区大隅二一八  
大阪経済大学同窓会事務局

# 自らの購読料で「澱江」を育てよう 一〇〇〇〇円にご協力を!

## 澱江の実情

澱江編集委員会では、かねてより澱江対策について審議し、同窓会本部に次のように提案しました。  
①澱江は同窓会機関誌として、唯一のコミュニケーションの場であること。  
②同窓生の九六・五%が毎年澱江を購読しており、「北から南から」(同窓生の動向)「学園だより」(大学の現状)の記事に多大の期待をよせていること。八昨年度実施アンケートより▽

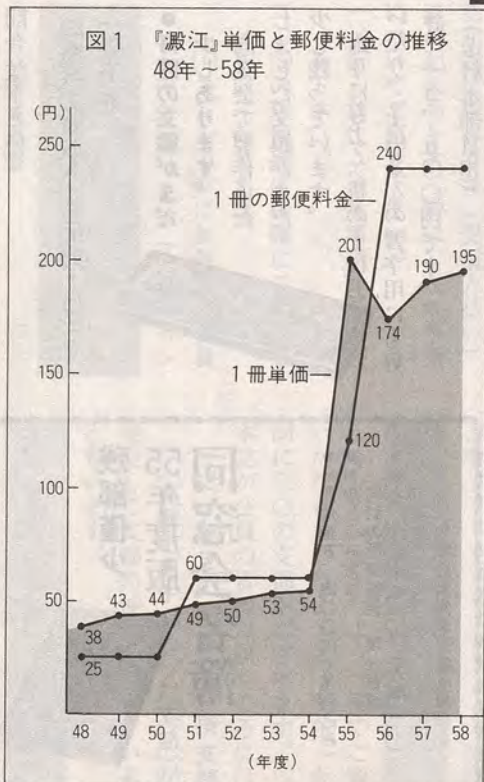
③記念事業の行われる当面の間、現在以上に力強く、内容の豊かな澱江にする使命があること。  
④印刷費の高騰、発行部数の漸増、郵便料金の値上げなどの理由で、澱江編集費が年々増大し、同窓会会計の収支がアンバランス症状を呈してきたこと。

⑤新入学生の通減により、会費収入漸減の見通しであること。

そこで、同窓会本部は従来からの学生納付による会費収入依存の同窓会体質から脱皮して、われわれ同窓生も自ら購読料を負担してより一層充実した澱江を育てて行くことと決意した次第であります。(注、本部だより参照)

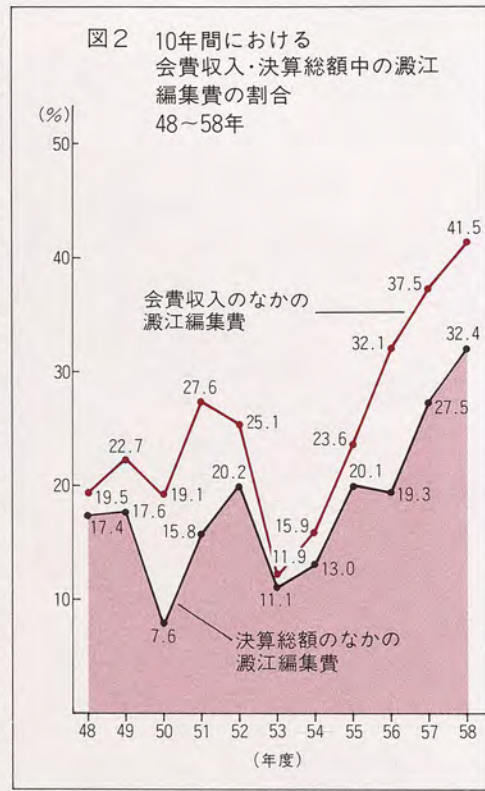
## 澱江を振り返って

過去十年間の澱江編集について振り返ってみますと、四十八年度の澱江一冊の単価は三十八円で、郵便料金が二十五円でした。これは先達、松本義和氏(18)編集による変形澱江のためで、二つ折にすれば定形料金で郵送でき、しかも献身的な手作業で印刷費を押えてこられたからでしたが、五十一年度には郵便料金が単価を越えてしまい、止むなく変形澱江も用紙の



## 編集費の見直し

次に昭和五十八年度収支決算書をご覧ください。一、二一〇万円の澱江編集費は、同窓会総決算額の約三二・四%を占め、学生納付の会費収入の四一・五%(図2)を費消しており、同窓会会計の収支アンバランス症を呈し、会費収



## 澱江の使命

せん。会費収入漸減と相まって、今後の澱江編集費を基本的に再考しなければならぬ時機に立至つたと申せましよう。

昨年創立五十周年記念式典・祝賀会を記念して、栄えある式典参加の喜びを全同窓生とともに分かちあえるよう、今二〇号は「式典号」特集としました。今後も記念事業、とくに記念館の建設や、それに伴う募金活動など、同窓会支部組織化、活性化をはかるための種々の記事を掲載して、今以上、同窓生の方がたに読みごたえのある澱江に、充実させる使命があります。

同封の「澱江購読料」一〇〇〇円の郵便振替用紙をご利用ください。

なお、昨年五八五、六〇〇円の浄財をご送金くださいました有志の方がたに、末筆ながら厚く御礼申し上げます。

## 1000円の購読料

この澱江の使命を達成するため、今年度から終身会費制としての会費収入とは別に、同窓生一人ひとりが自ら購読料を払って、澱江を育てて行こう。内容の充実を自ら作り出して行こうというこゝろになりまし。五十九年度の予算に最低見込額を計上いたしました。

以上、多々ご説明して参りましたが、同窓会本部の意図するところをお汲み取りくださいまして、よろしくご賛同を得たいと存じます。片や、記念事業のための募金計画も発表されることと思ひます。時節がご負担をおかけすることをご心苦しくは存じますが、何とぞ同窓会本部の意とするとご協力を程々に祈念いたします。

同封の「澱江購読料」一〇〇〇円の郵便振替用紙をご利用ください。

なお、昨年五八五、六〇〇円の浄財をご送金くださいました有志の方がたに、末筆ながら厚く御礼申し上げます。

## 編集後記

▼本号は母校の五〇周年記念式典・祝賀会特集号です。参加できなかった会員の方々へ当日の感激をお送りいたします。▼前号で掲載できなかった「キャンパスだより」と「北から南から」を復活。▼お世話になっている各クラブの監督さん。忙しい業務の傍ら、寸暇を惜しんでの後輩指導、深謝しています。今後、これら監督さんの抱負や、苦勞話などシリーズで掲載してゆく予定。ご期待下さい。▼本号より購読料をお願いすることになりました。ご賢察の上、ご協力をお願いします。▼全国津々浦々から玉稿をお寄せ頂き、ありがとうございました。(編集委員会)

## 澱江 1984

- 発行日 昭和59年10月20日
- 編集 澱江編集委員会
- 発行所 大阪経済大学同窓会  
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8  
電話(06)328-2431
- 印刷 凸版印刷株式会社  
〒553 大阪市福島区海老江3-22-61  
電話(06)454-3256

文責 事務局・澱江編集委員会

# 經 南

## 学 歌

作詞 秋本吉郎

作曲 柴田南雄

### 1. 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ

芽立つ葦原 緑が沁みる

この若さ

希望は明るい 蒼穹かけて

永遠の青春 みなぎる学園

大阪 大阪経済大学

### 2. 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ

学徒師弟が 幹負いもちて

諸汗に

確かと植えた 融和の象徴

繁れ自由の 花さく学園

大阪 大阪経済大学

## 学 園 歌

作詞 黒正 巖

作曲 水野康孝

### 1. 商都の東北<sup>でんこう</sup>灘江に 臨みて高く聳り立つ

我等が昭和学園は 産業日本を双肩に

担うて進む若人の 力の糧の広野原

### 2. 黒煙天をひた蔽い<sup>おほ</sup> 船車どよもす八衢を

静かに臨む学園は 科学日本の究明に

生命を注ぐ若人の 心の花の咲く園生

## 道 遥 歌

作詞 中村行男

作曲 松川圭一

### 1. 此处 城北に迎えたる

紺碧<sup>こんぺき</sup>淀の春の夢

惜春の賦のただよえば

薰風静かに流れ来て

逝きし苦節の十余年

歴史は吾等に教うなり

### 2. 水や濁れる人の世に

真理求めて遊ぶ子の

友愛久遠に変わるまじ

汝が悲しみに我は泣き

吾が喜びに君や舞う

惜みて励め我が青春を